

# 会 務 報 告

(平成 23 年 8 月～平成 24 年 7 月)

◇**診断病理サマーフェスト**：サマーフェスト委員会のもとで、平成 23 年 8 月 27 日（土）28 日（日）、京都大学にて「第 5 回診断病理サマーフェスト」が開催された（テーマ：脳腫瘍の病理と臨床）。254 名が参加し、うち 76% が病理、20% が放射線科、4% が脳神経外科等からの参加であった。

◇**日本病理学会カンファレンス**：研究推進委員会（世話人：中山 淳信州大学教授）のもとで、平成 23 年 8 月 5 日（金）6 日（土）、松本市のホテルプエナビスタにて「第 8 回日本病理学会カンファレンス」が開催された（メインテーマ：病理学におけるグライコーム研究）、86 名の参加があった。

◇**第 57 回秋期特別総会（平成 23 年度）**：昭和大学を世話機関として諸星利男会長のもとで、平成 23 年 11 月 17 日（木）～18 日（金）の 2 日間、日本教育会館にて開催された。特別講演 1 題、学術研究賞演説（A 演説）9 題、B 演説 2 題、シンポジウム 2 件 10 題、病理診断シリーズ 2 題、ポスターセッションの発表と討論が行われた。会期前日には、昭和大学主催のサテライトイベント、会期後には、IAP 病理学教育シンポジウム・スライドセミナーが開かれた。

## 特別講演（1 題）

Pancreatic neoplasmas and their different origins

Dr. Günter Klöppel (Department of Pathology, Technical University of Munich, Germany)

## 学術研究賞演説（A 演説）（9 題）

- (1) 廣瀬 幸子（順天堂大学大学院医学研究科分子病理病態学）：全身性自己免疫疾患の疾患特異性に関わる遺伝的要因の解析
- (2) 一宮 慎吾（札幌医科大学保健医療学部基礎臨床医学講座）：L シリーズ坑ヒトリンパ球抗体の有用性とその抗原系の解析
- (3) 清川 悦子（金沢医科大学病理学講座）：生きた細胞・組織における極性維持機構の解明
- (4) 西浦 弘志（熊本大学大学院生命科学研究科分子病理分野）：白血球生物学から見た急性炎症反応の終止機構
- (5) 関根 茂樹（国立がん研究センター研究所分子病理分野）：腫瘍発生に関わる  $\beta$ -catenin 変異とその生理的機能の関連
- (6) 柴田 龍弘（国立がん研究センターがんゲノミクス研究分野）：酸化ストレス制御を司る KEAP1-NRF2 システムのがんにおける異常と病態像との関連
- (7) 島田 啓司（奈良県立医科大学病理病態学講座）：膀胱尿路上皮癌進展にかかわる新規分子メカニズムの解析と病理診断への応用
- (8) 上野 正樹（香川大学医学部病理病態生体防御医学講

座・炎症病理学）：血液脳関門障害血管における分子メカニズム解明から血管性認知症の治療へ

- (9) 全 陽 (Institute of Liver Studies, King's College Hospital, London)：IgG4 関連疾患-疾患概念の確立と病態研究

## B 演説（応募順）

- (1) 浅野 重之（いわき市立総合磐城共立病院病理科）：野兔病の臨床的、病理組織学的、免疫組織学および分子生物学的検討—皮膚病性リンパ節症としての野兔病について—
- (2) 佐々木素子（金沢大学医薬保健研究域医学系形態機能病理学）：日本における肝細胞腺腫の臨床病理学的検討

## シンポジウム（2 件 10 題）

### 1. 慢性炎症下における組織リモデリング

- (1) 大池 信之（昭和大学）：慢性肺炎における組織リモデリング
- (2) 長田 道夫（筑波大学）：腎糸球体のリモデリングと分節性硬化
- (3) 別所 智子（慶應義塾大学）：肺構造の破壊とリモデリングにおける酸化ストレス
- (4) 今中 恭子（三重大学）：心筋のリモデリング
- (5) 木村 徳広、岡田 保典（慶應義塾大学）：関節軟骨のリモデリング

### 2. 分子標的治療時代における病理診断の対応

- (1) 藤原 康弘（国立がん研究センター）：分子標的時代における病理診断の対応：臨床的な展望
- (2) 長谷川 匡（札幌医科大学）：GIST および軟部腫瘍
- (3) 石川 雄一（がん研究会がん研究所）：肺癌の遺伝子変化・原因・予後と組織像の相関—組織像からどこまでわかるか
- (4) 増田しのぶ（日本大学）：分子標的治療時代における病理診断の対応：乳癌
- (5) 落合 淳志（国立がん研究センター東病院）：消化管癌（大腸癌と胃癌）における分子標的治療

## 病理診断シリーズ（2 題）

シリーズ 41 秋山 太（がん研究会がん研究所病理部）：乳腺腫瘍の病理診断

シリーズ 42 三上 芳喜（京都大学医学部附属病院病理診断部）：子宮頸部腫瘍の病理診断

○今後予定されている総会は、以下のとおりである。

- 1) 第 101 回（平成 24 年度）総会  
世話機関：慶應義塾大学  
会長：岡田保典教授

会 期：平成 24 年 4 月 26 日（木）～ 28 日（土）

会 場：京王プラザホテル

2) 第 58 回（平成 24 年度）秋期特別総会

世話機関：藤田保健衛生大学

会 長：黒田 誠教授

会 期：平成 24 年 11 月 22 日（木）～ 23 日（金）

会 場：ウインクあいち

3) 第 102 回（平成 25 年度）総会

世話機関：札幌医科大学

会 長：佐藤昇志教授

会 期：平成 25 年 6 月 6 日（木）～ 8 日（土）

会 場：ロイトン札幌他

4) 第 59 回（平成 25 年度）秋期特別総会

世話機関：山梨大学

会 長：加藤良平教授

会 期：平成 25 年 11 月 21 日（木）～ 22 日（土）

会 場：富士屋ホテル（甲府）

◇上記特別総会に関連して開催された理事会および総会について：平成 23 年 11 月 16 日（第 57 回秋期特別総会の前日）に日本教育会館にて理事会を，11 月 17 日には同会場にて総会を開催した。これらの理事会，総会では，理事長報告，各種委員会委員長報告を行った。

理事会では，第 102 回（平成 25 年度）総会宿題報告担当者，平成 24 年度名誉会員有資格者，平成 23 年度上期新入会員，“Pathology International”次期編集長，診断病理”次期編集長，口腔病理専門医制度細則，100 周年記念事業に関する件，“Pathology Interntional (PIN)”に関する提案，事務局職員退職給与案をそれぞれ協議して決定した。

総会では，平成 24 年度/25 年度役員選任の件，平成 21 年度 22 年度収支決算修正案，平成 23 年度収支予算修正案，平成 24 年度事業計画・収支予算案，100 周年記念事業に関する件，COI（利益相反）の件，一般社団法人定款案，新定款施行細則案，定款施行細則改定案，学術評議員定款施行細則および資格基準の件，事務局移転の件，第 59 回（平成 25 年度）秋期特別総会会長および第 103 回（平成 26 年度）総会会長について協議し，それぞれ原案のとおり決定した。

◇理事会：平成 23 年 11 月 16 日（水）の理事会には青笹克之，向井 清，寺田信行，上田真喜子，佐藤昇志，深山正久，橋本洋，覚道健一，加藤良平，黒田 誠，松原 修，本山悌一，根本則道，岡田保典，笹野公伸，白石泰三，山口 朗，安井 弥，吉野 正（以上理事 19 名全員出席につき理事会成立），諸星利男（第 57 回秋期特別総会会長），太田秀一（同 副会長）菊川敦子，大藪いづみ，宮本いづみ，井口令子（以上事務局）が出席し，青笹理事長の司会により議事を進行した。議事録に署名する出席者代表に覚道健一，本山悌一両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

(1) 4 月 30 日の総会において学術評議員の 65 歳定年制につ

いて承認された。平成 24 年 1 月 1 日から制度を施行する。それ迄にホームページ，支部のメーリングシステムを利用して会員に学術評議員 65 歳定年制の内容を告示することとした。

(2) 東日本大震災への義援金として，日本病理学会一般会計からの 500 万円を「日本病理学会」名で，100 回総会参加者からの募金を「日本病理学会会場募金」名で，100 周年記念事業からの 500 万円を「日本病理学会 100 周年記念事業」名で，それぞれ日本赤十字社に送付した。

(3) 新法人移行申請について

平成 25 年 4 月からの新法人移行について公益社団法人を目指すか，一般社団法人を目指すかについては，WG で検討した結果，一般社団法人申請の方向で移行準備を行うことが，3 月 28 日開催の理事会で承認された。総会では検討の経緯と選択の根拠が説明された。会員の方々に十分に理解をして頂くために，ホームページに一般社団法人選択の経緯，根拠を掲載した上で会員のご意見を頂くこととした。秋期総会では一般社団法人選択について会員の承認を得た上で，新定款案を提示することとした。

(4) 本学会一般会計については大幅な累積赤字となっている。この財務状況の改善のため，今後は毎月の支出に対して，事務局から財務委員長に「支出承認依頼書」を提出し，承認をうけることにした。

(5) 「日本病理学会 100 周年記念事業特別基金」プロジェクト公募の件

100 周年記念事業の約 2,300 万円の収支差額（情報管理ネットワークセンター運営費 5 年分 500 万円を含む）の使途としてプロジェクトの募集を行うこととなり，応募された 7 件のプロジェクトについて本年 10 月 21 日に 100 周年記念事業財務委員と病理学会財務委員よりなる合同委員会を開催し，5 件を採択した。なお募集は基金の設置が総会で承認されることを前提としている。

(6) 合同財務委員会で，「100 周年記念事業特別基金プロジェクト」の選定が行われ，応募 7 件の中から，5 つのプロジェクトが選ばれた。本プロジェクトの準備預金の配分比率なども含めた選定結果が，常任理事会で承認され，プロジェクト開始から 2-3 年後に中間報告の提出を義務づけることになった。その他関連する財務手続きは，上田財務委員長が担当することになった。

(7) がん取扱い規約拡大委員会では，各学会で刊行している規約の印税の分配，費用負担，編集方法について，向井万起男委員長と青笹理事長を中心に，関係学会，団体と話し合いを開始した。これまでに整形外科学会，産科婦人科学会，泌尿器科学会，脳神経外科学会，日本医学放射線学会と申し合わせ書に調印した。

(8) 厚生労働省ではがん拠点病院強化に予算をつけている。その一環として，病理専門医受験に必須の講習会受講者

の参加費用を補助する方向で検討がなされている。

(9) 「病理学会」の名前を使用した出版物について

① 現在「日本病理学会編集協力」として刊行している文光堂の「腫瘍病理鑑別診断アトラス」シリーズの内容については、学会で承認を得るシステムになっていないことから、今後の刊行分については、「日本病理学会編集協力」の文字をはずすことを文光堂に申し入れた。本年10月14日に文光堂より、今後の刊行分より病理学会編集協力の文字を削除すること、および病理学会としても協力費も受け取らないことについて「了解した」との回答がなされた。

② 「病理学会」の名前を使用した出版物を刊行する場合の、明確なルールづくりを企画委員会で進めている。

(10) 上田財務委員長より専門医試験の実施に係わる謝金・標本作製料、通信費、旅費、教室協力費等についての見直しをなされ、新しい基準が提案された。

(11) 病理専門医試験について

① 今年は83名が受験し、73名が合格した。合格率は88%である。

② 来年度の試験は名古屋大学を会場とし、7月最終土日に実施する予定である。実施委員長も内定している。

③ 口腔病理専門医試験は10名受験、7名合格であった。

(12) COI (Conflict of interest) 申告については、今春の理事会で正式承認されたため、COI委員会を設置した(委員長:伏木信次学術評議員)。委員会から提案された「医学研究のCOIマネジメントに関する指針施行細則」を理事会で承認した。来年4月より就任の新役員、委員会委員長からの申告書提出が義務づけられる。

(13) 精度管理委員会委員長より下記の報告があった。

① 精度管理委員会乳癌WGで実施したアンケート結果がまとめられた。

② 「HER2病理組織標本作製および病理診断のガイドライン」(乳癌および胃癌)を可及的速やかに完成し、学会としてのofficial recommendationとしたい。

③ 「精度管理委員会HP」を立ち上げる。

(14) 規定集見直しの件について

① 学術委員会と研究推進委員会の関係

② 「診断病理」は現在病理専門医制度運営委員会の管轄となっているが、編集委員会のほうがよいのではないか、また編集長の任期は現在5年だが、PINと揃えて4年のほうがよいのではないか、等について検討中である。

③ 編集委員会規定について向井理事より報告され、下記のような議論がなされた。次回常任理事会で再度検討を行う。

a. 診断病理は現在専門医制度運営委員会の下にあるが、編集委員会の下に入れることも考えられるのではないか。

b. 剖検輯報の委員長は、独自の規定で運営されている。しかしながらその刊行業務は膨大で、現在の日本大学にとっても相当な負担であることが想像できる。一つの大学に委任する現在の形には限界があり、将来的には事務局で担当することも含めて検討する必要があるのではないか。これについては向井企画委員長が担当し、まず、剖検情報委員会から現在の刊行システムについて、資料を提供してもらうこととした。

(15) 学術評議員資格について、WGを結成して検討した結果(責任者:向井理事)試案が示された。

(16) 専門医制度評価・認定機構より各学会に依頼のあった研修施設サーベイヤーについて向井理事をチーフサーベイヤーとして推薦した。

(17) 平成23年4月の財務委員会及び理事会で仮承認されていた平成21、22年度収支計算書の修正点について、上田財務委員長より説明があった。前回提示分は、本来特定資産である100周年記念事業特別会計を流動資産に合算していたため、その分の金額を一般会計赤字に上乗せし、総合計金額の辻褄をあわせるような形になっていた。今回はこの誤りを修正した結果、一般会計の累積赤字が21年度は約8,800万が約6,400万円に、22年度は約8,800万が約4,800万円となり、一般会計の累積赤字が約4,000万円減少することとなった。今後こうしたことがないように、顧問会計士と十分な対応策を検討することとした。

(18) 事務局長の給与について、新たに管理職手当(月額72,700円)を新設し、支給することとした。これに伴い、専門医試験や、総会時の休日出勤など、特別な場合を除いては、事務局職員への時間外手当の支払いは原則行わないこととなった。またこの管理職手当の支給は10月の給与より適用することとした。

(19) 学会事務所移転については、総会で会員の承認を得ることが前提であるが、100周年記念事業特別プロジェクトとして内定したこともあるので、上田財務委員長を中心にWGを設置し、活動を開始することになった。

(20) 学術委員会が開催され、第102回総会時の宿題報告担当者3名を選出した。あわせて第58回総会について、診断シリーズ担当者2名を選び、シンポジウムのテーマは黒田会長に一任した。

(21) 松田道行学術評議員の、持田記念学術賞受賞が決定した。

(22) 昨年に締結された日中病理学交流協定に基づき、10月22-23日杭州で開催された第17回中国病理学会に日本病理学会より3名が参加した。

2. 各種委員会委員長報告

(1) 企画委員会(向井 清委員長)

病理学会関連出版事業について(編集協力、監修など)は出版物に「病理学会編集協力」、「病理学会監修」などの名称を付ける際の基準がないために、今学会終了後、

- 企画委員長を中心に検討を行う。
- (2) 広報委員会 (岡田保典委員長)
- ① HPの更新は震災等の事情で遅れているが、来年1月中を目指して準備をしている。今後は英語版の充実にも取り組む。
  - ② Pathology International 各号の目次を e-mail で各支部へ配信する件について、進捗状況の確認があった。これについて、テストケースで特に支障がなかったため、近日正式に開始する旨、事務局より回答された。
  - ③ 会員の E-mail 登録率を上げ、将来的には本部事務局から一括で E-mail 連絡が可能な環境を目指したい。
- (3) 財務委員会 (上田真喜子委員長)
- ① 専門医試験会計について、「問題作成料」「謝金」を整理し、試験実施委員長7万円、実施委員5万円とした。標準作製料は従来の規定を踏襲する。また、教室協力費は従来通り5万円とするが、その支払いは教室寄付金等公的な支払い形式をとる。
  - ② 支部会計と本部会計の合算については各支部から平成22年度収支決算書および財産目録の提出をうけている。これをもとに、木村会計事務所より合算に向けた平成23年度支部収支計算書のひな形案が提示された。今後検討する。
  - ③ 明日の総会で協議される収支予算案は、支部会計合算前のものである。2月頃までに各支部に平成24年度予算をたてていただき、それを合算したものを、4月の総会で平成24年度予算修正として承認してもらう予定である。
  - ④ 専門医部会費の値下げについては継続して審議を行う。
  - ⑤ 事務局会計については、会計ソフトを導入するなど新しいシステムへ移行するべく、総会後に会計事務所と事務局で打ち合わせを行う予定である。
  - ⑥ 本山東北支部長より、東北支部でも支部会の開催などにあたり、「教室協力費」をだしているが、その金額について、何か規定や、申し合わせがあるのかについて質問された。これにつき、上田財務委員長より、特にそういったものはないが、領収書のとりおきはきちんと欲しいこと、できれば教室寄付金等の形で正式な手続きを踏んで振り込んで欲しいと返答された。
- (4) 学術委員会 (佐藤昇志委員長)
- 「病理学会座長候補参考リスト」については関係委員約60名に協力頂き、来年度にむけ改訂作業中である。若手の登用、キーワードの充実を目標としており、昨年から61名が追加され、769名がリストにあがっている。この後事務局が確認作業をし、2月の理事会までに完成させる。今後もメンテナンスを継続し、より充実したリストにしたい。
- (5) 研究推進委員会 (安井 弥委員長)
- ① 第8回病理学会カンファレンス「病理学におけるグライコーム研究 — 神経・筋、感染症、がん、再生医学 —」8月5日(木)～6日(金)が、信州大学 中山 淳教授を世話人に松本市のホテルブエナビスタにて開催され、盛況であった。より一層の若手参加者の増加が課題である。
  - ② 第9回病理学会カンファレンスは2012年8月4日(金)～5日(土)に山口大学 池田栄二教授を世話人にホテルニュータナカ(山口市)にて開催する。テーマは「血管生物学から挑む疾患病態解析 — がん、炎症、循環障害、再生医学 —」である。
  - ③ カンファレンスについては9回目を迎えるにあたり、その意義や、開催準備などをあわせてガイドラインを作成する。
- (6) 編集委員会 (覚道健一委員長)
- ① “Pathology International” の編集業務は順調である。2011年1-10月の投稿数は267編、2010年の採択率は国内56%、海外20%、Impact factor 1.481であった。
  - ② 診断病理の編集業務も順調である。
  - ③ 剖検輯報は現在第53輯のデータを収集しており、順調である。来年度の文科省科学研究費補助金にも応募している。
  - ④ PIN および「診断病理」の編集長交代時期で、公募がされた。次回に向けて、応募書類の統一書式について検討したい。
- (7) 病理専門医制度運営委員会 (深山正久委員長)
- ① 病理専門医資格審査委員会(黒田委員長)が11月7日に行われ、第4回認定、試験認定第4、9、14、19、24回の専門医の更新に関して審査した。異年度審査対象者(専門医資格復帰申請者)13名を含む393名のうち、382名の更新が認められた。病理業務記載のない1名、単位不足3名、証拠書類のない者7名に書類の提出をお願いしている。
  - ② 更新の条件を満たすことが出来ない場合は、「更新保留者」となり、資格は一旦停止となる。条件をみれば、年1回更新の申請が可能であるが、その保留期間を3年までにすることが、委員会から提案された。本理事会でこの件を審議し、これを了承したが、十分な広報と専門医への周知の必要性が確認された。
  - ③ 病理専門医施設審査委員会(清水委員長)が第34回認定施設及び登録施設に関する審査を11月2日に行った。認定施設については、A認定1件、B認定6件、登録施設については23件の申請を認めた。
  - ④ 病理専門医研修者に研修手帳の配布を行うこととなっているが、内容の改訂とともに研修要綱の改訂を進めている。秋の学会終了後、申請の受付を開始する。手帳の配布は来年2月を予定している。
  - ⑤ 来年度の病理専門医試験は平成24年7月28、29日に

名古屋大学で行われる。なお、平成25年には病理学会が札幌で6月に開催される予定である。このため、剖検講習会が専門医試験受験申請締め切りの後になる。また、最近開催時期がゴールデンウィーク近くとなるため申請締め切りぎりぎりとなる。このため、病理研修者には、余裕をもって受験前年までには剖検講習会を受講するよう、勧めていただきたい。

- ⑥ 平成23年10月13日に厚生労働省は「専門医の在り方に関する検討会」を開始した。月1回のペースで検討会を開催し、平成24年夏ごろに中間報告を取りまとめ、平成24年度内を目標に最終報告書の取りまとめを行う予定である。「医師の質の一層の向上、偏在是正」が目標ということであるが、現在の社団法人「日本専門医制評価・認定機構」に代る第三者機関の設立を目指しているようである。これに関連して、機構側では専門医研修施設の訪問調査を全国的に実施する計画を立てており、各学会にチーフサーベイヤー、サーベイヤーの推薦を依頼してきた。常任理事会で、チーフサーベイヤーに向井清副理事長を、また各地区サーベイヤー1名ずつ7名の方を推薦している。
- ⑦ 専門医部会の活動を充実させる必要性について深山部会長より問題提起がされ、部会誌「診断病理」ならびに部会報の充実、支部活動との連携など、活動全般に関して委員会で意見交換を行った。
- ⑧ ⑥のいずれの機関も学会にかわる専門医の認定母体を目指すものであるため、経過に注意して見守りたい旨、青笹理事長より発言された。
- ⑨ 向井理事より、東日本大震災の影響で剖検数が減少する施設があった場合、施設の認定、専門医受験申請等に関して、何らかの配慮がされるか質問があった。これに対し、深山委員長、黒田資格審査委員長より、状況が確認出来次第、柔軟に対応を考えたい旨回答された。
- (8) 医療業務委員会（根本則道委員長）より各関係委員会からの報告が述べられた。
  - ① 社会保険委員会（稲山嘉明委員長）  
平成24年度の診療報酬改訂について、未収載4件、既収載8件の12件を学会要望とし、その第1位は病理診断管理加算とした。
  - ② コンサルテーション委員会（森谷卓也委員長）  
東日本大震災以降休止していたコンサルテーション業務について年明けを目途に再開予定である。
  - ③ 精度管理委員会報告（鬼島 宏委員長）  
乳癌の免疫染色に関する精度管理システムの確立が進行している。HER2病理標本作製・病理診断ガイドラインを作成（乳癌、胃癌）し、HPに掲載する予定である。
  - ④ 剖検・病理技術委員会報告（柳井広之委員長）

病理標本の保存期間について、日本病理学会からの提案を作成したい。様々な事情を考慮した上で、目安の数字を提案する予定だが、基本的には各施設可能な範囲で長期間保存することが前提となる。

- ⑤ 病理診断体制専門委員会報告（佐々木毅委員長）  
診断業務に関する施設からのアンケート回収と解析が進行中である。
- ⑥ ④の件につき、本山理事より、国立大学病院病理部会議でも検討されたことがあるので、その際の資料を提供することも可能な旨、発言があった。
- (9) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）
  - ① 平成23年度口腔病理専門医資格更新審査について、15名の申請があり、14名の更新を認め1名は書類一部修正を条件に認めることとした。
  - ② 口腔病理専門医研修カリキュラムと研修手帳の準備を進めている。
  - ③ 平成24年度口腔病理専門医試験委員長、実施委員長、実施委員を決定した。
- (10) 教育委員会（本山悌一委員長）
  - ① 病理コア画像の利用状況調査に基づく今後の方向性について、教師に教材を提供するという目的においては予想以上の役割を果たしていると思われるので、今後もブラッシュアップ、入れ替えに努めていくのが望まれる。また、学生の利用は必ずしも多いとは言えないが、病理学会のHPを見ている時に病理コア画像の存在を知り、利用するようになった学生が多くを占めているので、HPの魅力を高めることも重要と考えられる。
  - ② 医学教育学会より、基礎医学振興のための集会を解剖、病理、生理、生化等の学会とともに開きたいので病理学会からも代表を出してほしい旨、委員長宛に依頼があった。この件について、本山委員長より、理事長宛の依頼として、再度書面をお送りいただくので、検討していただきたいと発言された。青笹理事長もそれを承諾し、常任理事会等で審議することとした。
  - ③ ①の病理コア画像作成については、病理の教育、普及に貢献する素晴らしい事業と実感させられる事が多いので、今後も継続して充実に努めて欲しい旨、青笹理事長より発言された。
- (11) 国際交流委員会（笹野公伸委員長）
  - ① 日独病理学会の交流事業についてはドイツ側からの要請を受け、2012年度の日本側から派遣する講演者を広島大学安井教授に決定した。
  - ② 日英病理学会交流については、第3回英国病理学会との交流事業として病理学会から2012年7月の英国病理学会学術集會にシニア1名とジュニア2名を派遣するが、その公募を行う予定である。
  - ③ 来年度の中華病理学会に日中合同シンポジウムとして

前癌病変の消化管、肝臓、乳腺などを取り上げる事になった。日程など考慮すべきことがあるので、シンポジストの選出は委員会に一任されたい旨、笹野委員長より発言があり、理事会としてもこれを了承した。

- ④ ③の費用について深山理事より質問がされた。これについて、相互派遣であるため、ホスト側が、宿泊費と学会登録費を負担することになっているとの回答が青笹理事長よりあった。
- ⑤ 岡田101回会長より、昨年100回総会の際に、英・独とも、交流事業の講演者が招聘されてしまったので、101回総会での海外講演者招待につき、何かしらサポートが欲しい旨発言があり、これを検討事項とすることとした。
- (12) 支部委員会(橋本 洋委員長)  
支部会計の本部会計への合算については難しい面も多いため、支部ごとでも上田財務委員長と相談し、準備を進めたい。
- (13) 市民公開講座委員会(吉野 正委員長)  
100回総会時市民公開講座でアンケートを実施したので、結果をまとめて提示したい。
- (14) サマーフェスト委員会(松原 修委員長)  
① 本年は京都で脳腫瘍をテーマに行い、約250名の参加者があった。毎年黒字がでるので、200名の参加者を維持できる限りは継続したい。再来年第7回までは計画済みである。会場についても、東京、京都を往復し、東大、京大に世話校をお願いする形で定着してきているので、今後も両校にご協力をお願いしたい。  
② 充分費用もまかなえる状況であるのと、世話人の負担が大きいため、今後ハンドアウトへの広告を積極的にとることはしない。  
③ 総会会期中の委員会で、5年間(5回分)の総括を行う予定である。
- (15) 選挙管理委員会(松原 修委員長)  
① 当初の委員のうち、1名が役員に立候補したため、交代となったが、その他は総じて順調に行われた。  
② 集計結果をホームページへ掲載し、学会員に早く知らせることができた。  
③ 今回は理事長候補者にとどめたが、理事についても、所信表明以外に、生年月日、出身大学、卒業年、簡単な略歴、日本病理学会への具体的な貢献などについて、選挙人へ広く知らせ、投票の資料にすることを提案したい。  
④ 現在の郵送投票では開封、開票作業の負担が大きいため、電子投票方式の導入を準備した方がよいのではないかと。  
⑤ 青笹理事長より、選挙管理委員会は常置ではないため、上記提案については、他の委員会でひきつぎ、検討したい旨、発言された。

- (16) 支部選出学術委員会(白石泰三委員長)  
座長候補参考リストの改定作業を継続して行っている。
- (17) 死因究明委員会(黒田 誠委員長)  
① 社団法人日本医療安全調査機構の活動状況に大きな進展はなく、来年も補助金事業として継続される見込みである。各関係団体の担当者も交代が進んでおり、先行きが不透明な面も多い。  
② 機構の資金面では、基本領域学会を中心として、内科、外科がそれぞれ1,000万円、その他の団体、学会も負担金を支払う案が検討されていることが、青笹理事長からも報告された。病理の負担金は50-60万円程度のものであるが、基幹5学会の一つ法医学会が応じていないので、こちらも流動的である。
- (18) 人材育成委員会(橋本 洋委員長)  
① 「病理医の育成と環境改善を目指した実態調査」を行い、集計にはいるところである。  
② 今回E-mailをもちいてアンケートを行ったが、コンピューターウイルスのことなど、難しい面もあるようなので、アンケートの実施方法等について、学会の方針を策定して欲しいとの要望がだされた。青笹理事長もこれを了承し、検討することとした。
- (19) 男女共同参画委員会(加藤良平委員長)  
「病理医のための育児と学習支援プロジェクト」が「100周年記念事業特別基金」プロジェクトに内定した。委員会で実施にむけて準備をする。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

- 平成24年度/25年度役員選出の件  
標記の件につき、青笹理事長より次期役員候補者の選挙結果が資料のとおり提示され、次期役員候補選出者として満場一致で承認され、総会に提案することになった。
- 平成21・22年度収支決算再修正の件  
平成23年4月の財務委員会及び理事会で仮承認されていた平成21、22年度収支計算書の修正点について、上田財務委員長より資料が提示され、説明があった。前回提示分は、本来特定資産である100周年記念事業特別会計を流動資産に合算していたため、その分の金額を一般会計赤字に上乘せし、総合計金額の辻褄をあわせるような形になっていた。今回これを修正するため、一般会計の累積赤字について、21年度は約8,800万円が約6,400万円に、22年度は約8,800万円が約4,800万円にと、実情にそった金額となる。学会財務諸表に大きな変更はない。この修正案が満場一致で承認され、総会に提案されることになった。今後このようなことがないように、対応策も検討することが確認された。
- 平成23年度収支予算修正の件  
上田財務委員長より、平成21、22年度収支決算の修正にともなう平成23年度収支予算書の修正について、資料の通り提案があった。予算額についても、実態にあわせるた

め、前期繰り越し収支予算額 53,961 千円を 92,521 千円に修正する。この案が満場一致で承認され、総会に提案することになった。

4. 平成 24 年度事業計画並びに収支予算に関する件

① 上田真喜子財務委員長より、事業計画について説明があった。100 周年記念事業の一環として、「『100 周年記念事業特別基金』プロジェクト」が新たに実施される予定である。

② 引き続き収支予算案について説明があった。

・収入案は 201,020 千円、支出案は 198,500 千円、次期収支繰り越し差額は 95,816 千円となる。

・学術評議員 65 歳定年制の施行により、会費収入が微減する見込みである。

・100 周年記念事業関係の予算措置をする。

以上をふまえ協議の結果、原案が満場一致で承認され、事業計画案、収支予算ともに総会に提案されることになった。

5. 第 59 回（平成 25 年度）秋期特別総会会長選出の件

第 59 回（平成 25 年度）秋期特別総会会長に応募のあった加藤良平教授（山梨大学）が常任理事会の議を経て推薦された。協議の結果、満場一致でこれを承認し総会へ提案することとした。

6. 第 103 回（平成 26 年度）総会会長の選出の件

第 103 回（平成 26 年度）総会会長に応募のあった根本則道理事（日本大学）、安井弥理事（広島大学）、上田真喜子理事（大阪市立大学）の 3 名が常任理事会の議を経て推薦された。投票を含む協議の結果、安井教授を選出し、総会へ提案することとした。

7. 第 102 回（平成 25 年度）総会宿題報告担当者選出の件

佐藤昇志学術委員長より、先の学術委員会にて標記候補者として、福本学学術評議員（東北大学加齢研究所）中山淳学術評議員（信州大学）八木橋操学術評議員（弘前大学）の 3 名が選出された旨報告された。協議の結果、満場一致でこれを承認した。

8. 学術評議員資格の件

学会業務の中核を担う学術評議員の推薦には、より具体的な業績を求めろべきという議論のもと、WG を組織し、学術評議員資格について検討してきた旨、向井企画委員長より報告された。今回、一定の基準を示すということで、現状のものに下記要件を追加した形の内規変更案が提示された。

・病理学（学際分野を含む）に関する原著論文 3 編以上で、少なくとも 1 編の筆頭著者である。

・病理専門医あるいは口腔病理専門医資格取得者で論文発表の筆頭著者 1 編以上である者

・入会歴 5 年を満たさないが、傑出した業績を上げていると資格審査委員会で認められた者

この学術評議員内規変更案を原案の通り満場一致で承認した。平成 24 年度推薦者から適用となる。

9. 学術評議員定年制導入に伴う定款細則並びに内規変更の件  
前回総会で学術評議員 65 歳定年制導入が承認されたため、それに伴う定款細則並びに内規変更案が向井 企画委員長より提案された。これを満場一致で承認し、総会に提案することになった。

10. “Pathology International” 次期編集長の件

青笹理事長より平成 24 年度からの“Pathology International” 編集長公募に坂元亨宇学術評議員（慶應大学）より応募があったことが報告された。協議の結果坂元学術評議員を次期編集長とすることが満場一致で承認された。

11. 「診断病理」次期編集長の件

青笹理事長より平成 24 年度からの「診断病理」編集長公募に安田政実学術評議員（埼玉医科大学国際医療センター）より応募があったことが報告された。協議の結果安田学術評議員を次期編集長とすることが満場一致で承認された。

12. 口腔病理専門医制度細則の件

平成 24 年度から口腔病理専門医研修指導医制度が開始されるのに伴い、山口朗口腔病理専門医制度運営委員長から口腔病理専門医制度細則改定案が提示された。条件の整った者に自動的に指導医資格を与えるのではなく、「申請する資格を与える」という形になる。この変更案が満場一致で承認された。あわせて、病理専門医指導医に準じた形の認定実施要領も提示され、年度内に平成 24 年 4 月 1 日付登録を行うことが報告された。

13. 100 周年記念事業に関する件

深山 100 周年記念事業事務局長より、「『日本病理学会 100 周年記念事業特別基金』プロジェクト」について、下記の説明があった。

① 会員の寄付、企業の寄付、学術振興基金取り崩し収入等あわせて 100 周年記念事業収入は約 5,700 万円である。病事情報ネットワーク設立と運営経費、記念誌刊行、東日本大震災義援金、その他費用をあわせた支出予定額は約 3,900 万円である。この差額約 1,800 万円を予算とし、「『日本病理学会 100 周年記念事業特別基金』プロジェクト」として、会員から事業の公募をおこなった。

② これに 7 件の応募があり、財務委員会（常置）、記念事業財務委員会の合同財務委員会で選考し、以下 5 つのプロジェクトを採択した。

・「病理夏の学校」支援プロジェクト

・病理診断における多施設間精度管理システムの構築

・日本病理学会の事務局移転プロジェクト

・大学院博士課程に所属する若手医師を対象とした「日本病理学会 100 周年記念病理学研究新人賞」の創設

・病理医のための育児と学習支援プロジェクト

以上の件が満場一致で承認された。総会の承認を前提とするが、各プロジェクトの計画にのっとり本年度から 5 年間資金供出を行うこととなる。

14. “Pathology Interntional (PIN)” に関する提案の件

- (1) 前回理事会で提案のあった「理事は任期中に PIN に 1 編以上投稿すること」について、理事会申し合わせ事項とし、次期役員より対象となることが確認された。
- (2) PIN 投稿に関わる費用についての新提案がワイリー社よりあった旨、向井理事から説明があった。主な変更点は、下記の通りである。
  - ・カラー印刷代につき、経費を平坦化するため、figure 3 つまでは 50,000 円、figure 4 つ以上は日本病理学会会員が First author もしくは corresponding author の場合は無料とする。
  - ・投稿料 5,000 円は、米ドル払いの場合は 50 ドルとする。徴収はワイリー社が担当し、内 15% を手数料とする。
  - ・1 ページあたり 4,000 円のページチャージを新設する。一部詳細を確認するが、原案を満場一致で承認した。

#### 15. 事務局職員退職給与案の件

本学会事務局職員の退職金について規定がなかったため、上田財務委員長より、国家公務員に準じた形の職員退職給与細則案が提案された。満場一致でこれを承認し、平成 23 年度をもって退職する大藪事務局員より適用することとした。

#### 16. 名誉会員の有資格者に関する件

平成 24 年度新名誉会員の有資格者名簿 (195 名) を満場一致で承認し、各種確認、推戴作業に入ることとした。

#### 17. 新入会員の承認の件

青笹理事長より、平成 23 年度新入会員上期 (平成 23 年 4 月 1 日～9 月 30 日) 128 名の名簿が諮られ、満場一致で全員の入会が承認された。

#### 18. 新法人移行に伴う新定款案および新定款施行細則承認の件 新法人移行準備と手続きに関して WG の報告を合わせた説明が寺田副理事長よりあった。

- ① 新法人移行のためには、新定款および定款施行細則を制定する必要がある。前回の総会で一般社団を目指し準備を開始することが了承されたため、それを念頭においた新定款案および新定款施行細則案を WG で策定し、今回原案を提示した。
- ② 新案は、基本的に現定款の内容を新法人制度の規定に合う形に整えたものである。一部、現状と乖離している面についてはこの折りに修正している。この案は全会員に郵送するなどし、充分会員の意向をくみながら検討を重ねてきている。
- ③ 新法人移行のためには、平成 24 年 4 月の総会までに、この定款案の総会承認をとらなくてはならないが、それには、正会員の 4 分の 3 の議決が必要である。今回の総会については 2,600 通近い委任状の提出を受けており、規定数での議決が可能な状況となった。
- ④ まず、今回の総会で、新法人移行の際には一般社団法人を選択することを正式に承認していただく。
- ⑤ ④ が承認された場合、あわせて新定款案、新定款施行

細則案についても承認を受けたい。その場合、i 軽微な修正については、理事長に一任をいただく、ii 現定款が変更になる場合は、新定款にもその内容を反映させた形の修正を行う、の 2 点を条件とする。また、新定款施行細則についても同様とする。

上記の議論をふまえ、新定款案、新定款施行細則案について、満場一致で承認し、総会へ提案することになった。

#### 19. 事務局移転の件

- (1) 現在の東京・本郷にある学会事務所は手狭な上、安全性も高いとはいえない状況であるため、青笹理事長より事務局移転が提案され、満場一致で承認された。総会にも、協議事項として諮ることとした。
- (2) 現在の事務局所在地は、現定款で規定されている。今回総会で、会員の 3/4 以上の賛成で現定款の事務所所在地の変更の承認が得られる可能性がある。移転が総会で承認された場合は、移転先へ現定款を変更することも満場一致で承認され、合わせて総会へ提案することとした。

◇**会員総会**：平成 23 年 11 月 17 日 (木) に日本教育会館一ツ橋ホールにて、正会員 3,714 名のうち 2,816 名 (うち委任状出席者 2,573 名) の出席を得て開催された。正会員の 4 分の 3 以上の出席をもって総会が成立した。

議長に諸星利男第 57 回秋期特別総会会長を選び議事を進めた。議事録署名人に出席者代表として、岩下明德 (福岡大学筑紫病院)、内藤善哉 (日本医科大学) の両会員が指名された。

#### ○報告事項

##### 1. 理事長報告 青笹克之理事長 (常任理事会及び各種委員会報告)

- (1) 4 月 30 日の総会において学術評議員の 65 歳定年制について承認された。平成 24 年 1 月 1 日から制度を施行する。それ迄にホームページ、支部のメーリングシステムを利用して会員に学術評議員 65 歳定年制の内容を告示することとした。
- (2) 東日本大震災への義援金として、日本病理学会一般会計からの 500 万円を「日本病理学会」名で、100 回総会参加者からの募金を「日本病理学会会場募金」名で、100 周年記念事業からの 500 万円を「日本病理学会 100 周年記念事業」名で、それぞれ日本赤十字社に送付した。
- (3) 新法人移行申請について (平成 25 年 4 月からの新法人移行については)、公益社団法人を目指すか、一般社団法人を目指すかについて、WG で検討した結果、一般社団法人申請の方向で移行準備を行うことが、3 月 28 日開催の理事会で承認された。4 月 30 日の総会において検討の経緯が報告された。新法人移行 WG が設置され申請の準備が行われて来た。
- (4) 本学会一般会計については大幅な累積赤字となっている。この財務状況の改善のため、今後は毎月の支出に対

して、事務局から財務委員長に「支出承認依頼書」を提出し、承認をうけることにした。

- (5) 100周年記念事業の約2,300万円の収支差額（情報管理ネットワークセンター運営費5年分500万円を含む）の用途として「日本病理学会100周年記念事業特別基金」プロジェクトの募集を行うこととなった。応募された7件のプロジェクトについて本年10月21日に100周年記念事業財務委員と病理学会財務委員よりなる合同委員会を開催し、5件を採択した。なお募集は基金の設置が総会で承認されることを前提としている。
- (6) がん取扱い規約拡大委員会では、各学会で刊行している規約の印税の分配、費用負担、編集方法について関係学会、団体と話し合いを開始した。これまでに整形外科学会、産科婦人科学会、泌尿器科学会、脳神経外科学会、日本医学放射線学会と申し合わせ書に調印した。
- (7) 厚生労働省ではがん拠点病院強化に予算をつけているが、その一環として、病理専門医受験に必須の講習会受講者の参加費用を補助する方向で検討がなされている。
- (8) 「病理学会」の名前を使用した出版物について  
現在「日本病理学会編集協力」として刊行している文光堂の「腫瘍病理鑑別診断アトラス」シリーズの内容については、学会で承認を得るシステムになっていないことから、今後の刊行分については、「日本病理学会編集協力」の文字をはずすことに病理学会と文光堂で合意した。「病理学会」の名前を使用した出版物を刊行する場合、明確なルールづくりを企画委員会で進めている。
- (9) 上田財務委員長より専門医試験の実施に係わる謝金・標本作製料、通信費、旅費、教室協力費等についての見直しをなされ、新しい基準が提案された。
- (10) 病理専門医試験について
  - ① 今年は83名が受験し、73名が合格した。合格率は88%である。
  - ② 来年の試験は名古屋大学を会場とし、7月最終土日に実施する予定である。実施委員長も内定している。
  - ③ 口腔病理専門医試験は10名が受験し、7名が合格した。
- (11) COI（Conflict of interest）申告については、今春の理事会で正式承認されている。来年4月より就任の新役員から申告書提出が義務づけられる。
- (12) 学術評議員資格について、WGを結成して検討した結果（責任者：向井副理事長）が試案として示された。
- (13) 専門医制度評価・認定機構より各学会に依頼のあった研修施設サーベイヤーについて向井理事をチーフサーベイヤーとして推薦した。
- (14) 平成23年4月の財務委員会及び理事会で仮承認されていた平成21、22年度収支計算書の修正点について、上田財務委員長より説明があった。前回提示分は、本来特定資産である100周年記念事業特別会計を流動資産に合算していたため、その分の金額を一般会計赤字に上乗せ

し、総合計金額の辻褄をあわせるような形になっていた。これを修正した結果、一般会計の累積赤字が21年度は約6,400万円に、22年度は約4,800万円となり、一般会計の累積赤字が約4,000万円減少することになった。今後こうしたことがないように、顧問会計士と十分な対応策を検討することとした。

- (15) 事務局長の給与について、新たに管理職手当（月額72,700円）を新設し、支給することとした。10月の給与より適用する。
  - (16) 学会事務所移転については、総会で会員の承認を得ることが前提であるが、100周年記念事業特別プロジェクトとして内定したこともあるので、上田財務委員長を中心にWGを設置し、活動を開始することになった。
  - (17) 学術委員会が開催され、第102回総会時の宿題報告担当者として、福本学術評議員（東北大学）、中山淳学術評議員（信州大学）、八木橋操学術評議員（弘前大学）の3名を選出した。あわせて第58回総会について、診断シリーズ担当者2名を選び、シンポジウムのテーマは黒田会長に一任した。
  - (18) 松田道行学術評議員の、持田記念学術賞受賞が決定した。
  - (19) 昨春秋に締結された日中病理学交流協定に基づき、10月22～23日杭州で開催された第17回中国病理学会に日本病理学会より3名が参加した。
  - (20) 口腔病理専門医研修指導医制度が開始されるのに伴い、その認定の告示を年内に行う予定である。
  - (21) “Pathology International”次期編集長が坂元亨学術評議員（慶應義塾大学）に決定した。
  - (22) 「診断病理」次期編集長が安田政実学術評議員（埼玉医科大学国際医療センター）に決定した。
  - (23) 第9回日本病理学会カンファレンスは、池田栄二学術評議員（山口大学）を世話人とし、「血管生物学から挑む疾患病態解析—がん、炎症、循環障害、再生医学—」をテーマに、山口県山口市にて平成24年8月3日（金）・4日（土）に開催予定である。
2. 病理専門医制度運営委員長報告 深山正久委員長
- (1) 病理専門医資格審査委員会報告  
今年度の病理専門医資格更新申請者393名のうち、382名の更新が認められた。病理業務記載のない1名、単位不足3名、証拠書類のない者7名に書類の再提出をお願いする。更新の条件を満たすことが出来ない場合は、「更新保留者」となり、資格は一旦停止となる。条件をみたせば、年1回更新の申請が可能であるが、いつまで可能か、という点での規則がなかった。理事会での審議の結果、3年まで認めるということになった。学会の参加証の保存に十分留意されたい。
  - (2) 病理専門医施設審査委員会報告  
新規の申請の審査を行い認定施設A認定1件、B認定6件、また登録施設24件申請を認めた。

- (3) 病理専門医研修者に研修手帳配布について  
秋の学会終了後、申請の受付を開始する。手帳の配布は来年2月を予定している。
- (4) 来年の病理専門医受験申請の注意事項について  
2013年には病理学会が札幌で6月に開催される予定である。このため、剖検講習会が専門医試験受験申請締め切りの後になる。また、最近は開催時期がゴールデンウィーク近くとなるため申請締め切りぎりぎりとなる。このため、病理研修者には、余裕をもって早めに剖検講習会を受講するよう、勧めていただきたい。
- (5) 専門医制度を取り巻く状況について  
平成23年10月13日に厚生労働省は「専門医の在り方に関する検討会」を開始した。月1回のペースで検討会を開催し、平成24年夏ごろに中間報告を取りまとめ、平成24年度内を目標に最終報告書の取りまとめを行う予定である。他方、社団法人「日本専門医制評価・認定機構」も専門医制度について議論を重ねている。本学会病理専門医制度も両者の影響を受けると考えられるため、これらにつき今後も注視し、また会員からも情報提供をいただきたい。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

1. 平成24年度/25年度役員選任の件

- (1) 青笹理事長より、先の選挙で選出された次期役員候補者（新理事19名、監事2名）が提案され、原案のとおり満場一致で承認された。
- (2) 新理事長となる深山正久理事より、「若手の育成と参加」を目標に、全力を尽くす旨、抱負が述べられた。

2. 平成21年度及び22年度収支決算再修正の件

平成23年4月の財務委員会及び理事会で仮承認されていた平成21、22年度収支計算書の修正案について、上田真喜子財務委員長より説明があった。前回提示分は、本来特定資産である100周年記念事業特別会計を流動資産に合算していたため、その分の金額を一般会計赤字に上乘せし、総合計金額の辻褄をあわせるような形になっていた。今回これを修正するため、一般会計の累積赤字について、21年度は約8,800万円が約6,400万円に、22年度は約8,800万円が約4,800万円にと、実情にそった金額となる。学会財務諸表に大きな変更はない。この修正案が満場一致で承認された。今後このようなことがないよう、充分な対応策を検討する旨も、上田委員長より発言された。

3. 平成23年度収支予算修正の件

上田財務委員長より、平成21、22年度収支決算の修正にともなう平成23年度収支予算書の修正について、説明があった。予算額についても、実態にあわせるため、前回提示した前期繰り越し収支予算額53,961千円を92,521千円に修正する。この修正案が満場一致で承認された。

4. 平成24年度事業計画並びに収支予算に関する件

- ① 上田財務委員長より、事業計画案について説明があった。100周年記念事業の一環として、「『100周年記念事業特別基金』プロジェクト」が新たに実施される予定である。
- ② 引き続き収支予算案について説明があった。
- ・収入案は201,020千円、支出案は198,500千円、次期収支繰り越し差額は95,816千円となる。
  - ・学術評議員65歳定年制の施行により、会費収入が微減する見込みである。
  - ・100周年記念事業関係の予算措置をする。
- 以上をふまえ協議の結果、事業計画案、収支予算ともに原案が満場一致で承認された。

5. 100周年記念事業に関する件

- (1) 深山正久100周年記念事業事務局長より主な事業内容3つの経過報告があった。

- ① 式典は第100回総会時に開催されたが、震災のため、祝賀会は中止とした。
- ② 1週間ほど前に記念誌が刊行された。附属DVDはおおて発送する予定となった。
- ③ 病事情報管理ネットワークセンター構築も進んでいる。

この事業報告が満場一致で承認された。

- (2) 全体の会計について引き続き深山正久100周年記念事業事務局長より報告と提案があった。

会員の寄付、企業の寄付、学術振興基金取り崩し収入等あわせて100周年記念事業収入は約5,700万円である。病事情報ネットワーク設立と運営経費、記念誌刊行、東日本大震災義援金、その他費用をあわせた支出予定額は約3,900万円となり、差額が約1,800万円ある。これを『日本病理学会100周年記念事業特別基金』として予算化し、新たなプロジェクトを実施する予定である。この会計報告、及び予算化についても満場一致で承認された。

- (3) この会計報告の総会承認を前提に、『日本病理学会100周年記念事業特別基金』プロジェクトを会員より公募しており、担当委員会で選考した下記5つのプロジェクトを実施したい旨が深山事務局長より報告され、満場一致で承認された。各計画案にしたがい約5年間で資金供出を行う。

- ・「病理夏の学校」支援プロジェクト
- ・病理診断における多施設間精度管理システムの構築
- ・日本病理学会の事務局移転プロジェクト
- ・大学院博士課程に所属する若手医師を対象とした「日本病理学会100周年記念病理学研究新人賞」の創設
- ・病理医のための育児と学習支援プロジェクト

6. 第59回（平成25年度）秋期特別総会会長選出の件

第59回（平成25年度）秋期特別総会会長として、加藤良平理事（山梨大学）が推薦され、満場一致で承認された。

7. 第103回（平成26年度）総会会長の選出の件

第103回（平成26年度）総会会長に安井 弥理事（広島大学）が推薦され、満場一致で承認された。

#### 8. COI（利益相反）の件

- (1) 伏木信次 COI 委員長より、COI マネージメントの実施について、説明があった。

医学研究においては、不可避免的に個人の利益と社会的責任が衝突する利益相反状態（COI）が発生する場合がある。これを学会として適切にマネージメントし、その研究成果の正当性を担保する仕組みが必要となった。これをうけて「医学研究のCOIマネージメントに関する指針案」および「施行細則案」を策定し、本年3月28日の理事会で承認された。HPでも公表している、この指針案、施行細則案につき、本学会終了後より正式に適用されることが、満場一致で承認された。今後、すべての本学会事業活動への参加者・関係者は、この指針そって必要なCOI状態の開示を行うことが義務づけられるが、まず、新役員から自己申告書類の提出を行う。

- (2) フロアより、「検査センター」も利益を供与する企業に含まれるかという質問があった。伏木委員長より、すべての企業が関係すると回答された。

#### 9. 新法人移行の件

- (1) 寺田信行副理事長より、一般社団法人・公益社団法人選択について説明があった。

##### ① 検討の経過について

従来の社団法人は、平成25年11月末までに新制度での一般社団法人または公益社団法人のどちらかに移行することが義務づけられたため、本学会でも向井副理事長を委員長とした検討委員会で、その選択に関する検討を行ってきた。その検討結果に基づき、常任理事会、理事会では「一般社団法人を選択する。しかし今後、公益社団法人制度の運用状況、一般社団法人を選択した他学会の状況を十分調査し、必要と判断された場合は公益社団法人化も検討する。」との結論に達した。このことは、一般社団法人申請に向けて準備をすすめることとあわせて前回総会にてすでに報告済みである。この内容についてはその後HPにも掲載したが、質問、意見は特に寄せられなかった。

##### ② 選択の要点について

法人の組織運営機構（内部統治機構）は社員総会、理事、理事会、監事を置くという形で、基本的な相違はない。事業内容が主に公益事業の一般社団法人は、申請すれば公益社団法人として認可され、税制上の優遇が与えられるが、事業活動、財政運営における制約が課せられ、行政庁の厳格な監督を受ける必要が生じる。

##### ③ 結論

現在の日本病理学会の財政運営状況から判断すると、公益社団法人での税制上の優遇のメリットは少なく、また新公益社団法人制度下での行政庁の監督の基準、

範囲、程度も不明確である。

従って、「一般社団法人を選択し、一般社団法人申請の準備をする。一般社団法人になった後でも、公益社団法人になることはできるので、公益社団法人制度の運用状況、一般社団法人を選択した他学会の状況を十分調査して、必要と判断された場合は、公益社団法人化も検討する」こととする。

以上の説明の後に、『日本病理学会は、一般社団法人を選択する』との方針の承認が諮られ、この方針が満場一致で承認され、本学会は新制度下の一般社団法人へ移行申請することが決定した。

- (2) 引き続き寺田副理事長より、一般社団法人移行のための、新定款案・定款施行細則案策定について説明がされた。

- ① 新一般社法人定款案および定款施行細則作成経過  
先の説明のとおり、一般社団法人申請ワーキンググループ（WG）を立ち上げ、平成25年4月1日発足に向けて準備を行ってきた。まず、現在の定款を新法人に適合する形に修正した「新一般社法人定款案（第1版）」の作成を行政書士に依頼し、それを基に検討を開始した。途中資産・会計の項目を公認会計士に、全体を監督官庁である内閣府にそれぞれ指導を仰ぐなど、専門家の意見もきいている。第7版定款案（8月25日版）については、全会員に郵送配布し（平成23年9月29日発送）、質問、意見を募り、今回提示している最終定款案（第9版：11月1日版）が完成した。新定款施行細則案についても同様に策定した。

##### ② 本総会への提案

本総会是新定款承認に必要な規定数、正会員の4分の3にあたる出席者（委任状を含む）があるので、下記付帯条件を付けた形で新一般社団法人新定款案、および新定款施行細則案につき、お諮りする。

- 1) 軽微な修正については、理事長に一任する。
- 2) 現定款、定款施行細則に変更がある場合は、それに従い新定款案、新定款施行細則案を修正する。協議の結果、付帯条件も含め、新一般社法人定款案、および新定款施行細則案が原案のとおり満場一致で承認された。施行は新法人移行時となる。

#### 10. 学術評議員定款施行細則および資格基準について

- (1) 学術評議員65歳定年制実施に伴う定款施行細則改定について

前回総会でその導入が承認された学術評議員65歳定年制を実施するにあたり、定款施行細則改定案が提示され、向井清副理事長より説明された。現在「任期を定めない」としているものが、「学術評議員の任期は満65歳に達した年度の3月31日までとする。」となる。この改定案が満場一致で承認され、平成24年1月1日より施行する。

- (2) 学術評議員資格基準について向井副理事長より報告があった。

- ① 学術評議員は各種委員会の委員に選ばれる資格や、役員候補者を選出する資格があり、学会の運営の中核を担うものであるが、現在の規定では、選任の基準が明確でないところもある。
- ② この件につき、ワーキンググループを結成し、会員の意見も参考にして検討を重ね、下記新基準を策定した。
- ③ 現在の資格に以下の条件の一つを満たすことを加えた。
  - 1) 病理学に関する原著論文3編以上で、少なくとも1件の筆頭著者である
  - 2) 病理専門医あるいは口腔病理専門医資格取得者で論文発表の筆頭著者1編以上
  - 3) 会員歴は満たさないが傑出した業績をあげていると資格審査委員会で認められた者
- ④ この提案は理事会承認を得たため施行が決定している。平成24年度推薦者から適用となる。

#### 11. 事務局移転について

現在の本学会事務局は、手狭で委員会開催等にも支障があり、安全性も高いとはいえない状況であるため、青笹理事長より、現事務局を移転させることが提案された。この件は本総会承認を前提に、『100周年記念事業特別基金』プロジェクトの一つとして採用されている。また現在の事務局所在地は、定款で規定されているため、移転先が決定した場合、定款の変更となること、移行期には、一時的に副事務所を設置する可能性があることもあわせて承認された旨、説明された。

移転の件、定款変更の件、副事務所設置の件ともに満場一致で承認された。今後記念プロジェクトの一環として、具体的な移転計画を検討していく。

◇平成24年度/25年度役員選任について：平成24年度/25年度の役員（理事・監事）は、以下のとおり選任された。なお、就任日は、平成24年4月1日からとする。

○理事：19名（ABC順）

理事長	深山正久
理事	伏木信次
理事	笠原正典
理事	加藤良平
理事	黒田誠
理事	根本則道
理事	野島孝之
理事	落合淳志
理事	小田義直
理事	岡田保典
理事	笹野公伸
理事	白石泰三
理事	高橋雅英
理事	上田真喜子

理事	八木橋操	六
理事	山口朗	
理事	安井弥	
理事	横山繁生	
理事	吉野正	
○監事	：2名（ABC順）	
監事	井藤久雄	
監事	中沼安二	
○支部長（兼務）	：7名（地区順）	
北海道	笠原正典	
東北	八木橋操	六
関東	加藤良平	
中部	野島孝之	
近畿	伏木信次	
中国四国	吉野正	
九州沖縄	横山繁生	

◇平成21年度収支決算書修正案について：社団法人日本病理学会平成21年度収支決算書について、100周年記念事業関係費の記載を明瞭化したため、修正案を提示し、原案のとおり決定した。

#### 1) 収支計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

（単位 円）

科目	予算額	決算額	差異	備考
<b>I. 収入の部</b>				
<b>1. 基本財産運用収入</b>	<b>50,000</b>	<b>12,019</b>	<b>△ 37,981</b>	
受取利息収入	50,000	12,019	△ 37,981	
<b>2. 会費収入</b>	<b>71,510,000</b>	<b>74,692,000</b>	<b>3,182,000</b>	
正会員・学術評議員会費	29,000,000	29,212,000	212,000	
同終身会費	3,000,000	3,600,000	600,000	
同一般会員会費	27,000,000	29,323,000	2,323,000	
学生会員会費	10,000	0	△ 10,000	
賛助会員会費	150,000	150,000	0	
機関会員会費	350,000	335,000	△ 15,000	
病理専門医部会員会費	12,000,000	12,072,000	72,000	
<b>3. 事業収入</b>	<b>122,700,000</b>	<b>135,440,483</b>	<b>12,740,483</b>	
学術集会収入	80,000,000	94,330,511	14,330,511	
論文掲載料収入	900,000	1,160,828	260,828	
広告料収入	800,000	936,600	136,600	
刊行物発行収入	14,000,000	12,718,500	△ 1,281,500	
専門医制度収入	16,000,000	15,942,000	△ 58,000	
病理専門医部会収入	4,000,000	3,405,513	△ 594,487	
講習会等収入	4,500,000	4,421,000	△ 79,000	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,525,531	25,531	
<b>4. 寄付金収入</b>	<b>0</b>	<b>3,680,000</b>	<b>3,680,000</b>	
100周年記念事業寄付金収入	0	3,680,000	3,680,000	平成21年度より新規
<b>5. 特定資産取崩収入</b>	<b>2,700,000</b>	<b>23,180,000</b>	<b>20,480,000</b>	
学術医振興基金取崩収入（終身会費分）	2,700,000	3,180,000	480,000	

学術医療振興基金取崩収入 (100周年記念事業用)	0	20,000,000	20,000,000	
<b>6. 雑収入</b>	<b>3,400,000</b>	<b>4,732,353</b>	<b>1,332,353</b>	
受取利息収入	400,000	110,923	△ 289,077	
雑収入	3,000,000	4,621,430	1,621,430	
<b>当期収入合計 (A)</b>	<b>200,360,000</b>	<b>241,736,855</b>	<b>41,376,855</b>	
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>44,851,000</b>	<b>62,864,620</b>	<b>18,013,620</b>	
<b>収入合計 (B)</b>	<b>245,211,000</b>	<b>304,601,475</b>	<b>59,390,475</b>	

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
<b>II. 支出の部</b>				
<b>1. 事業支出</b>	<b>161,000,000</b>	<b>175,947,579</b>	<b>14,947,579</b>	
学術集会経費	84,500,000	93,061,189	8,561,189	
学会誌発行経費	29,000,000	27,317,770	△ 1,682,230	
会報発行経費	2,500,000	2,948,400	448,400	
剖検輯報刊行経費	10,500,000	10,921,737	421,737	
専門医制度運営経費	9,000,000	10,008,963	1,008,963	
病理専門医部会経費	8,000,000	8,429,997	429,997	
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0	
学術奨励等経費	4,500,000	3,174,705	△ 1,325,295	
講習会等経費	3,500,000	3,406,101	△ 93,899	
各種委員会経費	3,000,000	4,350,703	1,350,703	
事業人件費	0	5,828,014	5,828,014	管理費人件費より一部を科目変更
<b>2. 管理費</b>	<b>33,130,000</b>	<b>32,727,711</b>	<b>△ 402,289</b>	
人件費	15,000,000	8,464,998	△ 6,535,002	一部を事業人件費へ科目変更
福利厚生費	2,000,000	2,145,720	145,720	
交通費	300,000	270,000	△ 30,000	
通信運搬費	3,000,000	2,776,736	△ 223,264	
会議費	1,500,000	1,658,312	158,312	
印刷費	2,500,000	1,963,105	△ 536,895	
備品費	200,000	0	△ 200,000	
消耗品費	500,000	255,483	△ 244,517	
光熱費	230,000	241,254	11,254	
賃借料	2,700,000	3,958,243	1,258,243	OA 機器リース料
諸会費	900,000	900,000	0	
補助金	200,000	0	△ 200,000	
修繕費	100,000	0	△ 100,000	
嘱託料	2,000,000	2,458,500	458,500	
租税公課 (消費税等)	1,500,000	1,088,500	△ 411,500	
(法人税等)	0	5,947,017	5,947,017	法人税等納付
雑費	500,000	599,843	99,843	
<b>3. 特定預金支出</b>	<b>4,600,000</b>	<b>28,905,974</b>	<b>24,305,974</b>	
退職給与引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0	
学術医療振興基金取得支出	3,000,000	3,637,836	637,836	
国際交流基金取得支出	0	8,028	8,028	
100周年記念事業引当預金取得支出	0	23,660,110	23,660,110	基金取崩および寄付金
<b>4. 予備費</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 1,000,000</b>	
<b>当期支出合計 (C)</b>	<b>199,730,000</b>	<b>237,581,264</b>	<b>37,851,264</b>	
<b>当期収支差額 (A - C)</b>	<b>630,000</b>	<b>4,155,591</b>	<b>3,525,591</b>	
<b>次期繰越収支差額 (B - C)</b>	<b>45,481,000</b>	<b>67,020,211</b>	<b>21,539,211</b>	

## 2) 貸借対照表

平成 22 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
<b>I. 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金・預金	134,776,877		
前払金	423,654		
未収金	518,970		
流動資産合計		135,719,501	
<b>2. 固定資産</b>			
基本財産			
基本財産	30,000,000		
基本財産合計	30,000,000		
その他の固定資産			
特定資産			
学術医療振興基金	98,990,518		
100周年記念事業引当預金	23,660,110		
国際交流基金	20,133,830		
退職給付引当預金	17,500,000		
特定資産合計	160,284,458		
什器備品	84,957		
保証金	930,000		
その他固定資産合計	161,299,415		
固定資産合計		191,299,415	
資産合計			<b>327,018,916</b>
<b>II. 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
前受金	51,823,000		
未払金	14,971,166		
預り金	1,905,124		
流動負債合計		68,699,290	
<b>2. 固定負債</b>			
退職給付引当金	17,500,000		
固定負債合計		17,500,000	
負債合計			<b>86,199,290</b>
<b>III. 正味財産の部</b>			
正味財産			240,819,626
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期増加額)			(8,281,565)
負債及び正味財産合計			<b>327,018,916</b>

## 3) 正味財産増減計算書

平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	12,019	49,694	△ 37,675

基本財産受取利息	12,019	49,694	△ 37,675
② 受取会費	74,692,000	69,363,000	5,329,000
学術評議員会費	29,212,000	27,030,000	2,182,000
一般会員等会費	33,408,000	30,621,000	2,787,000
病理専門医部会費	12,072,000	11,712,000	360,000
③ 事業収益	135,440,483	143,736,738	△ 8,296,255
学術集会収入	94,330,511	100,509,196	△ 6,178,685
論文掲載料収入	1,160,828	986,414	174,414
広告料収入	936,600	726,600	210,000
刊行物発行収入	16,124,013	17,801,053	△ 1,677,040
専門医制度収入	15,942,000	16,472,000	△ 530,000
講習会等収入	4,421,000	4,752,000	△ 331,000
賠償保険事務費収入	2,525,531	2,489,475	36,056
④ 受取寄付金	3,680,000	0	3,680,000
寄付金収入	3,680,000	0	3,680,000
⑤ 雑収入	4,732,353	11,162,576	△ 6,430,223
受取利息	110,923	361,241	△ 250,318
著作権協会分配金	899,200	899,200	
科学技術振興事業団	542,640	727,976	△ 185,336
Pathol Int ロイヤリティ	2,510,240	3,309,138	△ 798,898
医中雑刊著作権使用料	25,620		25,620
刊行物編集協力金	621,240		621,240
雑収入	22,490	6,764,221	△ 6,741,731
経常収益計	<b>218,556,855</b>	<b>224,312,008</b>	<b>△ 5,755,153</b>
(2) 経常費用			
① 事業費			
学術集会費	93,061,189	99,161,098	△ 6,099,909
学会誌発行費	27,317,770	30,640,588	△ 3,322,818
会報発行費	2,948,400	3,090,675	△ 142,275
剖検報発行費	10,921,737	11,008,914	△ 87,177
専門医制度運営費	10,008,963	9,370,081	638,882
病理専門医部会費	8,429,997	8,838,396	△ 408,399
支部運営費	6,500,000	5,850,000	650,000
学術奨励等費	3,174,705	2,880,391	294,314
講習会等経費	3,406,101	4,578,372	△ 1,172,271
各種委員会費	4,350,703	3,172,120	1,178,583
事業人件費	5,828,014	5,814,132	13,882
事業費計	175,947,579	184,404,767	△ 8,457,188
② 管理費			
人件費	8,464,998	8,328,807	136,191
退職給付費用	1,600,000	1,600,000	0
福利厚生費	2,145,720	2,078,514	67,206
交通費	270,000	275,000	△ 5,000
通信運搬費	2,776,736	2,722,620	54,116
会議費	1,658,312	1,261,629	396,683
印刷費	1,963,105	1,623,896	339,209
消耗品費	255,483	316,062	△ 60,579
光熱水道費	241,254	236,371	4,883
賃借料	3,958,243	2,523,728	1,434,515
諸会費	900,000	900,000	0
嘱託料	2,458,500	3,351,000	△ 892,500
租税公課	7,035,517	6,045,000	990,517
雑費	599,843	559,560	40,283
管理費計	34,327,711	31,822,187	2,505,524
経常費用計	210,275,290	216,226,954	△ 5,951,664
当期経常増減額	8,281,565	8,085,054	196,511

<b>2 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	8,281,565	8,085,054	196,511
法人税、住民税及び事業税			0
当期一般正味財産増減額	8,281,565	8,085,054	196,511
一般正味財産期首残額	232,538,061	224,453,007	8,085,054
一般正味財産期末残額	240,819,626	232,538,061	8,281,565
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残額	0	0	0
指定正味財産期末残額	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>240,819,626</b>	<b>232,538,061</b>	<b>8,281,565</b>

## 4) 財産目録

平成 22 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
(1) 現金・預金			
現金 現金手許有高	152,107		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	12,889,081		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	15,086,543		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	33,090,793		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	60,471,548		
普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	140,622		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	929,077		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	361,659		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	9,606,077		
定期預金 みずほ銀行本郷支店	131,945		
郵便振替貯金	1,917,425		
現金・預金合計	<b>134,776,877</b>		
(2) 前払金			
家賃	195,300		
会費自動振替手数料	228,354		
前払金合計	<b>423,654</b>		
(3) 未収金			
学会誌発行収入等	518,970		
流動資産合計		<b>135,719,501</b>	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	30,000,000		
(普通三菱東京UFJ銀行本郷支店)			
基本財産合計	<b>30,000,000</b>		
(2) その他の固定資産			
特定資産			
学術医療振興基金	98,990,518		
(普通三菱東京UFJ銀行春日町支店)			
100周年記念事業引当預金	23,660,110		
(郵便振替貯金)			
国際交流基金	20,133,830		
(普通・りそな銀行本郷支店)			

退職給与引当預金	17,500,000		
特定資産合計	160,284,458		
什器備品	84,957		
保証金	930,000		
その他固定資産合計	161,299,415		
固定資産合計		191,299,415	
資産合計			327,018,916

科 目	金 額		
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成22年度会費・部会費等	51,823,000		
(2) 未払金			
英文誌印刷費等	2,785,000		
日病会誌印刷費等	5,511,599		
会報印刷費	95,550		
諸印刷費	67,200		
諸会費	500,000		
未払消費税等	400,000		
未払法人税等	5,611,817		
未払金合計	14,971,166		
(3) 預り金			
英文誌カラー印刷	1,745,000		
源泉所得税等	160,124		
預り金合計	1,905,124		
流動負債合計		68,699,290	
2. 固定負債			
(1) 退職給与引当金	17,500,000		
固定負債合計		17,500,000	
負債合計			86,199,290
正味財産			240,819,626

◇平成22年度収支決算修正案について：社団法人日本病理学会平成22年度収支決算書について、100周年記念事業関係費の記載を明瞭化したため、修正案を提示し、原案のとおり決定した。

社団法人日本病理学会平成22年度収支決算（修正）

1) 収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
1. 基本財産運用収入	50,000	9,248	△ 40,752	
受取利息収入	50,000	9,248	△ 40,752	
2. 会費収入	70,560,000	85,316,000	14,756,000	
正会員・学術評議員会費	28,000,000	32,598,000	4,598,000	
同終身会費	3,000,000	4,300,000	1,300,000	
同一般会員会費	27,000,000	34,078,000	7,078,000	
学生会員会費	10,000	0	△ 10,000	
賛助会員会費	150,000	100,000	△ 50,000	
機関会員会費	400,000	380,000	△ 20,000	
病理専門医部会費	12,000,000	13,860,000	1,860,000	

3. 事業収入	132,700,000	150,715,330	18,015,330	
学術集会収入	90,000,000	107,152,172	17,152,172	
論文掲載料収入	900,000	779,172	△ 120,828	
広告料収入	800,000	634,200	△ 165,800	
刊行物発行収入	14,000,000	11,622,000	△ 2,378,000	
専門医制度収入	16,000,000	18,790,000	2,790,000	
病理専門医部会収入	4,000,000	4,134,502	134,502	
講習会等収入	4,500,000	5,030,000	530,000	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,573,284	73,284	
4. 寄付金収入	0	30,440,500	30,440,500	
100周年記念事業寄付金収入	0	30,440,500	30,440,500	
5. 特定資産取崩収入	3,400,000	27,100,110	23,700,110	
学術医療振興基金取崩収入	3,400,000	3,440,000	40,000	
100周年記念事業引当預金取崩収入	0	23,660,110	23,660,110	
6. 雑収入	4,400,000	7,611,874	3,211,874	
受取利息収入	400,000	69,601	△ 330,399	
雑収入	4,000,000	7,542,273	3,542,273	
当期収入合計 (A)	211,110,000	301,193,062	90,083,062	
前期繰越収支差額	45,481,000	67,020,211	18,013,620	
収入合計 (B)	256,591,000	368,213,273	108,096,682	

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
<b>II. 支出の部</b>				
1. 事業支出	166,500,000	196,349,642	29,849,642	
学術集会経費	89,500,000	109,666,992	20,166,992	
学会誌発行経費	15,000,000	16,626,105	1,626,105	
会報・お知らせ発行経費	3,000,000	1,498,310	△ 1,501,690	
剖検輯報刊行経費	11,000,000	10,095,514	△ 904,486	
専門医制度運営経費	9,000,000	10,652,687	1,652,687	
病理専門医部会経費	8,000,000	9,257,890	1,257,890	
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0	
学術奨励等経費	3,500,000	3,572,673	72,673	
講習会等経費	4,500,000	4,758,784	258,784	
各種委員会経費	3,500,000	4,102,949	602,949	
事業人件費	8,000,000	5,700,738	△ 2,299,262	
租税公課	5,000,000	0	△ 5,000,000	管理費で支出
病理情報ネットワークセンター設立経費	0	9,717,000	9,717,000	
100周年記念誌刊行経費	0	4,200,000	4,200,000	
2. 管理費	28,530,000	33,517,317	4,987,317	
人件費	10,000,000	11,806,845	1,806,845	
福利厚生費	2,500,000	2,814,853	314,853	
交通費	400,000	683,080	283,080	
通信運搬費	3,000,000	1,366,034	△ 1,633,966	
会議費	2,000,000	2,488,261	488,261	
印刷費	2,500,000	1,831,077	△ 668,923	
備品費	200,000	0	△ 200,000	
消耗品費	500,000	544,743	44,743	
光熱費	230,000	235,175	5,175	
賃借料	2,700,000	3,877,551	1,177,551	
諸会費	900,000	400,000	△ 500,000	
補助金	0	0	0	
修繕費	100,000	0	△ 100,000	

嘱託料	2,500,000	2,591,100	91,100	予算を事業費 で計上
租税公課（消費税等） （法人税等）	500,000	859,500	359,500	
雑費	500,000	696,479	196,479	
100周年記念事業管理経費	0	288,819	288,819	
<b>3. 特定預金支出</b>	<b>4,600,000</b>	<b>45,825,263</b>	<b>41,225,263</b>	
退職給付引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0	
学術医療振興基金取得支出	3,000,000	4,324,658	1,324,658	
国際交流基金取得支出	0	5,814	5,814	
100周年記念事業引当預金取得支出	0	39,894,791	39,894,791	
<b>4. 予備費</b>	<b>3,000,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 3,000,000</b>	
当期支出合計（C）	202,630,000	275,692,222	73,062,222	
当期収支差額（A - C）	8,480,000	25,500,840	17,020,840	
次期繰越収支差額（B - C）	53,961,000	92,521,051	35,034,460	

## 2) 貸借対照表

平成 23 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金・預金	111,603,887		
前払金	201,243		
未収金	408,855		
流動資産合計		112,213,985	
2. 固定資産			
基本財産			
基本財産	30,000,000		
基本財産合計	30,000,000		
その他の固定資産			
特定資産			
学術医療振興基金	99,875,176		
100周年記念事業引当預金	39,855,651		
同上（現金保有分）	39,140		
国際交流基金	20,139,644		
退職給付引当預金	19,100,000		
特定資産合計	179,009,611		
什器備品	84,957		
保証金	930,000		
その他固定資産合計	180,024,568		
固定資産合計		210,024,568	
資産合計			<b>322,238,553</b>
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
前受金	1,770,000		
未払金	13,106,284		
預り金	4,816,650		
流動負債合計		19,692,934	
2. 固定負債			
退職給付引当金	19,100,000		
固定負債合計		19,100,000	

負債合計			<b>38,792,934</b>
<b>III. 正味財産の部</b>			
正味財産			<b>283,445,619</b>
（うち基本財産）			(30,000,000)
（うち正味財産当期増加額）			(42,625,993)
負債及び正味財産合計			<b>322,238,553</b>

## 3) 正味財産増減計算書

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	9,248	12,019	△ 2,771
基本財産受取利息	9,248	12,019	△ 2,771
② 受取会費	85,316,000	74,692,000	10,624,000
学術評議員会費	36,898,000	29,212,000	7,686,000
一般会員等会費	34,558,000	33,408,000	1,150,000
病理専門医部会費	13,860,000	12,072,000	1,788,000
③ 事業収益	150,715,330	135,440,483	15,274,847
学術集会収入	107,152,172	94,330,511	12,821,661
論文掲載料収入	779,172	1,160,828	△ 381,656
広告料収入	634,200	936,600	△ 302,400
刊行物発行収入	15,756,502	16,124,013	△ 367,511
専門医制度収入	18,790,000	15,942,000	2,848,000
講習会等収入	5,030,000	4,421,000	609,000
賠償保険事務費収入	2,573,284	2,525,531	47,753
④ 受取寄付金	30,440,500	3,680,000	26,760,500
寄付金収入	30,440,500	3,680,000	26,760,500
⑤ 雑収入	7,611,874	4,732,353	2,879,521
受取利息	69,601	110,923	△ 41,322
著作権協会分配金	40,740	899,200	△ 858,460
科学技術振興事業団	112,031	542,640	△ 430,609
Pathol Int ロイヤリティ	0	2,510,240	△ 2,510,240
出版印税	3,707,745	0	3,707,745
医中雑刊著作権使用料	30,240	25,620	4,620
刊行物編集協力金	1,028,160	621,240	406,920
雑収入	2,623,357	22,490	2,600,867
経常収益計	274,092,952	218,556,855	55,536,097
(2) 経常費用			
① 事業費			
学術集会費	109,666,992	93,061,189	16,605,803
学会誌発行費	16,626,105	27,317,770	△ 10,691,665
会報発行費	1,498,310	2,948,400	△ 1,450,090
剖検報発行費	10,095,514	10,921,737	△ 826,223
専門医制度運営費	10,652,687	10,008,963	643,724
病理専門医部会費	9,257,890	8,429,997	827,893
支部運営費	6,500,000	6,500,000	0
学術奨励等費	3,572,673	3,174,705	397,968
講習会等経費	4,758,784	3,406,101	1,352,683
各種委員会費	4,102,949	4,350,703	△ 247,754
事業人件費	5,700,738	5,828,014	△ 127,276
総理情報ネットワークセンター設立	9,717,000	0	9,717,000
百周年記念誌刊行経費	4,200,000	0	4,200,000

事業費計	196,349,642	175,947,579	20,402,063
② 管理費			
人件費	11,806,845	8,464,998	3,341,847
退職給付費用	1,600,000	1,600,000	0
福利厚生費	2,814,853	2,145,720	669,133
交通費	683,080	270,000	413,080
通信運搬費	1,366,034	2,776,736	△ 1,410,702
会議費	2,488,261	1,658,312	829,949
印刷費	1,831,077	1,963,105	△ 132,028
消耗品費	544,743	255,483	289,260
光熱水道費	235,175	241,254	△ 6,079
賃借料	3,877,551	3,958,243	△ 80,692
諸会費	400,000	900,000	△ 500,000
嘱託料	2,591,100	2,458,500	132,600
租税公課	3,893,300	7,035,517	△ 3,142,217
雑費	696,479	599,843	96,636
100周年記念事業経費	288,819	0	288,819
管理費計	35,117,317	34,327,711	789,606
経常費用計	231,466,959	210,275,290	21,191,669
当期経常増減額	42,625,993	8,281,565	34,344,428
<b>2 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	42,625,993	8,281,565	34,344,428
法人税、住民税及び事業税			0
当期一般正味財産増減額	42,625,993	8,281,565	34,344,428
一般正味財産期首残額	240,819,626	232,538,061	8,281,565
一般正味財産期末残額	283,445,619	240,819,626	42,625,993
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残額	0	0	0
指定正味財産期末残額	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>283,445,619</b>	<b>240,819,626</b>	<b>42,625,993</b>

## 4) 財産目録

平成 23 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
(1) 現金・預金			
現金	現金手許有高	420,501	
普通預金	みずほ銀行本郷支店	8,581,594	
普通預金	みずほ銀行本郷支店	14,076,378	
普通預金	みずほ銀行本郷支店	37,306,339	
普通預金	みずほ銀行本郷支店	36,551,094	
普通預金	三菱東京UFJ銀行本郷支店	149,870	
普通預金	みずほ銀行本郷支店	929,309	
普通預金	みずほ銀行本郷支店	352,923	
普通預金	みずほ銀行本郷支店	12,179,361	
定期預金	みずほ銀行本郷支店	143,893	
郵便振替貯金		912,625	
現金・預金合計		<b>111,603,887</b>	

(2) 前払金			
家賃		195,300	
会費自動振替手数料		5,943	
前払金合計		<b>201,243</b>	
(3) 未収金			
学会誌発行収入等		408,855	
流動資産合計			<b>112,213,985</b>
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産		30,000,000	
(普通三菱東京UFJ銀行本郷支店)			
基本財産合計		30,000,000	
(2) その他の固定資産			
特定資産			
学術医療振興基金		99,875,176	
(普通三菱東京UFJ銀行春日町支店)			
100周年記念事業引当預金			
(郵便振替貯金)		39,855,651	
(現金)		39,140	
国際交流基金		20,139,644	
(普通・りそな銀行本郷支店)			
退職給付引当預金		19,100,000	
特定資産合計		179,009,611	
什器備品		84,957	
保証金		930,000	
その他固定資産合計		<b>180,024,568</b>	
固定資産合計			<b>210,024,568</b>
資産合計			<b>322,238,553</b>

科 目	金 額		
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成 22 年度会費・部会費等		1,770,000	
(2) 未払金			
英文誌印刷費等		4,070,000	
日病会誌印刷費等		5,515,000	
会議費		93,984	
未払消費税等		400,000	
未払法人税等		3,027,300	
未払金合計		<b>13,106,284</b>	
(3) 預り金			
英文誌カラー印刷		4,666,000	
源泉所得税等		150,650	
預り金合計		<b>4,816,650</b>	
流動負債合計			<b>19,692,934</b>
2. 固定負債			
(1) 退職給付引当金		19,100,000	
固定負債合計			<b>19,100,000</b>
負債合計			<b>38,792,934</b>
正味財産			<b>283,445,619</b>

◇平成 23 年度収支予算修正案について：社団法人日本病理学会平成 23 年度収支決算書について、前期繰越収支差額を現状に合わせたため、修正案を提示し、原案のとおり決定した。

## 社団法人日本病理学会平成 23 年度収支予算書（修正）

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
<b>1. 基本財産運用収入</b>	<b>15,000</b>	<b>50,000</b>	<b>△ 35,000</b>	
受取利息収入	15,000	50,000	△ 35,000	
<b>2. 会費収入</b>	<b>60,630,000</b>	<b>70,560,000</b>	<b>△ 9,930,000</b>	
学術評議員会費収入	22,400,000	28,000,000	△ 5,600,000	会費 20,000 → 16,000
終身会費収入	3,000,000	3,000,000	0	
一般会員会費収入	22,740,000	27,000,000	△ 4,260,000	会費 15,000 → 13,000
学生会員会費収入	10,000	10,000	0	
賛助会員会費収入	150,000	150,000	0	
機関会員会費収入	330,000	400,000	△ 70,000	
病理専門医部会費収入	12,000,000	12,000,000	0	
<b>3. 事業収入</b>	<b>131,700,000</b>	<b>132,700,000</b>	<b>△ 1,000,000</b>	
学術集会収入	90,000,000	90,000,000	0	
論文掲載料収入	900,000	900,000	0	
広告料収入	800,000	800,000	0	
刊行物発行収入	13,000,000	14,000,000	△ 1,000,000	
専門医制度収入	16,000,000	16,000,000	0	
病理専門医部会収入	4,000,000	4,000,000	0	
講習会等収入	4,500,000	4,500,000	0	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,500,000	0	
<b>4. 特定資産取崩収入</b>	<b>28,480,000</b>	<b>3,400,000</b>	<b>25,080,000</b>	
学術医療振興基金取崩収入	3,480,000	3,400,000	80,000	
100周年記念事業引当預金取崩収入	25,000,000	0	25,000,000	100周年記念 事業寄付繰越
<b>5. 雑収入</b>	<b>2,100,000</b>	<b>4,400,000</b>	<b>△ 2,300,000</b>	
受取利息収入	100,000	400,000	△ 300,000	
雑収入	2,000,000	4,000,000	△ 2,000,000	PINロイヤリティ無
当期収入合計 (A)	<b>222,925,000</b>	<b>211,110,000</b>	<b>11,815,000</b>	
前期繰越収支差額	<b>92,521,000</b>	<b>45,481,000</b>	<b>47,040,000</b>	
収入合計 (B)	<b>315,446,000</b>	<b>256,591,000</b>	<b>58,855,000</b>	

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
<b>II. 支出の部</b>				
<b>1. 事業費</b>	<b>172,500,000</b>	<b>166,500,000</b>	<b>6,000,000</b>	
学術集会経費	89,000,000	89,500,000	△ 500,000	
学会誌発行経費	15,000,000	15,000,000	0	
会報等発行経費	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000	会報PDF「お知らせ」郵送
剖検報刊行経費	11,000,000	11,000,000	0	
専門医制度運営経費	10,000,000	9,000,000	1,000,000	
病理専門医部会経費	8,000,000	8,000,000	0	
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0	
学術奨励等経費	3,000,000	3,500,000	△ 500,000	
講習会等経費	3,500,000	4,500,000	△ 1,000,000	
各種委員会経費	3,500,000	3,500,000	0	
事業人件費	8,000,000	8,000,000	0	
100周年記念事業経費	13,000,000	0	13,000,000	新規
租税公課 (法人税等)	0	5,000,000	△ 5,000,000	管理費支出へ

<b>2. 管理費</b>	<b>32,050,000</b>	<b>28,530,000</b>	<b>3,520,000</b>	
人件費	10,000,000	10,000,000	0	
福利厚生費	2,500,000	2,500,000	0	
交通費	400,000	400,000	0	
通信運搬費	2,700,000	3,000,000	△ 300,000	
会議費	2,000,000	2,000,000	0	
印刷費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	
備品費	200,000	200,000	0	
消耗品費	300,000	500,000	△ 200,000	
光熱費	250,000	230,000	20,000	
賃借料	4,000,000	2,700,000	1,300,000	OA 機器リース 料含む
諸会費	900,000	900,000	0	
修繕費	100,000	100,000	0	
嘱託料	2,500,000	2,500,000	0	
租税公課 (消費税等) (法人税等)	3,000,000	500,000	2,500,000	事業費支出より
雑費	500,000	500,000	0	
<b>3. 特定預金支出</b>	<b>16,600,000</b>	<b>4,600,000</b>	<b>12,000,000</b>	
退職給与引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0	
学術医療振興基金等取得支出	3,000,000	3,000,000	0	
100周年記念事業引当預金取得支出	12,000,000	0	12,000,000	
<b>4. 予備費</b>	<b>1,000,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>△ 2,000,000</b>	
当期支出合計 (C)	<b>222,150,000</b>	<b>202,630,000</b>	<b>19,520,000</b>	
当期収支差額 (A - C)	<b>775,000</b>	<b>8,480,000</b>	<b>△ 7,705,000</b>	
次期繰越収支差額 (B - C)	<b>93,296,000</b>	<b>53,961,000</b>	<b>39,335,000</b>	

◇平成 24 年度事業計画並びに収支予算について：社団法人日本病理学会平成 24 年度事業計画ならびに収支予算は、以下のとおりである。

## ○平成 24 年度事業計画

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

## 〔事業の概要〕

## I. 学術集会、研究会等の開催

## 1. 学術集会の開催

- (1) 第 101 回日本病理学会総会（於東京・岡田保典会長）
- (2) 第 58 回日本病理学会秋期特別総会（於名古屋・黒田誠会長）

## 2. 研究会、講習会等の開催

- (1) 第 9 回日本病理学会カンファレンス
- (2) 細胞診講習会
- (3) 病理診断講習会
- (4) 各支部における学術・研究集会
- (5) 第 6 回診断病理サマーフェスト

## 3. 公開講座・シンポジウムの開催

## II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行（第 101 巻第 1～2 号）
2. 「Pathology International」の発行（Vol. 62 4～12, Vol. 63 1～3）
3. 「診断病理」の発行（第 29 巻第 2～4 号, 第 30 巻第 1 号）

- 4. 「日本病理学会会報」の発行（第 291～302 号）
- 5. 「病理専門医部会報」の発行（2012 年 第 2～4 号、2013 年 第 1 号）

III. 研究および調査

- 1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第 53 輯（平成 22 年症例）
- 2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
- 3. 剖検記録データベースの再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

- 1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
- 2. 病理専門医の広告
- 3. 研修手帳の実施
- 4. 研修施設の認定および資格の更新

V. 学術団体との協力、連絡

- 1. 学術団体等との会議共催および後援
- 2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
- 3. 海外病理学会との交流
  - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流
  - (2) ドイツ病理学会との学術交流
  - (3) アジア各国との学術交流

VI. その他目的を達成するために必要な事業

- 1. 日本病理学賞（宿題報告）の授与
- 2. 日本病理学会学術奨励賞の授与
- 3. 日本病理学会学術研究賞（A 演説）の授与
- 4. 病理学卒前教育の充実
- 5. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
- 6. インターネットホームページの充実
- 7. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施
- 8. 病理専門医制度運営、医療業務、学術・研究等の各種委員会の開催
- 9. 100 周年記念事業特別基金プロジェクトの実施

○平成 24 年度収支予算

（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

（単位 円）

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
<b>1. 基本財産運用収入</b>	<b>10,000</b>	<b>15,000</b>	<b>△ 5,000</b>	
受取利息収入	10,000	15,000	△ 5,000	
<b>2. 会費収入</b>	<b>58,990,000</b>	<b>60,630,000</b>	<b>△ 1,640,000</b>	
学術評議員会費収入	20,000,000	22,400,000	△ 2,400,000	65 歳定年制導入による減
終身会費収入	3,000,000	3,000,000	0	
一般会員会費収入	23,500,000	22,740,000	760,000	学術評議員から一般会員へ
学生会員会費収入	10,000	10,000	0	
賛助会員会費収入	100,000	150,000	△ 50,000	
機関会員会費収入	380,000	330,000	50,000	
病理専門医部会費収入	12,000,000	12,000,000	0	
<b>3. 事業収入</b>	<b>131,900,000</b>	<b>131,700,000</b>	<b>200,000</b>	

学術集会収入	90,000,000	90,000,000	0	
論文掲載料収入	900,000	900,000	0	
広告料収入	800,000	800,000	0	
刊行物発行収入	12,000,000	13,000,000	△ 1,000,000	
専門医制度収入	17,000,000	16,000,000	1,000,000	
病理専門医部会収入	3,700,000	4,000,000	△ 300,000	
講習会等収入	5,000,000	4,500,000	500,000	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,500,000	0	
<b>4. 特定資産取崩収入</b>	<b>8,050,000</b>	<b>28,480,000</b>	<b>△ 20,430,000</b>	
学術医療振興基金取崩収入	3,650,000	3,480,000	170,000	
100 周年記念事業引当預金取崩収入	1,000,000	25,000,000	△ 24,000,000	
「100 周年記念特別基金」準備預金取崩収入	3,400,000	0	3,400,000	新設
<b>5. 雑収入</b>	<b>2,070,000</b>	<b>2,100,000</b>	<b>△ 30,000</b>	
受取利息収入	70,000	100,000	△ 30,000	
雑収入	2,000,000	2,000,000	0	
<b>当期収入合計 (A)</b>	<b>201,020,000</b>	<b>222,925,000</b>	<b>△ 21,905,000</b>	
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>93,296,000</b>	<b>92,521,000</b>	<b>775,000</b>	
<b>収 入 合 計 (B)</b>	<b>294,316,000</b>	<b>315,446,000</b>	<b>△ 21,130,000</b>	

（単位 円）

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
<b>II. 支出の部</b>				
<b>1. 事業費</b>	<b>162,400,000</b>	<b>172,500,000</b>	<b>△ 10,100,000</b>	
学術集会経費	90,000,000	89,000,000	1,000,000	
学会誌発行費経費	16,000,000	15,000,000	1,000,000	
会報等発行経費	1,500,000	2,000,000	△ 500,000	
剖検輯報刊行経費	10,000,000	11,000,000	△ 1,000,000	
専門医制度運営費経費	10,000,000	10,000,000	0	
病理専門医部会経費	8,000,000	8,000,000	0	
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0	
学術奨励等経費	3,500,000	3,000,000	500,000	
講習会等経費	3,500,000	3,500,000	0	
各種委員会経費	4,000,000	3,500,000	500,000	
事業人件費	5,000,000	8,000,000	△ 3,000,000	
100 周年記念事業経費	0	13,000,000	△ 13,000,000	
病理情報ネットワークセンター運営費	1,000,000	0	1,000,000	新設
「100 周年記念特別基金」プロジェクト経費	3,400,000	0	3,400,000	新設
<b>2. 管理費</b>	<b>30,500,000</b>	<b>32,050,000</b>	<b>△ 1,550,000</b>	
人件費	8,000,000	10,000,000	△ 2,000,000	
福利厚生費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	
交通費	450,000	400,000	50,000	
通信運搬費	2,500,000	2,700,000	△ 200,000	
会議費	2,200,000	2,000,000	200,000	
印刷費	2,000,000	2,000,000	0	
備品費	200,000	200,000	0	
消耗品費	400,000	300,000	100,000	
光熱費	250,000	250,000	0	
賃借料	4,000,000	4,000,000	0	
諸会費	900,000	900,000	0	
修繕費	100,000	100,000	0	
嘱託料	3,000,000	2,500,000	500,000	
租税公課（消費税等）	1,000,000	700,000	300,000	
（法人税等）	3,000,000	3,000,000	0	

雑費	500,000	500,000	0
<b>3. 特定預金支出</b>	<b>4,600,000</b>	<b>16,600,000</b>	<b>△ 12,000,000</b>
退職給与引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0
学術医療振興基金等取得支出	3,000,000	3,000,000	0
100周年記念事業引当預金取得支出	0	12,000,000	△ 12,000,000
<b>4. 予備費</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>
<b>当期支出合計 (C)</b>	<b>198,500,000</b>	<b>222,150,000</b>	<b>△ 23,650,000</b>
<b>当期収支差額 (A-C)</b>	<b>2,520,000</b>	<b>775,000</b>	<b>1,745,000</b>
<b>次期繰越収支差額 (B-C)</b>	<b>95,816,000</b>	<b>93,296,000</b>	<b>2,520,000</b>

◇第101回総会（平成24年度）：慶應義塾大学を世話機関として岡田保典会長、坂元亨宇副会長のもとで、平成24年4月26日（木）～4月28日（土）の3日間、京王プラザホテルにて開催された。

宿題報告は、澤田典均教授（札幌医科大学）による「生体バリアを担うタイト結合の機能病理学」、中村卓郎部長（がん研究所）による「白血病と骨軟部腫瘍の発生機序：遺伝子変異とそのネットワーク、発生活源の理解に向けて」、上田真喜子教授（大阪市立大学）による「ヒト動脈硬化の病理—新生内膜増殖とプラーク不安定化のメカニズム—」の3題であった。

特別講演は、川口淳一郎先生（宇宙航空研究開発機構）による「“はやぶさ”が挑んだ人類初の往復宇宙飛行、その7年間の歩み」、岡野栄之教授（慶應義塾大学）による「再生医学・医療の現状と将来：iPS細胞を用いた神経再生・疾患研究」の2題、教育講演は、Dr. William David Travis（Memorial Sloan Kettering Cancer Center）による「肺癌の病理」、高尾昌樹部長（東京都健康長寿医療センター）による「病理医に必要な神経病理学」、Dr. Donna E. Hansel（Case Western Reserve 大学）による「膀胱癌の病理」、森井英一教授（大阪大学）による「癌幹細胞」、村上善則教授（東京大学）による「がんの浸潤、転移と上皮間葉転換」、Dr. Elizabeth M. Brunt（Washington 大学）による「非アルコール性脂肪性肝疾患の病理」、柳井広之教授（岡山大学）による「子宮体癌の病理」、安田政実教授（埼玉医科大学）による「卵巣腫瘍の病理」、矢作直久教授（慶應義塾大学）による「内視鏡手術の進歩と外科病理学」の9題が行なわれた。

また、岡田保典教授（慶應義塾大学）による会長講演「組織破壊とリモデリングの病理学的研究：統括病理学の時代を迎えて」も行われた。一般演題は1,111題が発表された。

このほかシンポジウム3件、ワークショップ10件、病理学入門シリーズ8件、ランチオンセミナー21件、モーニングセミナー1件、イブニングセミナー1件、コンパニオンミーティング10件、学生ポスター発表、および学術奨励賞受賞者ポスター発表も行われた。

また、系統的・剖検病理診断講習会（感染症の病理、剖検講習会、分子標的療法と病理診断）および臓器別病理診断講習会（循環器、甲状腺、中皮腫、骨軟部）が開かれた。

学術集会閉会後には市民公開講座も開催された「我が国にお

ける最先端がん治療」。

○今後予定されている総会は以下のとおりである。

- 1) 第58回（平成24年度）秋期特別総会  
世話機関：藤田保健衛生大学  
会長：黒田 誠教授  
会期：平成24年11月22日（木）～23日（金）  
会場：ウインクあいち（名古屋）
- 2) 第102回（平成25年度）総会  
世話機関：札幌医科大学  
会長：佐藤昇志教授  
会期：平成25年6月6日（木）～8日（土）  
会場：ロイトン札幌他
- 3) 第59回（平成25年度）秋期特別総会  
世話機関：山梨大学  
会長：加藤良平教授  
会期：平成25年11月21日（木）～22日（金）  
会場：富士屋ホテル（甲府）
- 4) 第103回（平成26年度）総会  
世話機関：広島大学  
会長：安井 弥教授  
会期：平成26年4月24日（木）～26日（土）  
会場：広島国際会議場他

◇上記総会に関連して開催された理事会、学術評議員会等ならびに総会について：平成24年3月2日にホテル機山館、および4月25日に京王プラザホテルにて理事会が開催され、4月26日には学術評議員会・病理専門医部会、4月27日には総会が開かれた。総会の席上で、第13回（平成23年度）学術奨励賞授賞式が行われた。これらの理事会、学術評議員会および総会では、理事長、委員会委員長の報告があった。

理事会では、第58回（平成24年度）秋期特別総会学術研究賞受賞者（A演説担当者）およびB演説担当者選出の件、第13回（平成23年度）学術奨励賞受賞者の選出の件、平成24年度名誉会員推戴候補者について、平成24年度新学術評議員候補者名簿に関する件、新入会員（平成23年10月～平成24年1月）に関する件、事務局移転の件、常置委員会規定の変更・追加に関する件、が協議され、それぞれ原案のとおり決定した。

総会では、平成23年度事業報告ならびに収支決算に関する件、平成24年度収支予算修正の件、新名誉会員の推戴に関する件、新学術評議員の承認の件、定款施行細則及び役員規程変更の件、本学会平成24/25年度役員名簿の件が協議され、それぞれ理事会承認の原案どおり決定した。

◇春期理事会：平成24年3月2日（金）に機山館にて春期理事会のほか学術委員会等が開催された。理事会には青笹克之、向井 清、寺田信行、上田真喜子、佐藤昇志、深山正久、橋本

洋, 覚道健一, 加藤良平, 黒田 誠, 松原 修, 本山悌一, 根本則道, 岡田保典, 笹野公伸, 白石泰三, 山口 朗, 安井 弥 (以上理事 19 名中 18 名出席につき理事会成立), 真鍋俊明 (監事) 菊川敦子, 大藪いづみ, 宮本いづみ, 井口令子 (以上事務局) の各氏が出席した。

青笹理事長の司会により議事を進行した。議事録署名人には出席者代表として橋本 洋, 松原 修両理事が指名された。

## ○報告事項

### 1. 理事長報告

理事長より, 常任理事会等で検討, 報告されてきたことについて述べられた。

- (1) 新法人移行に伴い, 規定の見直しを寺田副理事長を中心に行ってきた。機関誌発行と編集委員会の規定については向井副理事長を中心に議論し, 下記のような意見がだされた。

- ① 機関誌 (PIN, 診断病理) の編集長の公募は, 任期も含めて規定を統一し, 編集委員会が行い, 候補者を理事会にはかるという形も考えられる。
- ② 「診断病理」は, 現在は専門医部会の下にあり, 専門医部会年会費 6,000 円分から刊行されているなど, 会計の問題も考慮する必要がある。
- ③ 診断病理編集委員会を病理専門医から公募する等の変更で管轄を変えることも可能であるが, 次期への申し送りとする。まず病理専門医制度運営委員会内で十分な議論をおこなうことが必要である。
- ④ 剖検情報委員長の選出規定も, 可能な範囲で他の編集長と整合性があるものが望ましいのではないかと。

- (2) 同様に学術関係の常置委員会規定については佐藤学術委員長を中心に検討を行い, 下記のような意見が出された。

- ① 学術委員会は宿題報告や A 演説などの選考が主な任務となっている。一方, 研究推進委員会は, 病理学会カンファレンスの企画を行っている。このため, 病理学会の学術活動全般を包括的に議論するような委員会を設ける必要がある。ついては, この二つの委員会を合同で開催し, この任務にあたってはどうか。
- ② 学術活動全般を担当する親委員会の下に, 賞の選考を担当する委員会や, カンファレンスを担当する委員会などを設けるとすることも可能である。

- (3) 病理学会の名前を冠した出版物の件について向井副理事長を中心に行ってきた。想定される状況として下記のものあげられた。

- A 「病理学会編」「監修」とする場合：病理学会が選んだ人が編集している
- a. 学会・委員会の企画で, 編集者と著者を選定したものの。著作権は病理学会に属する。
  - b. 出版社の企画に応じ, 学会が編集者や著者を推薦したもの。査読 (評価) も学会が行う。著作権は学会が保有する (一部または全て) が, 印税の一部を担

当者へ支払う。(ex 癌取り扱い規約)

- B 「病理学会編集協力」とする場合：病理学会が内容を担保する。

- c. 出版社が企画し, 編集者, 著者等も選定するが, 評価 (査読) を学会に依頼したもの。学会に編集協力費が支払われる。
- d. 編集者あるいは著者が企画し, 出版依頼したもので, 学会が評価 (査読) したもので。C と同様の扱い

- C 原則として認めない：学会が関与していないもの a～d 以外の場合

- (4) 秋期総会時の非会員シンポジストに謝金の支払い準備がされていなかったことが判明した。事務局の連絡不手際が指摘された。今後十分な注意が喚起された。
- (5) 現在学会が使用している会計基準は昭和 52 年制定の旧・旧会計基準であるため, 法人団体の新しい会計基準 (平成 16 年改正基準もしくは平成 20 年改正基準) に移行する必要がある件につき, 上田財務委員長が対応してきた。
  - ① 新しい基準は収支決算をベースにしたものから, 正味財産の増減をみる形に変更となる。
  - ② 会費の納入は年度ごとに対応し, 例えば該当年度に納入されなかった分は未収金として処理するなどの対応が必要となる。
  - ③ 事務局職員の夏の賞与について, 1-3 月分に相当する分は前年度分の引当金とする。
  - ④ 本の在庫は財産となる。
  - ⑤ 平成 16 年基準 (新会計基準) では各会計につき貸借対照表や正味財産増減計算書を作成し, 総括表を作成する必要がある。また, 従来から作成している収支計算書や収支予算書は内部管理事項として引き続き作成する必要がある。
  - ⑥ 平成 23 年度収支計算書は平成 16 年会計基準で作成する必要があり, これに基づき公益目的支出計画を作成する。平成 25 年新法人移行後からは平成 20 年会計基準 (新・新会計基準) を使用する予定である。
- (6) 支部会計本部会計合算の件についても上田財務委員長を中心に対応してきた。
  - ① 木村会計事務所から提示された収支決算書式を病理学会向けに修正したものが提案された。金額を円単位にし, 実態に近い金額をモデルとして記入した。財務委員会で検討の上, 上田財務委員長より各支部へ配布した。
  - ② 合算が円滑に進むよう, 各支部の予算書の提出も, 同様の書式を想定している。
  - ③ 「財産」の扱いなど, 会計事務所の想定と支部の現状とに乖離があるので, 委員長が会計事務所と相談する。会計事務所からの指摘については, 当面は支部会計を合算することを優先し, その後の対応としたい。

- ④ これらの対応のため、会計事務所への嘱託料の支払いが増加することが考えられる
- ⑤ 各支部での事業について、今までどおり繰越金を活用できることが確認された。  
また、支部補助金は会費収入が集まった7月頃に支払うこととする。
- (7) 現在非常勤事務局職員の井口令子氏を4月から正式職員とする件を3月理事会に提案することとした。
- (8) がん取扱い規約について検討を行ってきた。
- ① 従来の「癌取扱い規約拡大委員会」から拡大の文字を除き、「がん取扱い規約委員会」とすることが理事長より諮られ、これを承認した。次に「癌取り扱い規約委員会」の内規案が青笹理事長より提案された。委員は学術評議員に限る形にすること、委員長は理事長推薦、理事会決定とすることが追加された。理事長直轄の特別委員会としてスタートする。従来は各規約から1名ずつ、関係している会員をオブザーバーとして出席を依頼していたが、これは今後必要な場合のみ招集することとする。
- ② 1月24日開催の平成23年度「癌取り扱い規約拡大委員会」で、以下の点について了承した。
- ・委員会名から「拡大」を削除→「癌取り扱い規約委員会」とする。
  - ・内規案を承認した。
  - ・執筆者、レビューアーの選方法と担当者への謝金の支払いを行うこと。
- (9) 第18回中華病理学会で日中合同シンポジウムが企画されている。シンポジストとして、中華病理学会からの希望で坂元亨宇学術評議員、八尾隆史学術評議員を派遣し、もう1名の推薦を行うことになり、前立腺、乳腺の分野で国際交流委員会より公募を行ったところ、都筑豊徳先生（名古屋第二赤十字病院）より応募があり、委員会として承認した。
- (10) 「100周年記念事業特別基金プロジェクト」の会計処理については、上田財務委員長の担当であることが確認された。
- ① 「新人賞」に関する経費は今年度から執行のため、随時申請してもらう。
- ② 「夏の学校」「子育て支援」については、4月に一括して支部へ支払う。各支部はプロジェクト毎の収支報告を、2月を目処に行う。  
こうした会計手順につき、上田財務委員長がとりまとめ、各プロジェクトリーダーに提示し、合意を得ることになった。
- (11) 社会保険委員会のご尽力もあり、今回の保険診療報酬改定では、「病理診断管理加算」320点（組織診断の場合）がついた。
- (12) 日本医学会より、日本医学会が法人化することの賛否と、法人化される場合の各学会分担金を支払う件につき、アンケートがきている。病理学会としては、法人化に賛成、分担金は会員数均等割り案に賛成するが、基本負担金+会員数均等割案でも可とする旨、回答することとした。2月22日開催の医学会評議員において、法人化が決定された。
- (13) 平成24年度春期総会では平成23年度収支決算と平成24年度収支予算に支部会計を合算し、平成16年基準に変更したものの承認を得る必要がある。この件に関しては引き続き上田現財務委員長が担当することが確認された。
- (14) 日本専門医制評価・認定機構は平成25年末に専門医と研修施設の認定を行う第三者機関の設立を目指している。
- (15) 事務局移転について、WGによる候補物件の提示がなされ、利便性、安全性、財務上の観点から検討の結果、聖堂前ビル7F（湯島）を選定した。
- (16) 病理コア画像の学会外からの利用申請が数多くなされている。この許諾のルール作りを次期編集委員会にお願いすることとした。
2. 各種委員会委員長報告
- 各種委員会委員長より、前回理事会以降の件を中心として、報告があった。
- (1) 企画委員会（向井 清委員長）  
常置委員会規定の見直しの中で、整合性がとれていない、現状に即していないと思われるものがあり、それらについて検討を行ってきた。
- ① PIN, 診断病理, 剖検輯報等刊行物の編集長の任期や、募集方法等に違いがあるため、次期編集委員長への申し送り事項とし、検討を依頼する。
- ② 「学会の名前を冠する出版物の編集協力」については、理事長報告(3)の通り提案するが、これについても次期編集委員長への申し送り事項とする。
- ③ 学術評議員の資格基準、および定年制導入についての内規、細則については、先日の秋の総会で承認された。
- (2) 病理診断講習会委員会（向井 清委員長）  
現在は系統的講習会2, 剖検講習会1, 臓器別講習会4という構成である。臓器別については、各支部に隔年で、関東のみ毎年担当いただいている。現在の状況については次期委員長に引き継ぎを行う予定である
- (3) 新法人移行WG（寺田信行責任者）
- ① 移行申請は最終修正の余地を11月総会に残せるよう、平成24年6月～9月を想定している。
- ② 必要書類のうち、定款は前年の秋期総会で承認を得た。その他規定集についても見直しを進め、秋の理事会、総会の際に規定集の変更について承認を得て、平成25年4月1日にスタートできるよう準備する必要がある。

- ③ 移行申請の準備で現在最も重要なことは財務関係書類のうち、「公益目的資産支出計画」の作成である。これは現在行っている赤字の公益事業の赤字補填に病理学会の公益資産を使用し、今まで赤字の補填に使用してきた会費収入等を、今後は遊休資産として蓄えていくというものである。
- ・学会の事業を実施事業（公益事業のみ）、その他の事業（公益事業および収益事業）、法人（管理）の3つにわけらる。
  - ・公益資産は、実施事業のみにしか支出できない。できるだけこの実施事業の赤字が増える様に工夫する必要がある。
  - ・公益資産を使い切ることで、官庁の監督下から早く離れることができる。
  - ・現在の病理学会の事業を6公益事業と1収益事業に分け、赤字の公益事業を実施事業とする下記のような事業仕分けを考えているが、実施事業に、専門医制度、専門医部会事業を含めても問題はないので、この点に関しては今後検討する。  
実施事業：本部学術事業、100周年記念事業、剖検輯報事業、支部学術事業  
その他の事業：専門医制度事業、専門医部会事業、保険事業
  - ・現在法人管理費として処理されている、人件費、賃貸料、光熱費等を各事業に配分する必要がある。配分比率は「業務従事割合」を基に決めるが、実施事業の赤字が多くなるように工夫する必要がある。
  - ・4月の理事会、総会では、完成した「公益資産支出計画」を報告することは、時間的な余裕から判断して困難と思われる。総会では公益支出計画の概要と、現在病理学会が保持している公益財産は遊休資産として維持されることを会員に理解してもらい、その後内閣府の承認を得た「公益資産支出計画」を理事会、総会で事後承認していただくようにしてはどうか。ただし、この「公益資産支出計画」の最終案は平成25年3月31日の公益資産を基に公益資産支出計画が作成されるので、数字が変わることを認めてもらうことが必要である。
- ④ ③の説明について
- ・将来公益法人を目指す可能性もゼロではないが、その場合公益資産の取り扱いはどうなるのかとの質問が深山理事よりだされた。寺田副理事長よりまずは一般社団に移行する必要がある、その申請のためには、一度公益目的資産支出計画を作成しなければならないが、一般社団法人から公益法人になる時点で、保有している資産の取り扱いに関しては、調べていないのでわからないとの返答があった。
  - ・公益資産が、支出されるに伴い、新しく蓄積されてい

く資産の呼び名について深山理事より質問された。寺田副理事長より、遊休資産ということになるが、この資産は、公益目的に限らず支出可能な財産となるとの回答があった。

- ・この計画の際の事業の仕分け方が、将来の公益事業を考える際に、既定事実としてとられる可能性について深山理事より質問された。寺田副理事長より、あくまでこの支出計画のための事業仕分けと考えており、実施事業、その他の事業の区分に関しては再検討の余地はあると回答された。
  - ・上田財務委員長より、機関誌発行や学術集会開催などの本部会計は赤字で、専門医制度、部会会計は黒字という、現状を考慮してこの仕分け案が作成されたことが補足説明された。
  - ・向井副理事長より、学術評議員定年制の導入や、会費の値下げによる会費収入減少見込みであることなども、次期執行部には十分配慮されたい旨、発言された。
- ⑤ 青笹理事長より、一般社団法人を目指すことは、総会議決で決めたことであるので、将来公益社団に移行する場合もあり得るが、その際は改めて手順を踏んで進めて欲しい旨が述べられ、出席者は、これを確認した。
- (4) 広報委員会（岡田保典委員長）
- 2月末に新HPへ切り替えが行われた。コンテンツやその他修正点を多く残している状態だが、運用しながら修正を行う予定である。大きな変更点としては、画像を増やして視認性を高めたこと、PIN閲覧ボタンをトップページのわかりやすいところにおいたこと、企業からのバナー広告（5万円/1年間）を掲載することにしたことである。
- (5) 財務委員会（上田真喜子委員長）
- ① 現在学会が使用している会計基準は昭和52年制定の旧・旧会計基準であるため、法人団体用の新しい会計基準（平成16年改正基準もしくは平成20年改正基準）に移行する必要がある。概要を知るため、平成22年度の病理学会収支決算を平成16年度会計基準モデルで作成した。
  - ② 平成16年基準（新会計基準）では各会計につき貸借対照表や正味財産増減計算書を作成し、それをあわせた総括表を作成する必要がある。また、従来から作成している各会計別の収支計算書や収支予算書は内部管理事項として引き続き作成する必要がある。
  - ③ 平成23年度収支計算書は平成16年会計基準で作成する必要があり、これに基づき公益目的支出計画を作成する。平成25年新法人移行後からは平成20年度会計基準（新・新会計基準）を使用する予定である。
  - ④ 支部会計統合に向けて、前回理事会で提示した予算書と決算書のモデルに微修正を行った。平成24年度からは100周年記念事業の「夏の学校支援プロジェクト」

「育児支援プロジェクト」の予算も組み込まれるので活用されたい。

- ⑤ 各支部には3月10日までに平成23年度仮決算を、最終決算を4月2日ごろまでにご提出いただく。
  - ⑥ 事務局の会計システムを、会計ソフトを利用する形に変更する件につき、PCとソフトの購入を行った。
  - ⑦ 今年度受けた剖検輯報科学研究費補助金について、今回は事務局が会計を担当することとした。
  - ⑧ 平成23年度収支決算書の作成については現上田財務委員長が担当する。
  - ⑨ 平成22年度修正決算の作成については真鍋監事の了承を得たので、今年度中に文科省に修正の届け出を行う。
  - ⑩ 公益目的財産支出計画については、現在会計事務所とともに対応している。
  - ⑪ 次期財務委員長への引き継ぎ準備も行っている。
  - ⑫ 加藤関東支部長より、3月までの決算を4月早々に行うのはスケジュール的に大変難しいとの意見がだされた。これについては、本部会計も状況は同じだが、できるだけの支援を行うので、文科省の指導に応じるため、対応をお願いしたい旨、上田財務委員長より発言された。
  - ⑬ 笹野国際交流委員長より、現在の国際交流基金を取り崩して使用することが可能かどうか、質問された。これについて、寺田副理事長から国際交流基金の使用は可能であるが、総会で使用の承認を得る必要があるとの回答があった。
  - ⑭ 深山理事より、「病理学会の一般会計が赤字であると発言されることで、会員の不安をあおっているように思える。学会の会計は1本であるので、全体としては健全な状態であることを、会員に伝えるべきではないか」との発言があった。上田財務委員長より、「一般会計（剖検輯報、専門医制度、専門医部会会計を含まない収支をさす場合）が大幅な赤字であるのは事実であり、その現状を前回の総会で報告しただけである」との回答がなされた。
- (6) 学術委員会（佐藤昇志委員長）
    - ① 座長候補参考リストの2012版が完成した旨、報告された。若手の育成も目的であるため、30-40代の研究者が4割を占める形になっている。
    - ② 学術委員会と研究推進委員会の役割については、学会の根幹に関わる重要なことであり、次期執行部に引き続き検討を依頼したい。
  - (7) 研究推進委員会（安井 弥委員長）
 病理学会カンファレンス2012 山口の準備が順調に進んでいる。学術委員会と研究推進委員会の役割についても継続して検討を行う。
  - (8) 編集委員会（覚道健一委員長）

特に報告事項はないが、理事長直轄で行われた問題については、次期の委員会に申し継ぎたい。

- (9) 病理専門医制度運営委員会（深山正久委員長）
  - ① 専門医制評価・認定機構が、専門医を認定する第三者機関の設立をすることが濃厚となっている。将来的には、こちらのお墨付きを受けた形で病理専門医を認定することになると思われ、組織、実務、資金の面で対応が必要になることが予想される。
  - ② 学会内としても、「研修手帳」を無償配布する準備がすすんでおり、近日病理専門医研修登録者の手元に届く予定である。
  - ③ その他、講習会の準備も粛々と行っている。特に、来年の札幌総会は試験の申請後に開催されるため、再来年度受験者で、各種講習会未受講者は注意をされたい旨、確認された。
  - ④ ①について、向井副理事長より、研修施設の現地サーベイも検討されており、すでにモデル調査が実施されている旨、発言された。
- (10) 医療業務委員会（根本則道委員長）
  - ① 社会保険については、平成24年度改定が行われ、病理検体管理加算が認められた。複数病理医がいる病理部門にとって大きな増額となるが、人員確保が難しい病院にとっては診断料の引き下げを伴うため、減額になる可能性がある。
  - ② コンサルテーションは事務局の増員に伴い、この3月より業務を再開した。
- (11) 口腔病理専門医制度運営委員会
 指導医制度開始に伴い、現在指導医証の発行準備中である。また、専門医試験準備も順調である。
- (12) 教育委員会（本山 悌一委員長）
 医学教育学会から参加依頼のあった集会に委員会から3名参加した。興味深いものではあったが、準備期間が短かったため結果を今後活かすことは難しいように感じられた。病理学会の事業についても、今後そうしたことに配慮して進めて欲しい。
- (13) 国際交流委員会（笹野 公伸委員長）
  - ① ドイツとの交流では、安井理事を、イギリスとの交流には廣田誠一学術評議員を派遣する。中華病理学会には、坂元亨宇、都築豊徳、八尾隆史の各学術評議員が日中合同シンポジウムに参加する予定である。
  - ② 中国との交流については学会間の協定に基づくものと、企業が関係しているものがあるので、今後整理をして欲しい旨、青笹理事長より発言された。
- (14) 支部委員会（橋本 洋委員長）
  - ① 現在支部会計の本部会計合算に向けて各支部は準備を行っている。
  - ② 支部事務局の経費について補助がでるよう、今後検討をして欲しい。

- (15) サマーフェスト委員会（松原 修委員長）  
診断病理サマーフェストは、今年は脳腫瘍をテーマに開催され、来年は消化管がテーマである。  
現在までは毎回200名を超える受講者があるのでしばらく継続して開催をしたいと考えている。
- (16) 選挙管理委員会（松原 修委員長）  
電子投票にむけて、早めに検討、準備をお願いしたい。
- (17) 支部学術委員会（白石 泰三委員長）  
学術委員会とともに座長候補参考リストの作成を中心に活動してきた。
- (18) 死因究明委員会（黒田 誠委員長）  
補助金事業としてモデル事業が継続される予定である。
- (19) 人材育成委員会（橋本 洋委員長）
- ① 昨年実施した病理医の業務実態アンケートを現在集計中で、春の総会では報告出来る予定である。
  - ② 若手医師確保の委員会では「新人研究賞」の2次選考が月末に開催される予定である。
- (20) 男女共同参画委員会（加藤良平委員長）  
100周年記念事業プロジェクトとして、各支部活動の際の託児所支援が平成24年から開始予定である。
- ③ 富田 弘之（岐阜大学大学院医学系研究科腫瘍病理学講座）
  - ④ 佐久間 裕司（神奈川県立がんセンター臨床研究所）
  - ⑤ 佐藤 康晴（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病理学）
  - ⑥ 木村 徳宏（慶應義塾大学医学部病理学）
  - ⑦ 川崎 朋範（山梨大学医学部附属病院病理部）
- (2) 松原委員長より、選考において以下の問題点があげられた。委員長より申し送り書を作成し、次期学術委員会にて検討することとした。
- ① 「事業に貢献した」会員も対象となるが、その評価が難しい。
  - ② 提出される「業績」について対象課題のみを付けてくる候補者、自身の全業績をつけてくる候補者など、まちまちであるため改善の必要がある。
  - ③ 選考委員からの推薦の扱い

#### ○協議事項

1. 第58回（平成24年度）秋期特別総会学術研究賞受賞者（A演説担当者）およびB演説担当者選出の件  
標記の件につき、佐藤昇志学術委員長より同日開催の学術委員会にて下記の通り候補者（応募順）を選出した旨報告された。協議の結果、原案を満場一致で承認した。
  - (1) A演説 8題（応募20題）
    - ① 黒田 直人（高知赤十字病院）
    - ② 新村 和也（浜松医科大学）
    - ③ 池田純一郎（大阪大学大学院医学系研究科）
    - ④ 山本 宗平（陸上自衛隊第8師団司令部）
    - ⑤ 穴戸-原 由紀子（杏林大学医学部）
    - ⑥ 二口 充（名古屋市立大学大学院医学研究科）
    - ⑦ 池原 譲（産業技術総合研究所）
    - ⑧ 竹内 賢吾（がん研究会がん研究所）
  - (2) B演説 3題（応募10題）
    - ① 菅原江美子（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）
    - ② 植田 初江（国立循環器病研究センター）
    - ③ 大迫 智（がん研究会有明病院）
2. 第13回（平成23年度）学術奨励賞受賞者の選出の件
  - (1) 標記の件につき松原修学術奨励賞選考委員長より、同日開催の学術奨励賞選考委員会にて以下のとおり候補者7名（被推薦者17名・受付順）を選出した旨報告された。協議の結果、原案を満場一致で承認した。
    - ① 菰原 義弘（熊本大学大学院生命科学研究部細胞病理学）
    - ② 吉田 朗彦（国立がん研究センター中央病院病理科）
    - ③ 富田 弘之（岐阜大学大学院医学系研究科腫瘍病理学講座）
    - ④ 佐久間 裕司（神奈川県立がんセンター臨床研究所）
    - ⑤ 佐藤 康晴（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病理学）
    - ⑥ 木村 徳宏（慶應義塾大学医学部病理学）
    - ⑦ 川崎 朋範（山梨大学医学部附属病院病理部）
  - (2) 松原委員長より、選考において以下の問題点があげられた。委員長より申し送り書を作成し、次期学術委員会にて検討することとした。
    - ① 「事業に貢献した」会員も対象となるが、その評価が難しい。
    - ② 提出される「業績」について対象課題のみを付けてくる候補者、自身の全業績をつけてくる候補者など、まちまちであるため改善の必要がある。
    - ③ 選考委員からの推薦の扱い
3. 平成24年度名誉会員推戴候補者について  
対象者に行ったアンケート結果が提示され、1月現在名誉会員推戴希望者が45名いることが報告され、満場一致で承認された。このアンケート結果と、終身会費納入状況から、次回理事会で最終候補を決定し、総会へ推薦することとした。
4. 平成24年度新学術評議員候補者名簿に関する件  
向井清学術評議員資格審査委員長より、候補者75名の名簿と、その審査結果が報告された。下記②と③の4名を除いた71名の資格は問題なしとされ、満場一致で承認された。③の候補者の資格審査についても向井委員長に一任することとし、最終候補者リストを次回理事会で決定し、総会に推薦する。
  - ① 1名については、筆頭の業績再提出により、資格ありと判断した。
  - ② 3名は申請時（1月末日）時点では病理研究歴が不足しているが、臨床検査技師として活動していた期間を含めているが、大学院研究相当とは認められないなど、満7年という病理研究歴が満たされていないため、資格なしと判断した。
  - ③ 1名は現在書類再提出依頼をし、研究歴確認中である。
5. 新入会員（平成23年10月～平成24年1月）に関する件  
標記入会者リスト37名が提示され、協議の結果満場一致で入会が承認された。
6. 事務局移転の件  
事務局移転WG責任者の上田真喜子財務委員長より学会事務局移転候補物件の選定について説明があった。
  - (1) WGで検討の結果、下記を条件とすることとした。
    - ・30-40坪の広さ、新耐震基準をみたしていること、家賃+共益費で60万円/月以内であること
    - ・東京駅からも利便性がよく、現在の事務所からも近いJRお茶ノ水駅から徒歩圏であることこれを満たす8物

件を見学し、3件を候補として常任理事会に提示した。常任理事会で検討の結果、価格と広さの面から、聖堂前ビル（文京区湯島）が候補物件として提案された。協議の結果満場一致でこの案が承認された。

- (2) これを受けて、6月1日より契約とし、共益費を払い始めること、フリーレントの適用を受けられることになったため、家賃の支払いは9月からになる予定であることが報告された。

## 7. 常置委員会規定の変更、追加に関する件

### (1) 癌取り扱い規約委員会内規について

- ① 癌取り扱い規約委員会、常任理事会で了承された内規案が、向井企画委員長から提案がされた。
- ② 深山理事より、現在の癌取り扱い規約は、規約毎に発行主体や担当学会、病理医の参加の立場もまちまちであるため、一律にレビューアーの人選を行うというのは難しいと思われ、この件については、次期理事会での検討事項としたいとの意見があった。
- ③ 審議の結果、原案より3の「理事会の諮問をうけてこの委員会が担当すること」の(2)「担当委員によって作成された規約案のレビューをするレビューアーの人選」を削除することとした。
- ④ 青笹理事長より、各所で検討を重ね、了承されてきた内規案でもあるので、向井万起男癌取り扱い規約委員会現委員長の意見をきき、相談しながら検討を進めることが必要と発言された。
- ⑤ 審議の結果、④の条件も含めた修正案を満場一致で承認した。

- (2) 学術研究賞選考要領がなかったことについて、宿題報告選考要領などを参考に学術委員会で作成し、同日の委員会で承認されたことが報告された。

## 8. 前事務局長大藪いづみ氏の後任として、現在の非常勤職員である井口令子氏が4月1日より常勤職員となることが、満場一致で承認された。

**理事会：**平成24年4月25日（水）京王プラザホテルにて理事会および各種委員会が開催された。

理事会には深山正久（理事長）、岡田保典、黒田 誠、安井 弥、落合淳志、根本則道、小田義直、笹野公伸、白石泰三、高橋雅英、上田真喜子、山口 朗、笠原正典、八木橋操六、加藤良平、野島孝之、伏木信次、吉野 正、横山繁生、（以上理事19名全員出席につき理事会成立）中沼安二（監事）、坂元亨宇（第102回総会副会長）、佐々木毅（書記）菊川敦子、宮本いづみ、井口令子、大藪いづみ、（以上事務局）の各氏が出席した。深山理事長の司会により議事を進行した。議事録署名人には出席者を代表して小田義直、高橋雅英両理事が指名された。

### ○報告事項

#### 1. 理事長報告

- (1) 本学会の最重要課題は「後継者のリクルート・育成」で

あるとし、理事長の所信が述べられた。

- (2) 「100周年記念事業特別基金」プロジェクト5題については、各申請元委員会が今後の運営を担当し、継続性を維持する。
- (3) 文京区湯島1-2-5 聖堂前ビル7階への事務局移転は、6月末を予定している。
- (4) 本学会会員推移状況が示された。現在の会員数は4205名である。
- (5) 各種関連団体について

- ① 現在の派遣委員名簿が確認された。原則本学会関係委員会に推薦を依頼し、常任理事会で了承する形で委員決定をしている。
- ② 負担金・会費等の一覧が示された。8団体に総額200万円超を納めている。

## 2. 担当委員長より各種委員会報告があった。

### (1) 倫理委員会報告（伏木信次委員長）

- ① 病理検体の研究使用、保存などに関わる問題について検討を行うため、まず現状の調査を行うこととした。認定施設へのアンケート実施も予定している。
- ② 役員へのCOI報告が開始されたが、その結果報告の方法について、理事長より検討依頼が出された。伏木委員長がこれを了承し、委員会で検討することとした。

### (2) 企画委員会報告（落合淳志委員長）

企画関連委員会全体として今後取り組みたい課題として以下があげられた。

- ・診断医の減少が予想されるため、それに応じた今後の診断体制のあり方
- ・JCOGへの病理医の関わり方について
- ・「新人賞」の運営について
- ・男女共同参画、若手医師のキャリアパスの問題

### (3) 将来構想計画委員会報告（佐々木毅委員長）

本学会の活動の方向性について、特に若い病理医・研究者の育成を見据えて検討を行う。委員には担当関連委員会委員長が加わっている。その他の検討要望課題も申し出があれば対応する。

### (4) 企画関連委員会報告（落合淳志企画委員長）

- ① 「病理医・研究医のリクルートと育成委員会（委員長：豊國伸哉学術評議員）」では特に研究医の育成のために、「病理学研究新人賞」を昨年度より設置し、第1回の受賞者を選考したとのことである。
- ② 「がん診断体制委員会（落合淳志委員長）」は、当面癌取り扱い規約委員会を中心に活動を行う。各種病理診断ガイドラインの策定も検討する。
- ③ 「男女共同参画委員会（委員長：大橋健一学術評議員）」は明日以降委員会を開催する。
- ④ ②については、国民への広報も含めて、病理からの国のがん対策へ提言を行うなど、広い視野での活動も期待している旨が、深山理事長より発言された。

- (5) 広報委員会（根本則道委員長）。
- ① 会員メーリングリスト（ML）の整備，関連団体からくる広報，周知依頼に対するガイドラインの策定，HPの充実などに取り組む。特にE-mailを使用しないという会員へのML利用周知についての検討を行う。
  - ② 「病理情報管理ネットワーク委員会（委員長：宇於崎宏学術評議員）」とも十分な連携をはかる。
  - ③ 一般の方への広報の重要性から「市民公開講座委員会（委員長：伊藤智雄学術評議員）」の活動も充実させる。今総会でも最終日に市民公開講座が開催される。
- (6) 学術委員会報告（安井 弥委員長）
- ① 担当する各賞の選考と，学術集会の活発化を通じて，学術活動を発展させる。
  - ② 関連常置委員会である編集委員会，研究推進委員会と連携も重視していく。特に研究推進委員会とは，秋期総会時に合同委員会を開催する予定である。
  - ③ 学術奨励賞選考委員会の依頼をうけて，受賞者の選考方法，応募書類等につき検討を行った。
  - ④ 新人賞等，その他各賞の選考についても，俯瞰し，統一性をもたせる。
- (7) 学術奨励賞選考委員選出検討WG報告（笠原正典責任者）  
会期中に委員会開催予定であるので，まず委員選出方法等について議論する。次回の募集に間に合うよう，選考方法，提出書類書類等も検討する。
- (8) 研究推進委員会報告（小田義直委員長）
- ① リサーチマインドをもった診断医，研究医の育成に努める。
  - ② 病理学会カンファレンスについてはより若手の参加者，リピーターを増やす方策を検討する。開催地を固定するという案も出ている。尚，第9回は池田栄二世話人（山口大学）の下準備が進んでいる。次回第10回は兵庫県での開催を検討している。
  - ③ 学術委員会との連携強化のため，年に1回は合同委員会を開催する。
  - ④ その他技術講習会の再開等も検討課題とした。
- (9) 編集委員会報告（高橋雅英委員長）
- ① Pathology International の今年の投稿数は300超，採択率約40%で安定してきている。
  - ② 韓国病理学会より英文誌統合の検討依頼がきており，検討中である。
  - ③ 診断病理の編集は順調である。
  - ④ 深山理事長より依頼があった「病理学会編集協力」の名義を付した本の出版ルール整備についても継続して検討する。
  - ⑤ 深山理事長より「病理コア画像」の転載についてもルール作りを依頼された。
  - ⑥ 陪席していた坂元亨宇PI編集長からも，韓国病理学会からの申し出について迅速に検討するとの発言があった。
- (10) 剖検情報委員会報告（根本則道委員長）
- ① 平成24年度は科学研究費補助金を受けることができなかった。
  - ② 剖検輯報編集実務の一部を事務局に移管する予定である。
- (11) 財務委員会報告（岡田保典委員長）
- ① 一般社団法人へ移行するにあたり，公益財産支出計画を策定する必要がある。
  - ② さらなる会費の値下げについても検討する。
- (12) 教育委員会報告（上田真喜子委員長）
- ① 100周年記念事業プロジェクトから補助金がでる「夏の学校」は今年度6支部で開催される。
  - ② 「夏の学校」を活性化するために，情報の共有化や相互視察などの案が検討された。
  - ③ 春期総会時の「ポスターセッション」の継続と活性化のために，意見交換を行った。
  - ④ 「病理コア画像」についてさらなる充実を図る。
- (13) 国際交流委員会報告（笹野公伸委員長）
- ① 日英・日独交流は現状継続とする。
  - ② 日中交流は，現在の「日中交流ワークショップ」を国際交流委員会マターとし，演者の交換を行う。それぞれ，相手国の学会に参加希望の人を，演者として招くこととする。
  - ③ 各交流事業の招聘にあたらぬ年の春期総会長は，国際交流委員会と相談の上，希望の海外演者2名を委員会の予算内で招聘することができる。
  - ④ 秋期総会時には，アジアの若手ポスターセッションを行い，5名前後の演者につき，旅費10-15万円内の補助を行う。秋期総会長が滞在費と参加登録費を負担する。
- (14) 生涯教育委員会報告（委員長：森永正二郎学術評議員代深山理事長）  
シニア世代の生涯学習につき，WEBの利用を含めて多角的に検討をする。
- (15) 支部学術委員会報告（吉野 正委員長）  
座長候補リストの充実をはかる。他支部の学術活動についても積極的に情報を共有する。
- (16) 病理専門医制度運営委員会報告（黒田 誠委員長）
- ① 研修施設の更新申請承認をした。
  - ② 専門医受験申請者の死体解剖資格未取得者の処遇について検討した。死体解剖資格は国家マターであるので，条件が整い次第申請をするよう，さらなる周知徹底につとめることとした。
  - ③ 本年の専門医試験は7月末に名古屋大学で開催予定であり，準備が進んでいる。受験申請書類の提出期限を少し遅らせたので，提出前に指導者が今一度確認するよう，周知につとめる。

- ④ 研修登録制度を開始し、バインダーの配布を開始した。該当者はバインダーでの試験申請書類提出が義務づけられている。尚、今期から、研修登録者には無料で「診断病理」を配布する。
- ⑤ 現在の「日本専門医制評価・認定機構」が第三者機関を立ち上げ、病理専門医も含めた国内の各種専門医認定業務を引き継ぐ方向で進展している。
- ⑥ 日本医療安全調査機構では、「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」を継続し、全国規模で運営可能なシステムの模索を続けている。
- (17) 口腔病理専門医制度運営委員会報告（山口 朗委員長）
- ① 臨床研修中に、病理部門を体験させることができないかなどが検討された。
- ② 口腔病理専門医試験の準備は順調に進んでいる。近年受験者が増加傾向にあり、今年も10名以上から受験申請があった。
- ③ 口腔でも医科同様の研修登録及び、研修手帳の配布を実施するため、準備をしている。
- ④ (16)⑤の件につき、がん治療専門医の例などもあるので、口腔病理専門医も病理専門医同様に認定をうけられるような対応をお願いしたい旨、山口委員長より発言された。
- (18) 医療業務委員会報告（白石泰三委員長）
- ① 本委員会は、病理診断の実務に関わる会員の抱える問題について、内部の実務委員会、外部の関連団体の活動を通じて対応する。
- ② コンサルテーション委員会（委員長：松野吉宏学術評議員）では、現在の本学会コンサルテーションシステムのあり方について再検討する。他団体のシステムとの関係も見直す。
- ③ 社会保険委員会（委員長：稲山嘉明学術評議員）より、厚生労働省等他団体との折衝において、学会全体としてのコンセンサスを求められることが多いため、理事の積極的な活動参加について要望があった。
- ④ 剖検・医療技術委員会（委員長：柳井広之学術評議員）では剖検講習会につき、新しい開催方法を含めて検討する。
- ⑤ 精度管理委員会（委員長：増田しのぶ学術評議員）では、精度管理の実務における技師の関わりについて検討予定である。また、現在、乳癌の精度管理についてワーキンググループの活動が成果をあげているので、他分野での精度管理についても検討を行う。
- (19) 支部委員会報告（加藤良平委員長）
- ① 各支部会計の本部会計合算が行われた。
- ② 会員管理の本部と支部一元化について検討が要望された。
- ③ 研修登録医への「診断病理」配布に伴う各支部無料配布削減については了承された。
- ④ 上記各種委員会からの報告を受け、以下の発言等があった。
- ① 吉野 正理事より、国立がん研究センターのコンサルテーションシステムと本学会システムの棲み分けについて整理して欲しい旨発言された。これに対し、白石医療業務委員長、黒田病理専門医制度運営委員長より、JCOGの中央診断のことも含め、松野コンサルテーション委員長に検討を依頼しているとの返答があった。
- ② 症例報告の倫理的取り扱いについて指針等の提示をして欲しい旨、笹野公伸理事より発言された。これに対し、伏木倫理委員長より、委員会で検討する旨回答された。また深山理事長より、倫理問題に関しては、アンケートを行うなど、会員からの要望や学会としての課題を把握し、速やかに取り組んでいきたいとの発言がされた。
3. 新法人移行の件
- 深山理事長より、新法人移行について、下記のような報告があった。
- ① 現在公益目的支出計画の策定を中心に取り組んでいる。公認会計士と相談の上、基本資料を作成し、6月頃に内閣府に相談をする予定である。その結果を踏まえ、夏に臨時理事会を開催し、提出資料案を提示し、承認をいただき、最終修正の上、秋に正式申請を提出するというタイムスケジュールで進めている。公益法人への移行については、一般社団法人移行が完了したのち、改めて議論を重ねる
- 協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。
1. 平成23年度事業報告ならびに収支決算に関する件
- (1) 岡田財務委員長より平成23年度事業報告があり、例年通りの事業の他に、各種100周年記念事業の施行、病理専門医研修ファイルの配布、HP改定等のことが実施されたことが説明された。協議の結果原案が満場一致で承認され、総会へ諮ることになった。
- (2) 引き続き平成23年度収支決算（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）について岡田委員長より説明があった。
- ① 病理学会の会計は規定により、いくつかの部門をまとめて「一般会計」とし、その他に、「特別会計」として、「病理学学術医療振興基金」、「病理学国際交流基金」の2種類という成り立ちである。
- ② 文科省の指導により、支部会計を合算することになった。同様に平成16年度会計基準を適用することになった。必要書類は収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録の4種となる。
- ③ 当期収入は279,665,654円、当期支出は285,561,862円であり、当期収支差額は-5,896,208円であった。正

味財産増減計算書総括表より本学会の正味財産は290,851,937円である。

- ④ 加藤関東支部長より、支部繰越金について質問があった。必要に応じて予算化すれば、従来どおり、各支部の事業に当てることができる旨、岡田財務委員長より回答された。

以上の説明をうけ、協議の結果、原案が満場一致で承認され、総会に諮ることとなった。

## 2. 平成24年度収支予算修正の件

深山理事長より平成24年度収支予算修正について、支部会計を合算するなど、平成23年度決算の形に予算を揃える必要があったが、実質的な変更はない旨説明された。

以上の説明をうけ、協議の結果、原案が満場一致で承認され、総会に諮ることとなった。

## 3. 定款施行細則および役員規定変更の件

深山理事長より定款施行細則、役員規定改定案、役員選任選出方法指針の3つの改定案について説明があった。副理事長と常任理事の役割分担をより弾力的に運用するため、常任理事の規定に、財務委員長、学術委員長、病理専門医部会長等の3名という形に、「等」という1文字を入れた案が提示された。

協議の結果満場一致で原案が承認された。定款施行細則改定案と役員規定改定案については、総会に諮ることとなった。

## 4. 平成24年度役員・各種委員会委員選出の件

- (1) 深山理事長より、今年度の役員名簿が諮られた。岡田保典理事、黒田誠理事が副理事長、安井弥理事、落合淳志理事が常任理事となる。ただし、3の定款施行細則等の総会承認を前提とする。協議の結果満場一致で原案が承認され、総会に諮ることとなった。

- (2) 深山理事長より、各種委員会委員長、委員の名簿が諮られた。協議の結果、原案のとおり満場一致で承認された。

## 5. 平成24年度新名誉会員の推戴に関する件

深山理事長より、平成24年度新名誉会員推戴者名簿(37名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり満場一致で承認され、総会に諮ることとした。

## 6. 平成24年度新学術評議員候補者の件

岡田学術評議員資格審査委員長より、平成24年度新学術評議員候補者の資格審査結果について報告があった。協議の結果、原案のとおり候補者(72名)を満場一致で承認し、総会に諮ることとした。

## 7. 平成23年度新入会員の承認の件

深山理事長より、平成23年度新入会員名簿(前回理事会以降平成24年2月1日～平成24年3月31日)分(81名年間255名)が諮られた。協議の結果、満場一致で原案のとおり承認された。

◇会員総会：平成24年4月27日(金)に京王プラザホテルコンコードABC会場にて、正会員3,811名のうち2,182名(う

ち委任状出席者1,827名)の出席を得て開催された。議長に岡田保典会長を選び議事を進行した。議事録署名人には、出席者を代表して羽賀博典(京都大学)、湊宏(金沢医科大学)の両会員が指名された。

## ○報告事項

### 1. 平成23年度学術奨励賞授与の件

総会開始に先立ち、平成23年度学術奨励賞受賞者、川崎朋範(山梨大学)、木村徳宏(慶應義塾大学)、菰原義弘(熊本大学)、佐久間裕司(神奈川県立がんセンター)、佐藤康晴(岡山大学)、富田弘之(岐阜大学)、吉田朗彦(国立がん研究センター)の7名に賞状および楯を授与したことが深山正久理事長より報告された。

### 2. 各種委員会報告

- (1) 深山正久理事長より今期の所信が述べられた。

① 病理学会の目的は「病理学の学理と応用についての研究の振興、その普及を図り、もって学術の発展と人類の福祉に寄与する」ことにある。この使命を達成するため、国民の理解と支援を受けた病理学会をともに築いていきたい。

② 現在の日本病理学会の最重要課題は、「後継者のリクルート・育成」である。病理医の重要性についての広報、研究医・病理医育成、基盤整備の三本柱の行動方針でこの課題に立ち向かいたい。

③ 追い風といえる要素として、がん対策推進基本計画は現在改定が進められているが、病理医不足の深刻さが認識されており、その対策として若手病理診断医の育成や、病理関連業務を専門とする臨床検査技師の適正配置などが書かれている。

④ また、保険診療の報酬改定も行われ、病理診断管理加算が認められ、複数病理医を雇用する施策がとられている。

⑤ これまでの諸先輩の努力を継承し、「病理診断科標榜」、「病理診断の診療報酬13部としての独立」につながった粘り強い働きかけを再開したい。

⑥ 学問分野としての病理学においても、研究医の不足が問題となっている。病理学の診療、研究に積極的に加わる若い世代のために、基金を活用して環境を整備し、前進していきたい。

⑦ 学会発展の基盤である、若手病理医・研究医を応援する施策として下記を実施、計画している。

i 会費の値下げを行った。

ii 若手病理医・研究医のリクルート委員会を設置した。

iii 病理専門医研修者の登録と、研修医手帳の配布を開始した。「診断病理」の無料配布も開始する。

iv 剖検講習会、細胞診講習会、病理学会カンファレンスを開催している。

vi 昨年度より100周年記念病理学研究新人賞の授与がはじまった。

- vii その他学部学生を対象とした各種施策も行っている。
- ⑧ 現在の日本病理学会の状況は、会員数 4,205 名、正会員のうち、学術評議員は 1,311 名、一般会員は 2,451 名である。医師の会員は 82%、歯科医師の会員は 7% で、合わせて約 9 割が医師・歯科医師からなっている。また、病理専門医は 2,120 名である。さらなる増員を目指したい。
- (2) 深山理事長より、秋期総会以降の理事長報告があった。
- ① 100 周年記念事業特別基金プロジェクトとして選定した、「夏の学校支援」、「精度管理」、「研究新人賞授与」、「支部育児支援」が順調に進んでいる。「事務局移転」は湯島の「聖堂前ビル」を選定し、7 月の移転に向け準備中である。
- ② 外部関連団体への分担金、委員の派遣などをいくつか決定している。これについては関連した病理学会の委員会で推薦し、理事会、常任理事会で承認するという仕組みで進めたい。  
尚、日本医療安全調査機構、日本医学会に関しては、分担金を支払う形に移行予定である。
- ③ 会務の体制として、企画、広報、学術、研究推進、編集、財務、教育、国際交流、生涯教育、専門医制度、口腔病理、医療業務、支部、死因究明といった各委員会を 4 つのグループに分け、それぞれに常任理事もしくは副理事長が担当する形を考えている。このグループに従い、以下各理事より報告をおこなう。
- (3) 落合淳志理事より企画関係委員会につき、委員長の紹介と報告がされた。
- ① 企画委員会（落合淳志委員長）では、今後急激に増加するがん患者の診療に求められる病理体制についての提言をまとめる。
- i がん診断体制委員会（落合淳志委員長）を設置。
  - ii その中でも「癌取扱い規約」委員会は、各規約の用語、改訂時期の統一を目標とする。
  - iii さらに病理診断に対する適切なガイドラインを病理学会が責任を持って作っていく必要性を考慮し、「病理診断ガイドライン委員会」を立ち上げる。
- ② 将来構想委員会（佐々木毅委員長）では、病理診断体制、病理医の支援体制、女性病理医の支援、若手病理医の海外留学等に対する支援、いわゆる「教室プロベ」等の問題点、若手のみならず定年後の就業問題を検討する。
- ③ 病理医・研究医のリクルートと育成委員会（豊國伸哉委員長）では、病理医、研究医の両者の増員を目指す。100 周年記念病理学新人賞の推薦も行う。
- ④ 男女共同参加委員会（大橋健一委員長）も活動を継続する。
- ⑤ また、企画委員会で下記のような個別の問題も指摘された。一つ目は、病理医や専門医の減少に対して、今後病理学会が病理診断体制の方向性を討議、決定する必要性。
- ⑥ 二つ目は JCOG など、我が国で行われている臨床試験の病理標本を用いたものについて、日本における臨床試験が適切に行われるために、病理学会として適切に対応する必要性。
- ⑦ 三つ目は新人賞や、その他の賞授与につき、各関連委員会が連携し、病理学会全体として、各賞の考え方を確認すること。
- ⑧ 最後に男女共同参加委員会については、育児をしながらでも病理ができるような支援体制の構築なども検討し、病理学会における男女共同参加を目指す。
- (4) 議長の岡田理事（財務委員長）に代わり深山理事長より、財務、教育、国際交流、生涯教育等関係委員会について委員長の紹介と報告がされた。
- ① 財務委員会報告（岡田保典委員長）は後ほど協議事項で取り扱う。
- ② 教育委員会（上田真喜子委員長）では、各支部開催の「夏の学校」について、100 周年記念事業からの支援プロジェクトを活用し、充実に努める。その他、総会時に開催される学生ポスターセッションについて、また「病理コア画像」の充実等についても検討を行っていく。
- ③ 国際交流委員会（笹野公伸委員長）では、日英、日独交流事業については、講演者の招聘年にあたらぬ年が隔年で発生するため、その年は、他の国からの講師招聘を積極的に行う。日中交流事業も日中交流ワークショップ等を含めて継続する。また、秋期総会時のアジア諸国の若手病理医発表支援も引き続き行う。
- ④ 生涯教育委員会（森永正二郎委員長）は、生涯教育の重要性を重視し、今期新設した委員会である。診断講習会委員会（鬼島 宏委員長）、支部学術連絡委員会（吉野 正委員長）等の活動も通じて、対応していく。
- (5) その他理事長関係委員会について深山理事長より委員長の紹介と報告がされた。
- ① 倫理委員会（伏木信次委員長）では、病理解剖・症例報告に関する倫理的問題や、病理検体の教育・研究利用などについて検討予定である。アンケートの実施も検討している。
- ② COI 委員会（伊藤雅文委員長）では、昨期のガイドライン策定に引き続き、役員の申告審査等を担当している。
- ③ リスクマネジメント委員会（黒田誠委員長）では緊急事態発生時、訴訟問題などが起こった場合に対応を行う。
- ④ 一般社団法人移行 WG（深山正久座長）報告は後ほど行う。

- (6) 安井 弥理事（学術委員長）より、学術、編集関係委員会について委員長の紹介と報告がされた。
- ① 学術は本学会の柱として、いわゆる診断、実験のバランスをもって学術活動の推進に向けて取り組む。そのため学術委員会、研究推進委員会、編集委員会の連携強化を図る。実務面では学術奨励賞の選考の申請書、推薦書を改定することとした。
  - ② 研究推進委員会（小田義直委員長）では、今年8月3日・4日、山口市・湯田温泉開催の第9回病理学会カンファレンス「血管生物学から挑む疾患病態解析」の準備を山口大学・池田教授を世話人として進めている。若手の参加を喚起されたい。第10回病理学会カンファレンスは関西地区ということで、廣田誠一委員が検討し、神戸大学の横崎宏教授が世話人の予定である。また、今後開催地を固定すること等についても検討する。
  - ③ i 編集委員会（高橋雅英委員長）では、「Pathology International」「診断病理」の編集状況が順調であることが報告されている。「Pathology International」は本年度の委員改選にあたるため、より充実に努める。
  - ii 出版物の病理学会としての編集協力については、病理学会自体が企画し、編集者、著者を選んだようなもの以外には、病理学会の名前は使用しない方針とした。
  - iii 韓国病理学会から、学会誌「Basic and Applied Pathology」を「Pathology International」に吸収してほしいというオファーがあり、現在、編集委員会で基本的には前向きに検討している。
- (7) 黒田 誠理事（病理専門医制度運営委員長）より、主に専門医関係委員会について委員長の紹介と報告がされた。
- ① 病理専門医試験委員会（北川昌伸委員長）と実施委員会（非公開）では、7月28日・29日に名古屋大学で昨年同様に試験を行うため、準備を進めている。
  - ② 病理専門医資格審査委員会（小西登委員長）では、今月下旬に専門医試験受験申請者の審査を行う。5月2日が今年の試験の申請の締め切りであるので、学会終了後には所属機関の受験者の書類を確認されたい。
  - ③ 施設審査委員会（清水道生委員長）では、今年の更新病院の審査を行った。
  - ④ 専門医部会報編集委員会は村田哲也委員長である。
  - ⑤ 口腔試験関係委員会についても医科と同様に、試験委員会（豊澤悟委員長）、資格審査委員会（原田博史委員長）、実施委員会（非公開）が、医科と同日開催の口腔病理専門医試験にむけて現在順調に準備を進めている。
  - ⑥ 医療業務委員会（白石泰三委員長）は活動が多岐にわたり、関連委員会として下記のものがある。
- ⑦ コンサルテーション委員会（松野吉宏委員長）では学会以外のシステムとの整理を含めて検討する。
  - ⑧ 社会保険委員会（稲山嘉明委員長）活動は、本日夜のセッションで詳細の説明を行う。
  - ⑨ 剖検医療技術委員会（柳井広之委員長）からは、剖検の講習会を各支部単位でも多彩に行うこと等が提案されている。
  - ⑩ 精度管理委員会（増田しのぶ委員長）は、内容的にかなり熟成してきたので、継続する。
  - ⑪ 診療関連死検討委員会（黒田誠委員長）から「モデル事業」の現状について報告が述べられた。
  - ⑫ 支部委員会（加藤良平委員長）では、支部の病理専門医活動の面も重要視していく。
- (8) 深山理事長より、広報関係委員会につき委員長の紹介と報告があった。
- ① 広報委員会（根本則道委員長）の下に、市民公開講座促進委員会（伊藤智雄委員長）、病理ネットワーク管理運営委員会（宇於崎宏委員長）を設置し、活動する。病理ネットワーク管理運営委員会では、100周年記念事業としてネットワーク構築のための基盤をつくっている。バーチャルスライドの利用等についても検討中で、もう少し形が整った段階で会員の意見を伺う予定である。
  - ② 編集委員会の一つに、剖検情報委員会（根本則道委員長）があり、これは日本大学病理学教室の多大な努力によって担われてきたが、事務実務だけでも事務局で行う形に移行していきたい。
3. 新法人移行申請の件
- 深山理事長より下記の通り報告があった。既に前回の総会で説明したが、平成25年11月30日までに一般社団法人の移行認可を受ける必要があり、このためには定款の変更と公益目的財産支出計画の策定が必要である。定款の変更については、既に総会において承認を受けている。さらに公益目的財産支出計画について説明され、6月中にこの計画を策定し、臨時理事会を7月中に開催し、9月には申請するというタイムスケジュールであることが述べられた。
- 協議事項
1. 平成23年度事業報告ならびに収支決算に関する件  
岡田保典財務委員長より、平成23年度事業報告並びに収支決算書（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）（案）の説明と提案があった。
  - (1) 事業計画について  
例年通りのものに加え、研修手帳の配布開始、100周年記念事業の実施、ホームページの改定などがあった。
  - (2) 収支決算について
    - ① 病理学会の会計は規定により、いくつかの部門をまと

めて「一般会計」とし、その他に、「特別会計」として、「病理学学術医療振興基金」、「病理学国際交流基金」の2種類という成り立ちである。

- ② 文科省の指導により、支部会計を合算することになった。
- ③ 同様に平成16年度会計基準を適用することになった。必要書類は収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録の4種となる。
- (3) 今期の収入、支出の概要について  
当期収入は279,665,654円、当期支出は285,561,862円であり、当期収支差額は-5,896,208円であった。
- (4) 本学会の正味財産について  
正味財産増減計算書総括表より本学会の正味財産は290,851,937円となる。  
以上の説明をうけ、協議の結果、原案が満場一致で承認された。
2. 平成24年度収支予算修正の件  
深山理事長より説明と提案がなされた。  
これは先程の決算と同じく、支部の収支計画の合算と、会計基準の問題で、正味財産増減予算書を付けた形で修正したということであり、実際の数字の変更ではない。  
以上の説明をうけ、協議の結果、原案が、満場一致で承認された。
3. 新名誉会員の推戴に関する件  
深山理事長より、平成24年度新名誉会員推戴者名簿(37名)が諮られた。協議の結果、原案が満場一致で承認された。
4. 新学術評議員の承認の件  
深山理事長より、平成24年度新学術評議員候補者名簿(72名)が諮られた。協議の結果、原案が満場一致で承認された。
5. 定款施行細則及び役員規程変更の件  
深山理事長より定款施行細則並びに役員規定改定案、役員選任選出方法指針の3つの改定案について説明があった。副理事長と常任理事の役割分担をより弾力的に運用するため、常任理事の規定に、財務委員長、学術委員長、病理専門医部会長等の3名という形に、「等」という1文字を入れた案が提示された。協議の結果満場一致で原案が承認された。
6. 本学会平成24/25年度役員名簿の件  
先程の規定変更を受け、深山理事長より、今年度の役員名簿が諮られた。岡田理事、黒田理事が副理事長、安井理事、落合理事が常任理事となる。協議の結果満場一致で原案が承認された。

◇新学術評議員の決定について：平成24年度新学術評議員は、下記の72名に決定した。(ABC順)

安倍 雅人	天野 雄介	青木 直子	江原 道子
瀧之上 史	二口 充	後藤田裕子	檜垣 浩一
平塚 拓也	廣橋 良彦	飯田 真岐	稲葉真由美

石毛 俊幸	鎌滝 章央	片野 晴隆	片岡 竜貴
菊池建太郎	木村 幸子	木村 徳宏	孝橋 賢一
河野 葉子	小松 悌介	久保 勝俊	熊本 裕行
栗原 秀一	日下部 崇	前田 尚子	丸山理留敬
松田 道行	松木 康真	松山 篤二	美島 健二
宮部 悟	永山 元彦	中村 保宏	中西 陽子
中野 敬介	那須 拓馬	新野 大介	西尾 知子
西浦 弘志	大荷 澄江	大山 秀樹	大池 信之
生沼 利倫	奥寺 康司	大森 泰文	大月 寛郎
斉藤 光次	齋藤 剛	櫻井うらら	佐野 誠
佐藤 啓介	島尻 正平	神農 陽子	杉田 好彦
住吉 真治	砂川 恵伸	鈴木 潮人	橋 充弘
田尻 琢磨	高桑 康成	高田 尚良	田中 健大
栃木 直文	戸田 好信	土屋 紅緒	矢田 直美
柳川 直樹	安原裕美子	吉岡 年明	吉澤 明彦

◇平成23度学術奨励賞の授与について：平成24年4月27日の総会席上深山理事長から、第13回(平成23年度)学術奨励賞受賞者 川崎朋範(山梨大学)、木村徳宏(慶應義塾大学)、菰原義弘(熊本大学)、佐久間裕司(神奈川県立がんセンター)、佐藤康晴(岡山大学)、富田弘之(岐阜大学)、吉田朗彦(国立がん研周センター)の7名に賞状および記念品が授与された。

1. 乳腺における神経内分泌癌—神経内分泌型非浸潤性乳管癌を含めて—：川崎 朋範(山梨大学医学部附属病院病理部)
2. 変形性関節症をはじめとする骨・関節疾患の分子病理学的研究：木村 徳宏(慶應義塾大学医学部病理学)
3. 腫瘍内微小環境におけるマクロファージの役割に関する病理学的解析：菰原 義弘(熊本大学大学院生命科学研究所細胞病理学)
4. 肺癌の進展、予後予測およびアポトーシス抵抗性に関する病理学的研究：佐久間裕司(神奈川県立がんセンター臨床研究所)
5. IgG4関連疾患の臨床病理学的解析：佐藤 康晴(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病理学)
6. 消化器発癌のメカニズムと周囲微小環境の役割に関する研究：富田 弘之(岐阜大学大学院医学系研究科腫瘍病理学講座)
7. 低悪性度骨肉腫およびその脱分化現象の病理診断に関する研究：吉田 朗彦(国立がん研究センター中央病院病理科)

(ABC順)

◇学術研究賞(A演説)、B演説の選考について：第58回(平成24年度)秋期特別総会学術研究賞演説(A演説)、B演説については、それぞれ20題、10題の応募があった。3月2日の学術委員会で審議し、投票の結果、8題、3題を選考した。本件は、同日の理事会において、同委員会案のとおり決定した。

## 学術研究賞 (A 演説) (応募順)

1. 新しい腎腫瘍疾患における染色体・遺伝子異常の同定：黒田直人（高知赤十字病院病理診断科部）
2. 酸化的損傷塩基の除去修復因子である DNA グリコシラーゼの異常とがん化に関する研究：新村和也（浜松医科大学第一病理学教室）
3. 悪性リンパ腫を中心としたヒト腫瘍における腫瘍幹細胞の探索：池田純一郎（大阪大学大学院医学系研究科病態病理学）
4. 卵巣明細胞腺癌の発生・進展機構に関する病理学的研究と分子基盤の検討：山本宗平（防衛医科大学校病態病理学講座）
5. 進行性多巣性白質脳症の核内ウイルス封入体～JC ウイルス感染の標的, PML-NBs の病理学的意義～：大戸-原由紀子（杏林大学医学部病理学教室）
6. 骨微小環境での腫瘍間質相互作用における可溶性 RANKL と TGFβ の役割：前立腺癌・乳癌を用いた動物モデルによる解析：二口 充（名古屋市立大学大学院医学研究科分子毒性学分野）
7. 生物機能と疾患の理解を目指した糖鎖生物学研究：池原讓（産業技術総合研究所・糖鎖医工学研究センター・分子医用技術開発研究チーム）
8. 新規融合遺伝子の発見：竹内賢吾（がん研究会がん研究所分子標的病理プロジェクト）

## B 演説 (応募順)

1. ALK 腎癌：iAEP 法を用いた免疫組織化学の大規模検討：菅原江美子（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科包括病理学）
2. 心臓移植の病理 — 42 例の経験 —：植田初江（国立循環器病センター病理部）、池田善彦、松山高明、大郷恵子、橋村宏美、小林順二郎、中谷武嗣
3. 乳腺分泌癌および類似組織型における鑑別マーカーの系統的探索と検証：大迫 智（がん研究会有明病院病理部）

◇平成 24 年細胞診講習会：深山正久（東京大学）世話人，土屋眞一（日本医科大学）モデレーターのもとで，平成 24 年 3 月 10 日（土）～ 11 日（日），東京大学にて実施され，90 名が受講した。講師は，土屋眞一（日本医科大学），内藤善哉（日本医科大学），清川貴子（千葉大学），小山徹也（群馬大学），清水禎彦（埼玉県立循環器・呼吸器病センター），鷹橋浩幸（東京慈恵会医科大学），中村直哉（東海大学），福永真治（東京慈恵会医科大学附属第三病院），の 8 名であった。

◇第 30 回病理専門医試験について：平成 24 年度の病理専門医試験は，7 月 28 日（土），7 月 29 日（日）に名古屋大会場にて実施された。89 名が受験して，72 名が合格した（合格率 80.9%）。合格者氏名ならびに病理専門医登録番号は，以下のとおりである（登録年月日：平成 24 年 8 月 1 日）。

## 平成 24 年度病理専門医合格者氏名

認定番号	姓 名	認定番号	姓 名
2943	大江 知里	2979	頼田 顕辞
2944	萩野 次郎	2980	江河 勇樹
2945	宋 美紗	2981	林 博之
2946	福山 隆一	2982	津山 直子
2947	太田 諒	2983	坂本 直也
2948	高橋 秀宗	2984	菅原江美子
2949	井上 雅文	2985	宮居 弘輔
2950	堀 由美子	2986	後藤 啓介
2951	福島慎太郎	2987	岩越 朱里
2952	林 俊哲	2988	杉本 寛子
2953	佐伯 春美	2989	桑本 聡史
2954	造住 誠孝	2990	鈴木 忠樹
2955	守都 敏晃	2991	新井 基展
2956	梅田 茂明	2992	市村 隆也
2957	伊藤 靖	2993	南 優子
2958	三原 裕美	2994	新井 悟
2959	三輪 重治	2995	田辺美樹子
2960	兎玉理恵子	2996	西村 綾子
2961	鈴木 志保	2997	増田 渉
2962	森田 剛平	2998	柴原裕紀子
2963	堀田真智子	2999	中田 聡子
2964	彭 為霞	3000	伏見 文良
2965	里見 介史	3001	田中 瑞子
2966	大迫 智	3002	藤田 裕美
2967	岡野 慎士	3003	田畑 和宏
2968	近藤 響子	3004	柳内 充
2969	榎本 篤	3005	山本 喜啓
2970	根木真理子	3006	山ノ井一裕
2971	菊地 智樹	3007	加藤 智也
2972	中村ハルミ	3008	坂東 健次
2973	西村 啓介	3009	山崎 隆
2974	高澤 啓	3010	高田 晋一
2975	木村 芳三	3011	吉本多一郎
2976	鳥山 茜	3012	谷内 真司
2977	天野 与稔	3013	坂田 晃子
2978	立松 明子	3014	原田 義規

◇第 20 回口腔病理専門医試験について：平成 24 年度の口腔病理専門医試験は，第 30 回病理専門医試験と同日，同会場で行われた。11 名が受験して，8 名が合格した（合格率 72.73%）。合格者氏名ならびに口腔病理専門医登録番号は，以下のとおりである（登録年月日：平成 24 年 8 月 1 日）。

## 平成 24 年度口腔病理専門医合格者氏名

口腔認定番号	姓 名	認定番号	姓 名
157	佐藤 文彦	158	矢毛石眞由美

159	山根木康嗣	162	山科 光正	945	小橋陽一郎	972	大谷 明夫
160	岡田 康男	163	江夏 一彰	946	森 一郎	973	君塚 五郎
161	山本安希子	164	工藤 保誠	947	勝田 省吾	974	中野 雅行

◇病理専門医・口腔病理専門医の資格の更新について：資格更新が認められた病理専門医・口腔病理専門医は、以下のとおりである。

#### 1. 病理専門医資格更新者氏名

##### 第4回 認定 103名

更新期間 平成24年(2012年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
827	今井 俊介	884	中嶋 安彬
828	由谷 親夫	885	堤 寛
829	村尾 眞一	886	岡田 保典
831	福永 眞治	889	若木 邦彦
832	長谷川章雄	890	布山 繁美
833	浅野 重之	893	村上 榮
834	宮崎 純一	895	根本 則道
835	角田 力彌	901	山田 和昭
836	阿部 正文	903	福本 学
838	村山 寛	904	徳田 忠昭
839	中西 敬介	905	福田 利夫
840	水上 勇治	908	森 秀樹
843	岡 邦行	910	馬淵 基樹
845	山本 雅博	911	野々村昭孝
847	土屋 眞一	912	中島 孝
848	赤木 制二	914	井藤 久雄
850	西野 栄世	915	宮本 一雄
851	中川 仁	917	藤井 雅彦
852	戸田 隆義	918	田中 卓二
853	桑原竹一郎	919	川井 俊郎
854	石 和久	921	糸山 進次
855	方山 揚誠	925	栗原 憲二
858	吉原 渡	927	居石 克夫
859	広瀬 幸子	929	秋草文四郎
862	亀田 典章	930	玉井 誠一
866	松本 和基	931	橋本 洋
867	羽野 寛	932	足達 敏博
868	富地 信和	933	横田 忠明
870	岡野 匡雄	934	山下 吉美
871	岡田 英吉	936	岩下 明德
872	塩川 章	937	豊島 里志
874	螺良 愛郎	938	佐藤 慎吉
875	米澤 傑	939	川原 穰
878	田久保海誉	940	菅野 勇
879	土橋 康成	942	張ヶ谷健一
881	小俣 好作	943	桑尾 定仁
882	瀧 和博	944	榎本 克彦

948	島村 和男	975	柳澤 昭夫
950	下山 潔	976	正和 信英
954	亀田 陽一	978	笹栗 靖之
955	佐野 仁勇	979	関川 進
960	高橋 達郎	980	吉田カツ江
961	林 逸郎	983	辻本 志朗
962	三輪 淳夫	987	中村仁志夫
964	田口 尚	990	増田 高行
967	上野 洋男	991	上坂 佳敬
968	森 将晏	992	小久保 武
970	木崎 智彦	996	藤盛 孝博
971	中山 雅弘		

##### 第9回(第4回試験) 認定 46名

更新期間 平成24年(2012年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1250	徳留 隆博	1278	中村 栄男
1251	山鳥 一郎	1280	塩津 英俊
1253	森木 利昭	1283	笹原 正清
1254	岡田 仁克	1284	北川 昌伸
1255	八木橋操六	1285	中村 卓郎
1256	中島 明彦	1286	谷山 清己
1257	濱田 哲夫	1287	小川 晃
1258	矢島美穂子	1288	流田 智史
1259	竹屋 元裕	1289	石亀 廣樹
1261	佐々木なおみ	1290	橋本 和明
1262	川端 健二	1291	福田 剛明
1263	溝淵 光一	1292	甲田 賢治
1264	嶋本 文雄	1293	若狭 研一
1266	松野 寧子	1294	丹野 正隆
1267	海上 雅光	1295	佐藤 英章
1268	吉田 幸子	1296	佐藤 隆夫
1270	瀧本 雅文	1298	植村 芳子
1271	樋野 興夫	1299	和知 栄子
1272	佐々木 惇	1300	高橋 玲
1273	上田 善彦	1303	鈴木 恵子
1274	名方 保夫	1304	鈴木 高祐
1275	林 祥剛	1305	前多 松喜
1276	岸本 宏志	1306	富永 邦彦
1277			

##### 第14回(第9回試験) 認定 54名

更新期間 平成24年(2012年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1565	下 正宗	1567	小西 登
1566	太田 善夫	1568	石田 剛

1569	新垣 有正	1598	絹川 典子	1914	藤田 葉子	1932	谷田部 恭
1570	藤田 眞幸	1599	吉田 尊久	1915	山上啓太郎	1933	酒井 優
1571	加藤 元一	1600	小西 英一	1916	澁谷 誠	1934	比島 恒和
1573	森谷 卓也	1601	堤 雅弘	1917	小泉 宏隆	1936	平塚 素子
1574	立山 尚	1602	中西 幸浩	1918	福嶋 敬宜	1938	石井源一郎
1576	中澤 温子	1604	小野 伸高	1920	中岡 伸悟	1939	猪狩 亨
1577	九嶋 亮治	1605	今 信一郎	1921	川島 篤弘	1940	西田 尚樹
1578	勝田 浩司	1606	能登原憲司	1922	村山 寿彦	1941	山本智理子
1579	佐野 暢哉	1607	村田 晋一	1923	鄭 子文	1942	小賀 厚徳
1580	山田 健人	1608	坂井田紀子	1924	沖野 毅	1943	石澤 伸
1581	池田 栄二	1609	武内 利直	1925	竹川 義則	1944	霧生 孝弘
1582	田村 浩一	1610	岡本 茂	1926	筑後 孝章	1945	平林 紀男
1583	行岡 直哉	1612	伊藤 裕司	1927	久保起与子	1946	迫間 隆昭
1584	土橋 洋	1613	渥美伸一郎	1928	西阪 隆	1947	細根 勝
1585	村上 一宏	1614	河合 潤	1929	石田 康生	1948	桑田 健
1586	大島 孝一	1616	中山 敦雄	1930	北村 幸郷	1949	羽鳥 努
1588	和田 勝則	1617	石原 法子	1931	星 サユリ		
1589	清水 道生	1618	岩渕 三哉				
1590	細川 洋平	1619	鈴木 良夫				
1592	増永 敦子	1621	岩崎 啓介				
1593	大橋 健一	1622	勝山 栄治				
1594	寺田 信行	1623	鈴木 博義				
1595	蛭田 啓之	1624	野田 裕				
1596	澤田 典均	1625	川口 誠				
1597	菅井 有	1626	北澤 莊平				

## 第19回(第14回試験) 認定 71名

更新期間 平成24年(2012年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1871	長谷川 匡	1893	原田 徹
1872	井上 健	1895	西澤 恭子
1873	柴田 亮行	1896	島崎 英幸
1874	三枝 信	1897	稲垣 宏
1875	星 暢夫	1898	宮崎 龍彦
1876	後藤田裕子	1899	真能 正幸
1877	森光 洋介	1900	佐々木 豊
1878	中澤 功	1901	大原 信哉
1879	斉藤 直敏	1902	杉山 達朗
1880	福島 純一	1903	高橋 秀史
1881	関 邦彦	1904	田代 幸恵
1883	木野 茂生	1906	荒木 章伸
1884	南條 博	1907	濱田 新七
1886	長尾 俊孝	1908	川本 雅司
1888	田中 正則	1909	寺村 一裕
1889	尾崎 大介	1910	藤井 義幸
1890	黒住 昌史	1911	清久 泰司
1891	平岡 伸介	1912	岩屋 啓一
1892	渡辺 昌俊	1913	宮沢 善夫

## 第24回(第19回試験) 認定 57名

更新期間 平成24年(2012年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
2237	棚橋 千里	2266	廣瀬 善信
2238	尾島 英知	2267	塚本 徹哉
2239	竹内 保	2268	金子 真弓
2240	中村樹美枝	2269	堀之内道子
2241	笠島 里美	2270	笠井 孝彦
2242	岡本 純佳	2271	大原関利章
2243	高橋 芳久	2273	岸本 充
2246	濱田 智美	2274	寺戸 雄一
2247	河野 尚美	2275	島田 志保
2248	米増 博俊	2276	田口 健一
2249	井下 尚子	2278	川名 秀忠
2250	松川 昭博	2279	稲垣 朋子
2251	小田島 肇	2280	山根 徹
2252	馬場 正道	2281	島田 哲也
2253	武井 英博	2282	稲留 征典
2254	緒形 真也	2283	竹内 賢吾
2255	棟方 哲	2284	氏平 伸子
2256	伊原 文恵	2285	橋立 英樹
2257	柴田 龍弘	2286	宮谷 克也
2258	浅井 昌美	2287	関根 茂樹
2259	大倉 康男	2288	明石 高明
2260	岸 宏久	2289	菊地 和徳
2261	浦野 誠	2290	三浦千砂子
2262	稲葉真由美	2291	市村 浩一
2263	林 宏行	2292	島尾 義也
2264	加藤 光保	2293	太田 雅弘
2265	高城 千彰	2294	下村 龍一

2295 出張 玲子                    2297 太田 聡  
2296 三浦 一郎

**第 29 回 (第 24 回試験) 認定 46 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 5 年間

認定番号	氏 名	認定番号	氏 名
2560	小無田美菜	2585	梶 幸子
2561	藤本 昌代	2586	石田 和之
2562	津堅美貴子	2587	田中 敏
2563	中込 奈美	2588	山田 桃子
2564	牛久 哲男	2589	塚 貴司
2565	中道伊津子	2590	法木 左近
2566	柳川 直樹	2591	堀口慎一郎
2567	加留部謙之輔	2592	西村 広健
2568	永田 昭博	2594	水上 浩哉
2569	細田 和貴	2595	森 大輔
2570	児玉 良典	2596	瀬川 篤記
2571	荒木亜寿香	2597	島田 聡子
2572	新野 大介	2598	斐 英洙
2573	安原裕美子	2599	国島 文史
2574	笹田 寛子	2600	佐藤 保則
2575	小林 博也	2601	堀井 理絵
2576	大石 善丈	2602	野本 一博
2577	倉岡 和矢	2603	荻谷 嘉之
2578	中山 智子	2604	佐久間淑子
2579	小嶋 啓子	2605	渡邊 玄
2580	菊地 慶介	2606	吉田めぐみ
2583	西田 直代	2607	石田 雄介
2584	砂川 恵伸	2608	永田 耕治

**第 3 回 認定 1 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 4 年間

認定番号	氏 名
708	中村 隆昭

**第 8 回 (第 3 回試験) 認定 2 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 4 年間

認定番号	氏 名	認定番号	氏 名
1220	近藤 勝彦	1224	内間 久隆

**第 13 回 (第 8 回試験) 認定 1 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 4 年間

認定番号	氏 名
1541	小杉伊三夫

**第 17 回 (第 12 回試験) 認定 1 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 3 年間

認定番号	氏 名
1783	遠藤 泰彦

**第 18 回 (第 13 回試験) 認定 1 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 4 年間

認定番号	氏 名
1861	原岡 誠司

**第 20 回 (第 15 回試験) 認定 1 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 1 年間

認定番号	氏 名
1997	橋本 修一

**第 22 回 (第 17 回試験) 認定 1 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 3 年間

認定番号	氏 名
2135	鈴木 秀郎

**第 26 回 (第 13 回試験) 認定 1 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 2 年間

認定番号	氏 名
2432	藤本 淳也

**第 27 回 (第 22 回試験) 認定 1 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 3 年間

認定番号	氏 名
2484	小沢 広明

**第 28 回 (第 23 回試験) 認定 1 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 4 年間

認定番号	氏 名
2533	瀧北 幹子

**2. 口腔病理専門医資格更新者氏名**

**第 4 回 認定 6 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 5 年間

認定番号	氏 名	認定番号	氏 名
64	安藤 紀昭	65	相田 順子
58	岡村 和彦	67	前田 初彦
59	土井田 誠		
61	清水 進一		

**第 9 回 (第 4 回試験) 認定 2 名**

更新期間 平成 24 年 (2012 年) 4 月 1 日から 5 年間

認定番号	氏 名	認定番号	氏 名
85	佐々木 優	87	村松 敬

## 第14回(第9回試験) 認定 3名

更新期間 平成24年(2012年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
111	松坂 賢一	113	美島 健二
112	藤田 修一		

## 第19回(第14回試験) 認定 4名

更新期間 平成24年(2012年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
129	坂本 啓	131	菊池建太郎
130	大野 純	132	石川 文隆

◇平成23年度認定病院・登録施設(第34回)の審査について：認定施設、登録施設としての新規の申請は、8件、24件であった。審査の結果、認定施設は7件、登録施設はすべてが承認された。認定(登録)期間は、平成23年4月1日から平成25年3月31日までである。

## (1) 認定施設

認定番号	病院名
2038	財団法人厚生会仙台厚生病院
3037	社会保険船橋中央病院
3141	医療法人徳洲会茅ヶ崎徳洲会総合病院
3952	東京女子医科大学附属八千代医療センター
5089	社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会野江病院
5090	兵庫県立加古川医療センター
7029	熊本赤十字病院

## (2) 登録施設

登録番号	病院名
2033	青森市民病院
2034	米沢市立病院
2035	公立岩瀬病院
3126	水戸済生会総合病院
3127	深谷赤十字病院
3128	国家公務員共済組合連合会東京共済病院
3129	茅ヶ崎市立病院
3130	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷佐倉市民病院
4117	独立行政法人長野県立病院機構長野県立木曾病院
4118	袋井市立袋井市民病院
4119	名古屋市立西部医療センター
4120	常滑市民病院
4121	愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院
4122	愛知県厚生農業協同組合連合会尾西病院
4123	西日本電信電話株式会社東海病院
5099	医療法人徳洲会宇治徳洲会病院
5100	社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会千里病院
5111	三田市民病院
5112	医療法人伯鳳会赤穂中央病院

6067	島根県立中央病院
6068	総合病院岡山市立市民病院
7080	福岡山王病院
7081	独立行政法人国立病院機構長崎川棚医療センター
7082	聖フランシスコ病院

◇平成24年度認定病院・登録施設の更新について：認定病院・登録施設としての更新申請は、審査の結果、それぞれ278施設および140施設の更新が認められた。認定(登録)期間は、平成24年4月1日から平成26年3月31日までである。

## 平成24年度病理専門医研修施設(認定施設)更新機関

(第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 25, 27, 29, 31, 33 278施設)

期間2年間 平成24年4月1日～平成26年3月31日

## 第1回 認可(29施設)

認定番号	施設名
1001	市立札幌病院
2001	青森県立中央病院
2002	岩手県立中央病院
2003	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
3004	千葉県がんセンター
3005	独立行政法人国立がん研究センター中央病院
3006	東京厚生年金病院
3007	独立行政法人国立国際医療研究センター戸山病院
3008	NTT東日本関東病院
3009	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
3010	独立行政法人国立病院機構東京医療センター
3012	聖路加国際病院
3014	社会福祉法人同愛記念病院
3015	武蔵野赤十字病院
3016	川崎市立川崎病院
3017	横浜市立市民病院
3018	神奈川県立がんセンター
4001	新潟県立がんセンター新潟病院
4002	静岡済生会総合病院
4004	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
5002	京都第一赤十字病院
5003	大阪赤十字病院
5005	公益財団法人天理よろづ相談所病院
5006	神戸市医療センター中央市民病院
6001	財団法人倉敷中央病院
6002	岡山済生会総合病院
6003	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター
6004	県立広島病院
6006	広島市立広島市民病院

<b>第3回 認可 (7施設)</b>	5030	公益社団法人京都保健会京都市民医連中央病院
認定番号 施設名		
1003 市立旭川病院		
1004 社団法人北海道勤労者医療協会勤医協中央病院		
3026 神奈川県立こども医療センター		
6011 国家公務員共済組合連合会呉共済病院		
7004 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター		
7005 大分県立病院		
7006 沖縄県立中部病院		
<b>第5回 認可 (10施設)</b>		
認定番号 施設名		
1005 市立函館病院		
3032 がん・感染症センター都立駒込病院		
4011 静岡県立こども病院		
4012 静岡市立静岡病院		
4014 三重県厚生農業協同組合連合会松阪中央総合病院		
5011 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター		
5014 大津赤十字病院		
5015 大阪厚生年金病院		
5016 国立循環器病研究センター病院		
6013 総合病院岡山赤十字病院		
<b>第7回 認可 (7施設)</b>		
認定番号 施設名		
2008 社会医療法人明和会中通総合病院		
3011 東京通信病院		
3041 社会福祉法人三井記念病院		
3043 東京都立広尾病院		
5018 パナソニック健康保険組合松下記念病院		
6015 独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター		
6016 愛媛県立中央病院		
<b>第9回 認可 (4施設)</b>		
認定番号 施設名		
2010 (財)太田総合病院附属太田西ノ内病院		
4021 名古屋掖済会病院		
4022 岐阜市民病院		
5023 兵庫県立がんセンター		
<b>第11回 認可 (7施設)</b>		
認定番号 施設名		
2011 八戸市立市民病院		
3056 社会保険中央総合病院		
3058 独立行政法人労働者健康福祉機構関東労災病院		
4028 岡崎市民病院		
5028 社会医療法人同仁会耳原総合病院		
5029 独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター		
<b>第13回 認可 (7施設)</b>		
認定番号 施設名		
2014 いわき市立総合磐城共立病院		
3065 栃木県立がんセンター		
3066 足利赤十字病院		
3067 前橋赤十字病院		
3068 医療法人鉄蕉会亀田総合病院		
4031 愛知県厚生農業協同組合連合会安城更生病院		
5031 大阪警察病院		
<b>第15回 認可 (6施設)</b>		
認定番号 施設名		
3024 自衛隊中央病院		
3075 財団法人東京都保健医療公社多摩北部医療センター		
4037 石川県立中央病院		
5035 社会医療法人愛仁会高槻病院		
7015 小倉記念病院		
7016 飯塚病院		
<b>第17回 認可 (2施設)</b>		
認定番号 施設名		
4040 新潟県立中央病院		
5038 京都第二赤十字病院		
<b>第19回 認可 (6施設)</b>		
認定番号 施設名		
3038 独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院		
3055 国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院		
3083 川口市立医療センター		
3084 船橋市立医療センター		
4013 岐阜県総合医療センター		
5042 (財)神戸市地域医療振興財団西神戸医療センター		
<b>第21回 認可 (8施設)</b>		
認定番号 施設名		
2018 由利組合総合病院		
2019 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構日本海総合病院		
2020 鶴岡市立荘内病院		
3087 JAとりで総合医療センター		
3088 成田赤十字病院		
3089 東京医療生活協同組合中野総合病院		
5004 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター		
5045 医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院		

<b>第 23 回</b>	認可 (17 施設)	4070	静岡県立静岡がんセンター
認定番号	施設名	4071	春日井市民病院
2028	財団法人星総合病院	5075	社会医療法人愛仁会千船病院
3031	国保松戸市立病院	5076	関西電力病院
3042	(財) 東京都保健医療公社豊島病院	5077	大阪府済生会中津病院
3101	国保直営総合病院君津中央病院	5078	医療法人 明和病院
3102	医療法人財団東京勤労者医療会東葛病院	7034	医療法人北九州病院北九州総合病院
4056	市立砺波総合病院	7036	社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院
4057	社会医療法人財団慈泉会相澤病院		
5052	市立長浜病院	<b>第 29 回</b>	認可 (117 施設)
5053	大津市民病院	認定番号	施設名
5056	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	1901	旭川医科大学病院
5057	市立堺病院	1902	北海道大学病院
5058	りんくう総合医療センター	1903	札幌医科大学附属病院
5059	箕面市立病院	2901	弘前大学医学部附属病院
5060	公立学校共済組合近畿中央病院	2902	秋田大学医学部附属病院
5062	財団法人甲南病院	2903	岩手医科大学附属病院
7023	長崎市立市民病院	2904	東北大学病院
7024	宮崎県立延岡病院	2905	山形大学医学部附属病院
		2906	福島県立医科大学附属病院
<b>第 25 回</b>	認可 (18 施設)	3090	大和市立病院
認定番号	施設名	3132	国際医療福祉大学三田病院
1015	市立室蘭総合病院	3901	自治医科大学附属病院
1018	札幌社会保険総合病院	3902	獨協医科大学病院
1019	JA 北海道厚生連札幌厚生病院	3903	群馬大学医学部附属病院
2030	秋田県厚生連平鹿総合病院	3904	筑波大学附属病院
3108	上都賀総合病院	3905	埼玉医科大学病院
3109	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	3906	防衛医科大学校病院
3110	独立行政法人国立成育医療研究センター	3907	千葉大学医学部附属病院
4038	長野県厚生農業協同組合連合会北信総合病院	3908	順天堂大学医学部附属順天堂医院
4052	焼津市立総合病院	3909	慶応義塾大学病院
4061	長野県厚生農業協同組合連合会篠ノ井総合病院	3910	日本大学医学部附属板橋病院
4063	福井県立病院	3911	日本医科大学付属病院
4064	富士宮市立病院	3912	東京医科大学病院
4065	浜松医療センター	3913	東京慈恵会医科大学附属病院
5027	(財) 田附興風会医学研究所北野病院	3914	東京女子医科大学病院
6030	鳥取県立中央病院	3915	東邦大学医療センター大森病院
6031	住友別子病院	3916	昭和大学病院
7028	社会福祉法人恩賜財団済生会支部福岡県済生会福岡総合病院	3917	東京医科歯科大学医学部附属病院
7031	那覇市立病院	3918	東京大学医学部附属病院
		3919	杏林大学医学部付属病院
<b>第 27 回</b>	認可 (13 施設)	3920	帝京大学医学部附属病院
認定番号	施設名	3921	聖マリアンナ医科大学病院
1025	社会福祉法人函館厚生院函館中央病院	3922	北里大学病院
2035	財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院	3923	東海大学医学部付属病院
3120	春日部市立病院	3924	公立大学法人横浜市立大学附属病院
3121	独立行政法人国立病院機構東京病院	3925	東京医科大学茨城医療センター
3122	独立行政法人国立病院機構横浜医療センター	3926	獨協医科大学越谷病院

3927	埼玉医科大学総合医療センター	5908	和歌山県立医科大学附属病院
3928	自治医科大学附属さいたま医療センター	5909	兵庫医科大学病院
3929	帝京大学ちば総合医療センター	5910	神戸大学医学部附属病院
3930	順天堂大学医学部附属浦安病院	5912	近畿大学医学部奈良病院
3931	東京慈恵会医科大学附属柏病院	5913	奈良県立医科大学附属病院
3932	東邦大学医療センター佐倉病院	5914	滋賀医科大学医学部附属病院
3934	駿河台日本大学病院	6042	福山市民病院
3935	東京慈恵会医科大学附属第三病院	6043	広島県厚生農業共同組合連合会尾道総合病院
3936	東邦大学医療センター大橋病院	6901	徳島大学病院
3937	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター	6902	香川大学医学部附属病院
3938	東京女子医科大学東医療センター	6903	高知大学医学部附属病院
3939	日本医科大学多摩永山病院	6904	愛媛大学医学部附属病院
3941	東京医科大学八王子医療センター	6905	岡山大学病院
3942	順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター	6906	川崎医科大学附属病院
3943	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	6907	広島大学病院
3944	昭和大学藤が丘病院	6908	鳥取大学医学部附属病院
3945	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター	6909	島根大学医学部附属病院
3946	日本医科大学武蔵小杉病院	6910	山口大学医学部附属病院
3947	北里大学東病院	7038	独立行政法人国立病院機構九州医療センター
3948	帝京大学医学部附属溝口病院	7039	医療法人天神会新古賀病院
3949	昭和大学横浜市北部病院	7901	産業医科大学病院
4058	公立学校共済組合東海中央病院	7902	久留米大学病院
4079	医療法人立川メディカルセンター立川総合病院	7903	九州大学病院
4080	総合病院南生協病院	7904	福岡大学病院
4089	国際医療福祉大学熱海病院	7905	佐賀大学医学部附属病院
4901	浜松医科大学医学部附属病院	7906	熊本大学医学部附属病院
4902	新潟大学医歯学総合病院	7907	長崎大学病院
4903	山梨大学医学部附属病院	7908	大分大学医学部附属病院
4904	信州大学医学部附属病院	7909	宮崎大学医学部附属病院
4905	富山大学附属病院	7910	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
4906	金沢大学附属病院	7911	琉球大学医学部附属病院
4907	金沢医科大学病院	7912	福岡大学筑紫病院
4908	福井大学医学部附属病院		
4909	名古屋大学医学部附属病院	第31回	認可(14施設)
4910	名古屋市立大学病院	認定番号	施設名
4911	愛知医科大学病院	1014	砂川市立病院
4912	藤田保健衛生大学病院	2031	公立置賜総合病院
4913	岐阜大学医学部附属病院	3085	社会医療法人社団木下会千葉西総合病院
4914	三重大学医学部附属病院	3134	医療法人社団圭春会小張総合病院
4917	順天堂大学医学部附属静岡病院	3950	埼玉医科大学国際医療センター
5026	淀川キリスト教病院	3951	順天堂大学医学部附属練馬病院
5901	京都大学医学部附属病院	3135	国家公務員共済組合連合会立川病院
5902	京都府立医科大学附属病院	3136	青梅市立総合病院
5903	関西医科大学附属滝井病院	3138	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院
5904	大阪医科大学附属病院	4053	沼津市立病院
5905	大阪市立大学医学部附属病院	4084	市立四日市病院
5906	大阪大学医学部附属病院	4085	愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院
5907	近畿大学医学部附属病院	4086	社会医療法人宏潤会大同病院

6052	社会医療法人近森会近森病院
<b>第33回</b>	認可(6施設)
認定番号	施設名
3140	(財)東京都保健医療公社東部地域病院
4090	伊勢赤十字病院
5087	社会医療法人生長会府中病院
5915	関西医科大学附属枚方病院
6053	独立行政法人労働者健康福祉機構中国労災病院
7043	公立学校共済組合九州中央病院

平成24年度病理専門医研修施設(登録施設)更新機関  
(第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 25, 27, 29, 31, 33 140  
施設)

期間2年間 平成24年4月1日～平成26年3月31日

<b>第1回</b>	認可(9施設)
登録番号	施設名
2004	福島県立会津総合病院
3001	社会福祉法人恩賜財団済生会支部栃木県済生会宇都宮病院
3009	独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター
3013	東京都教職員互助会三楽病院
3022	独立行政法人国立病院機構災害医療センター
3026	平塚市民病院
4008	名鉄病院
4019	市立伊勢総合病院
7007	独立行政法人国立病院機構別府医療センター

<b>第3回</b>	認可(1施設)
登録番号	施設名
5022	兵庫県立柏原病院

<b>第5回</b>	認可(2施設)
登録番号	施設名
3035	国家公務員共済組合連合会九段坂病院
5029	医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院

<b>第7回</b>	認可(2施設)
登録番号	施設名
3042	千葉県救急医療センター
3043	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター

<b>第9回</b>	認可(3施設)
登録番号	施設名
4037	佐久市立国保浅間総合病院
4039	国家公務員共済組合連合会名城病院
4040	総合病院中津川市民病院

<b>第11回</b>	認可(2施設)
登録番号	施設名
4045	みなと医療生活協同組合協立総合病院
7031	唐津赤十字病院

<b>第13回</b>	認可(2施設)
登録番号	施設名
1006	独立行政法人国立病院機構旭川医療センター
4051	医療法人社団健和会健和会病院

<b>第15回</b>	認可(2施設)
登録番号	施設名
4057	松阪市民病院
6020	岡山労災病院

<b>第17回</b>	認可(3施設)
登録番号	施設名
3074	医療生協さいたま生活協同組合埼玉協同病院
4061	豊川市民病院
5048	市立伊丹病院

<b>第19回</b>	認可(6施設)
登録番号	施設名
4070	飯田市立病院
4071	大垣市民病院
4072	羽島市民病院
5050	社会保険京都病院
5051	加西市立加西病院
7041	公益財団法人昭和会今給黎総合病院

<b>第21回</b>	認可(6施設)
登録番号	施設名
1011	独立行政法人労働者健康福祉機構北海道中央労災病院せき損センター
1014	医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
4075	西尾市民病院
5056	高槻赤十字病院
5059	兵庫県立こども病院
7043	医療法人親仁会米の山病院

<b>第23回</b>	認可(6施設)
登録番号	施設名
1019	医療法人王子総合病院
2018	岩手県立大船渡病院
3086	草加市立病院
4079	独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院
4080	一宮市立市民病院
7048	社会福祉法人恩賜財団済生会川内病院

## 第 25 回 認可 (15 施設)

登録番号	施設名
1013	社会医療法人母恋日鋼記念病院
2020	公立刈田総合病院
2021	宮城県立がんセンター
2022	仙台社会保険病院
2023	大崎市民病院
3094	公益財団法人結核予防会複十字病院
3095	独立行政法人国立病院機構東埼玉病院
4085	長野市民病院
4086	長野県厚生農業協同組合連合会長野松代総合病院
5069	大阪府済生会富田林病院
5070	市立枚方市民病院
5071	明石市立市民病院
5072	赤穂市民病院
5073	独立行政法人国立病院機構姫路医療センター
6030	医療法人里仁会興生総合病院

## 第 27 回 認可 (4 施設)

登録番号	施設名
5079	泉大津市立病院
6047	国家公務員共済組合連合会高松病院
6048	高知県立幡多けんみん病院
7051	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

## 第 29 回 認可 (21 施設)

登録番号	施設名
1029	医療法人彰和会北海道消化器科病院
1030	北海道社会事業協会小樽病院
2029	JA 秋田厚生連秋田組合総合病院
3080	国立療養所多磨全生園
3111	(財) ライフ・エクステンション研究所付属永寿総合病院
3901	東京大学医科学研究所附属病院
3902	東海大学医学部付属東京病院
3903	東海大学医学部付属八王子病院
3904	東海大学医学部付属大磯病院
4091	金沢市立病院
4096	公立松任石川中央病院
4097	南砺市民病院
4901	藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院
5081	大阪府済生会茨木病院
6015	徳島市民病院
6034	独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院
6051	山口県済生会下関総合病院
6052	社会保険下関厚生病院
7056	医療法人社団高邦会高木病院
7057	社会福祉法人恩賜財団済生会支部済生会長崎病院
7058	長崎県島原病院

## 第 31 回 認可 (22 施設)

登録番号	施設名
2030	青森労災病院
3114	大田原赤十字病院
3115	医療法人社団日高会日高病院
3116	町田市民病院
3117	済生会横浜市東部病院
4113	長野中央病院
4114	福井赤十字病院
5086	京都桂病院
5088	大阪鉄道病院
5089	姫路聖マリア病院
6055	鳥取赤十字病院
6056	独立行政法人国立病院機構関門医療センター
6057	総合病院坂出市立病院
6058	社会医療法人財団大樹会総合病院回生病院
7061	福岡県済生会二日市病院
7062	独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
7063	独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院
7064	医療法人創起会 くまもと森都総合病院
7065	独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター
7066	公益財団法人慈愛会今村病院分院
7067	独立行政法人国立病院機構沖繩病院
7068	医療法人白十字会白十字病院

## 第 33 回 認可 (34 施設)

登録番号	施設名
1009	国家公務員共済組合連合会札幌医療センター斗南病院
1035	岩見沢市立総合病院
1036	市立千歳市民病院
1037	市立稚内病院
2032	大館市立総合病院
3073	富士重工業健康保険組合太田記念病院
3076	社会福祉法人浴風会浴風会病院
3121	国際医療福祉大学病院
3122	原町赤十字病院
3123	館林厚生病院
3124	なめがた地域総合病院
3125	医療法人柏堤会戸塚共立第 1 病院
4092	福井県済生会病院
4116	社会医療法人厚生会木沢記念病院
5062	社会医療法人誠光会草津総合病院
5095	市立岸和田市民病院
5096	橋本市立病院
5097	医療法人健生会土庫病院
5098	宝塚市立病院
5902	近畿大学医学部堺病院
6029	社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院

- 6061 心臓病センター榊原病院
- 6062 独立行政法人国立病院機構岩国医療センター
- 6063 山口県厚生農業協同組合連合会小郡第一総合病院
- 6064 済生会山口総合病院
- 6065 総合病院山口赤十字病院
- 6066 宇部興産株式会社中央病院
- 7055 独立行政法人国立病院機構小倉医療センター
- 7075 朝倉医師会病院
- 7076 中津市民病院
- 7077 健康保険諫早総合病院
- 7078 社会医療法人仁愛会浦添総合病院
- 7079 医療法人沖繩徳洲会中部徳洲会病院
- 7901 久留米大学医療センター

- 2. 剖検輯報編集方法を充実
- 3. 剖検記録データベースを更新
- IV. 病理専門医等の資格認定
  - 1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定試験（於名古屋市）及び資格更新を実施
  - 2. 病理専門医の広告
  - 3. 「病理専門医研修ファイル」を配布
  - 4. 病理専門医研修施設の認定、資格更新を実施
- V. 学術団体との協力、連絡
  - 1. 学術団体等との会議共催および後援（国内）を実施
  - 2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
  - 3. 海外病理学会との交流
    - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流を実施
    - (2) ドイツ病理学会との学術交流を実施
    - (3) アジア各国との学術交流を実施
- VI. その他目的を達成するために必要な事業
  - 1. 日本病理学賞（宿題報告）を2名に授与
  - 2. 日本病理学会学術奨励賞を7名に授与
  - 3. 日本病理学会学術研究賞（A 演説）を9名に授与
  - 4. 病理学卒前教育の充実
  - 5. 病理診断コンサルテーションシステムを実施
  - 6. インターネットホームページを改定
  - 7. 病理専門医制度運営、医療業務、学術・研究等各種委員会を開催
  - 8. 日本病理学会100周年記念事業を実施
  - 9. 医師賠償責任保険加入取扱い実施

◇平成23年度事業報告について：第101回（平成24年度）総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成23年度事業報告（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）は、以下のとおりである。

- I. 学術集会、研究会等の開催
  - 1. 学術集会の開催
    - (1) 「第100回日本病理学会総会」（於横浜・深山正久会長）を開催
    - (2) 「第57回日本病理学会秋期特別総会」（於東京・諸星利男会長）を開催
  - 2. 研究会、講習会等の開催
    - (1) 第8回日本病理学会カンファレンス（於松本市8月5日・6日）を開催
    - (2) 細胞診講習会（於東京都 6月4日〈前年度分補講〉平成24年3月10日・11日）を開催
    - (3) 病理診断講習会（於横浜市 4月28日～30日）を開催
    - (4) 第5回診断病理サマーフェスト（於京都市 8月27日・28日）を開催
    - (5) 各支部における学術・研究集会を開催
  - 3. 市民公開講座の開催

- II. 学会誌、学術図書等の発行
  - 1. 「日本病理学会会誌」（第100巻第1～2号）を発行
  - 2. 「Pathology International」（Vol.61 4～12, Vol.62 1～3）を発行
  - 3. 「診断病理」（第28巻第2～4号、第29巻第1号）を発行
  - 4. 「日本病理学会会報」（第279～290号）を発行
  - 5. 「お知らせ」（第5号～7号）を発行
  - 6. 「病理専門医部会報」（2011年 第2～4号、2012年第1号）を発行

- III. 研究および調査
  - 1. 「日本病理剖検輯報」第52輯（平成21年症例）を発行

◇平成23年度収支決算報告について：第101回（平成24年度）総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成23年度収支決算報告は、以下のとおりである。

- 1) 収支計算書  
平成23年4月1日から平成24年3月31日まで  
(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入	15,000	6,013	△ 8,987	
受取利息収入	15,000	6,013	△ 8,987	
2. 会費収入	57,630,000	66,804,000	9,174,000	
正会員・学術評議員会費収入	22,400,000	25,152,000	2,752,000	
同一一般会員会費収入	22,740,000	28,231,000	5,491,000	
学生会員会費収入	10,000	0	△ 10,000	
賛助会員会費収入	150,000	50,000	△ 100,000	
機関会員会費収入	330,000	355,000	25,000	
病理専門医部会費収入	12,000,000	13,016,000	1,016,000	
3. 事業収入	131,700,000	162,006,292	30,306,292	
学術集会収入	90,000,000	115,443,186	25,443,186	
論文掲載料収入	900,000	1,168,681	268,681	
広告料収入	800,000	599,400	△ 200,600	

刊行物発行収入	13,000,000	10,816,500	△ 2,183,500	
専門医制度収入	16,000,000	18,449,000	2,449,000	
病理専門医部会収入	4,000,000	2,302,910	△ 1,697,090	
講習会等収入	4,500,000	4,917,000	417,000	
支部総会等収入	0	5,644,205	5,644,205	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,665,410	165,410	
<b>4. 補助金収入</b>	<b>0</b>	<b>5,100,000</b>	<b>5,100,000</b>	
受取補助金収入	0	5,100,000	5,100,000	
<b>5. 寄付金収入</b>	<b>0</b>	<b>3,135,000</b>	<b>3,135,000</b>	
受取寄付金収入	0	500,000	500,000	
100周年記念事業寄付金収入	0	2,635,000	2,635,000	
<b>6. 特定資産取崩収入</b>	<b>25,000,000</b>	<b>30,143,457</b>	<b>5,143,457</b>	
100周年記念事業引当預金取崩収入	25,000,000	17,243,457	△ 7,756,543	
退職給付引当預金取崩収入	0	12,900,000	12,900,000	
<b>7. 雑収入</b>	<b>2,100,000</b>	<b>8,830,892</b>	<b>6,730,892</b>	
受取利息収入	100,000	23,366	△ 76,634	
雑収入	2,000,000	8,807,526	6,807,526	
<b>8. 繰入金収入</b>	<b>0</b>	<b>3,640,000</b>	<b>3,640,000</b>	
繰入金収入	0	3,640,000	3,640,000	
<b>当期収入合計 (A)</b>	<b>216,445,000</b>	<b>279,665,654</b>	<b>63,220,654</b>	
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>92,521,000</b>	<b>120,058,273</b>	<b>27,537,273</b>	
<b>収入合計 (B)</b>	<b>308,966,000</b>	<b>399,723,927</b>	<b>90,757,927</b>	

光熱費	250,000	216,331	△ 33,669	
賃借料	4,000,000	4,080,358	80,358	
諸会費	900,000	850,000	△ 50,000	
補助金	0	0	0	
修繕費	100,000	0	△ 100,000	
保険料	0	17,990	17,990	
嘱託料	2,500,000	3,128,500	628,500	
租税公課 (消費税等)	700,000	1,129,100	429,100	
(法人税等)	3,000,000	694,200	△ 2,305,800	
雑費	500,000	10,743,794	10,243,794	
100周年記念事業管理経費	0	0	0	
<b>3. 特定預金支出</b>	<b>13,600,000</b>	<b>4,235,000</b>	<b>△ 9,365,000</b>	
退職給付引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0	
100周年記念事業引当預金取得支出	12,000,000	2,635,000	△ 9,365,000	
<b>4. 固定資産支出</b>	<b>0</b>	<b>1,578,780</b>	<b>1,578,780</b>	
保証金取得支出	0	1,578,780	1,578,780	
<b>5. 予備費</b>	<b>1,100,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 1,100,000</b>	
<b>当期支出合計 (C)</b>	<b>212,750,000</b>	<b>285,561,862</b>	<b>71,233,082</b>	
<b>当期収支差額 (A-C)</b>	<b>3,695,000</b>	<b>△ 5,896,208</b>	<b>△ 8,012,428</b>	
<b>次期繰越収支差額 (B-C)</b>	<b>96,216,000</b>	<b>114,162,065</b>	<b>19,524,845</b>	

## ② 病理学学術医療振興基金特別会計

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

(単位 円)				
科目	予算額	決算額	差異	備考
<b>II. 支出の部</b>				
<b>1. 事業支出</b>	<b>166,000,000</b>	<b>219,925,119</b>	<b>53,925,119</b>	
学術集会経費	89,000,000	118,207,164	29,207,164	
学会誌発行経費	15,000,000	18,847,459	3,847,459	
会報・お知らせ発行経費	2,000,000	1,696,375	△ 303,625	
剖検輯報刊行経費	11,000,000	14,565,381	3,565,381	
専門医制度運営経費	10,000,000	12,651,885	2,651,885	
病理専門医部会経費	8,000,000	7,947,748	△ 52,252	
学術奨励等経費	3,000,000	3,519,561	519,561	
講習会等経費	3,500,000	4,340,517	840,517	
各種委員会経費	3,500,000	3,319,681	△ 180,319	
事業人件費	8,000,000	5,008,624	△ 2,991,376	
租税公課	0	0	0	
100周年記念事業経費	13,000,000	11,921,174	△ 1,078,826	
100周年記念プロジェクト経費	0	307,363	307,363	新設
委託費	0	1,734,330	1,734,330	
支部総会等経費	0	15,857,857	15,857,857	
<b>2. 管理費</b>	<b>32,050,000</b>	<b>59,822,963</b>	<b>27,772,963</b>	
人件費	10,000,000	12,816,397	2,816,397	
退職給付費用	0	12,918,869	12,918,869	
福利厚生費	2,500,000	2,871,378	371,378	
交通費	400,000	612,370	212,370	
通信運搬費	2,700,000	2,088,796	△ 611,204	
会議費	2,000,000	5,138,152	3,138,152	
印刷費	2,000,000	1,715,528	△ 284,472	
備品費	200,000	0	△ 200,000	
消耗品費	300,000	801,200	501,200	

科目	予算額	決算額	差異
<b>I. 収入の部</b>			
<b>1. 会費収入</b>	<b>3,000,000</b>	<b>2,500,000</b>	<b>△ 500,000</b>
正会員・学術評議員終身会費収入	3,000,000	2,500,000	△ 500,000
<b>2. 特定資産取崩収入</b>	<b>3,480,000</b>	<b>3,640,000</b>	<b>160,000</b>
学術医療振興基金取崩収入	3,480,000	3,640,000	160,000
<b>3. 雑収入</b>	<b>0</b>	<b>15,922</b>	<b>15,922</b>
受取利息収入	0	15,922	15,922
<b>当期収入合計 (A)</b>	<b>6,480,000</b>	<b>6,155,922</b>	<b>△ 324,078</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>収入合計 (B)</b>	<b>6,480,000</b>	<b>6,155,922</b>	<b>△ 324,078</b>
科目	予算額	決算額	差異
<b>II. 支出の部</b>			
<b>1. 特定預金支出</b>	<b>3,000,000</b>	<b>2,515,922</b>	<b>△ 484,078</b>
学術医療振興基金取得支出	3,000,000	2,515,922	△ 484,078
<b>2. 繰入金支出</b>	<b>0</b>	<b>3,640,000</b>	<b>3,640,000</b>
繰入金支出	0	3,640,000	3,640,000
<b>3. 予備費</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>当期支出合計 (C)</b>	<b>3,000,000</b>	<b>6,155,922</b>	<b>3,155,922</b>
<b>当期収支差額 (A-C)</b>	<b>3,480,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 3,480,000</b>
<b>次期繰越収支差額 (B-C)</b>	<b>3,480,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 3,480,000</b>

## ③ 病理学国際交流基金特別会計

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異
<b>I. 収入の部</b>			
1. 雑収入	0	4,016	4,016
受取利息収入	0	4,016	4,016
当期収入合計 (A)	0	4,016	4,016
前期繰越収支差額	0	0	0
収入合計 (B)	0	4,016	4,016

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異
<b>II. 支出の部</b>			
1. 特定預金支出	0	4,016	4,016
学術医療振興基金取得支出	0	4,016	4,016
2. 予備費	0	0	0
当期支出合計 (C)	0	4,016	4,016
当期収支差額 (A-C)	0	0	0
次期繰越収支差額 (B-C)	0	0	0

## 2) 収支計算書総括表

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科目	合計	一般会計	病理学学術 医療振興基金 特別会計	病理学 国際交流基金 特別会計
<b>I. 収入の部</b>				
1. 基本財産運用収入	6,013	6,013	0	0
2. 会費収入	69,304,000	66,804,000	2,500,000	0
3. 事業収入	162,006,292	162,006,292	0	0
4. 補助金収入	5,100,000	5,100,000	0	0
5. 寄付金収入	3,135,000	3,135,000	0	0
6. 特定資産取崩収入	33,783,457	30,143,457	3,640,000	0
7. 雑収入	8,850,830	8,830,892	15,922	4,016
8. 繰入金収入	3,640,000	3,640,000	0	0
当期収入合計	285,825,592	279,665,654	6,155,922	4,016
前期繰越収支差額	120,058,273	120,058,273	0	0
収入合計	405,883,865	399,723,927	6,155,922	4,016
<b>II 支出の部</b>				
1. 事業支出	219,925,119	219,925,119	0	0
2. 管理費	59,822,963	59,822,963	0	0
3. 特定預金支出	6,754,938	4,235,000	2,515,922	4,016
4. 固定資産支出	1,578,780	1,578,780	0	0
5. 繰入金支出	3,640,000	0	3,640,000	0
当期支出合計	291,721,800	285,561,862	6,155,922	4,016
当期収支差額	△ 5,896,208	△ 5,896,208	0	0
次期繰越収支差額	114,162,065	114,162,065	0	0

## 3) 収支計算書に対する注記

## 1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、未払金、前払金、前受金、預り金を含めている。

なお、前期末残高及び当期末残高は、下記 2 に記載するとおりである。

## 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位 円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	139,141,109	130,908,644
未収金	408,855	232,646
前払金	201,243	195,300
合計	139,751,207	131,336,590
未払金	13,106,284	9,512,538
預り金	1,770,000	4,455,987
前受金	4,816,650	3,206,000
合計	19,692,934	17,174,525
次期繰越収支差額	120,058,273	114,162,065

なお、当期より支部会計を合算しており、期首における支部会計の現金預金 27,537,222 円を前期末残高に含めて記載している。

## 4) 一般会計貸借対照表

平成 24 年 3 月 31 日 現在

(単位 円)

科目	当年度
<b>I. 資産の部</b>	
1. 流動資産	
現金預金	130,908,644
未収金	232,646
前払金	195,300
流動資産合計	131,336,590
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
普通預金	30,000,000
基本財産合計	30,000,000
(2) 特定資産	
100 周年記念事業引当資産	25,286,334
退職給付引当預金	7,800,000
特定資産合計	33,086,334
(3) その他固定資産	
保証金	2,508,780
その他固定資産合計	2,508,780
固定資産合計	65,595,114
資産合計	196,931,704
<b>II. 負債の部</b>	
1. 流動負債	
未払金	9,512,538
前受金	3,206,000

預り金	4,455,987
流動負債合計	17,174,525
2. 固定負債	
退職給付引当金	7,800,000
固定負債合計	7,800,000
負債合計	24,974,525
III. 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
寄付金	5,286,334
指定正味財産合計	5,286,334
(うち特定財産への充当額)	(5,286,334)
2. 一般正味財産	166,670,845
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)
(うち特定財産への充当額)	(20,000,000)
正味財産合計	171,957,179
負債及び正味財産合計	196,931,704

## 5) 一般会計正味財産増減計算書

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
① 基本財産運用益	6,013
基本財産受取利息	6,013
② 特定資産運用益	5,128
特定資産受取利息	5,128
③ 受取会費	66,804,000
学術評議員受取会費	25,152,000
一般会員受取会費	28,231,000
機関会員受取会費	355,000
賛助会員受取会費	50,000
病理専門医協会受取会費	13,016,000
④ 事業収益	162,006,292
学術集会収益	115,443,186
論文掲載料収益	1,168,681
広告料収益	599,400
刊行物発行収益	10,816,500
専門医制度収益	18,449,000
病理専門医協会収益	2,302,910
講習会等収益	4,917,000
支部集会等収益	5,644,205
賠償保険事務費収益	2,665,410
⑤ 受取補助金等	5,100,000
受取科学研究費補助金	5,100,000
⑥ 受取寄付金	17,743,457
受取寄付金	17,743,457
⑦ 雑収益	8,825,764
受取利息	18,238
雑収益	8,807,526

⑧ 他会計からの繰入額	3,640,000
病理学学術医療振興基金特別会計からの繰入額	3,640,000
経常収益計	264,130,654
(2) 経常費用	
① 事業費	
学術集会費	118,207,164
学会誌発行費	18,847,459
会報・お知らせ発行費	1,696,375
剖検輯報発行費	14,565,381
専門医制度運営費	12,651,885
病理専門医協会費	7,947,748
学術奨励等費	3,519,561
講習会等経費	4,340,517
各種委員会費	3,319,681
事業人件費	5,008,624
委託費	1,734,330
病理情報ネットワークセンター設立費	1,312,500
100周年記念誌刊行経費	4,678,117
100周年記念事業経費	5,930,557
100周年記念プロジェクト経費	307,363
支部総会等経費	15,857,857
事業費計	219,925,119
② 管理費	
給料手当	12,816,397
退職給付費用	1,618,869
福利厚生費	2,871,378
会議費	5,138,152
旅費交通費	612,370
通信運搬費	2,088,796
消耗什器備品費	84,957
消耗品費	801,200
印刷製本費	1,715,528
光熱水料費	216,331
賃借料	4,080,358
保険料	17,990
諸謝金	3,128,500
租税公課	1,823,300
支払負担金	850,000
支払寄付金	10,000,000
雑費	743,794
管理費計	48,607,920
経常費用計	268,533,039
当期経常増減額	△ 4,402,385
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,402,385
一般正味財産期首残高	171,073,230
一般正味財産期末残高	166,670,845
II 指定正味財産増減の部	

① 受取寄付金	2,635,000
受取寄付金	2,635,000
② 一般正味財産への振替額	△ 17,243,457
一般正味財産への振替額	△ 17,243,457
当期指定正味財産増減額	△ 14,608,457
指定正味財産期首残高	19,894,791
指定正味財産期末残高	5,286,334
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>171,957,179</b>

6) 病理学学術医療振興基金特別会計貸借対照表  
平成 24 年 3 月 31 日 現在

(単位 円)

科 目	当年度
<b>I. 資産の部</b>	
<b>1. 流動資産</b>	
流動資産合計	0
<b>2. 固定資産</b>	
(1) 特定資産	
学術医療振興基金引当預金	98,751,098
特定資産合計	<b>98,751,098</b>
固定資産合計	<b>98,751,098</b>
資産合計	<b>98,751,098</b>
<b>II. 負債の部</b>	
負債合計	<b>0</b>
<b>III. 正味財産の部</b>	
<b>1. 指定正味財産</b>	
指定正味財産合計	0
<b>2. 一般正味財産</b>	98,751,098
(うち特定財産への充当額)	( 98,751,098)
正味財産合計	<b>98,751,098</b>
負債及び正味財産合計	<b>98,751,098</b>

7) 病理学学術医療振興基金特別会計正味財産増減計算書  
平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	当年度
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
<b>1. 経常増減の部</b>	
(1) 経常収益	
① 特定資産運用益	15,922
特定資産受取利息	15,922
② 受取会費	2,500,000
終身受取会費	2,500,000
経常収益計	<b>2,515,922</b>
(2) 経常費用	
① 他会計への繰出額	3,640,000
一般会計への繰出額	3,640,000
経常費用計	<b>3,640,000</b>

当期経常増減額	△ 1,124,078
<b>2. 経常外増減の部</b>	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,124,078
一般正味財産期首残高	99,875,176
一般正味財産期末残高	98,751,098
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>98,751,098</b>

8) 病理学国際交流基金特別会計貸借対照表  
平成 24 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	当年度
<b>I. 資産の部</b>	
<b>1. 流動資産</b>	
流動資産合計	0
<b>2. 固定資産</b>	
(1) 特定資産	
国際交流基金引当預金	20,143,660
特定資産合計	20,143,660
固定資産合計	<b>20,143,660</b>
資産合計	<b>20,143,660</b>
<b>II. 負債の部</b>	
負債合計	<b>0</b>
<b>III. 正味財産の部</b>	
<b>1. 指定正味財産</b>	
指定正味財産合計	0
<b>2. 一般正味財産</b>	20,143,660
(うち特定財産への充当額)	( 20,143,660)
正味財産合計	<b>20,143,660</b>
負債及び正味財産合計	<b>20,143,660</b>

9) 病理学国際交流基金特別会計正味財産増減計算書  
平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	当年度
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
<b>1. 経常増減の部</b>	
(1) 経常収益	
① 特定資産運用益	4,016
特定資産受取利息	4,016
経常収益計	4,016

(2) 経常費用		当期一般正味財産増減額	4,016
経常費用計	0	一般正味財産期首残高	20,139,644
当期経常増減額	4,016	一般正味財産期末残高	20,143,660
2. 経常外増減の部		II 指定正味財産増減の部	
(1) 経常外収益		当期指定正味財産増減額	0
経常外収益計	0	指定正味財産期首残高	0
(2) 経常外費用		指定正味財産期末残高	0
経常外費用計	0	III 正味財産期末残高	20,143,660
当期経常外増減額	0		

## 10) 貸借対照表総括表

平成 24 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	一般会計	病理学学術 医療振興基金 特別会計	病理学 国際交流基金 特別会計	内部取引消去	合 計
<b>I 資産の部</b>					
1. 流動資産					
預金現金	130,908,644	0	0	0	130,908,644
未収金	232,646				232,646
前払金	195,300				195,300
流動資産合計	131,336,590	0	0	0	131,336,590
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
普通預金	30,000,000				30,000,000
基本財産合計	30,000,000	0	0	0	30,000,000
(2) 特定資産					
学術医療振興基金引当預金	0	98,751,098			98,751,098
国際交流基金引当預金	0		20,143,660		20,143,660
100周年記念事業引当資産	25,286,334				25,286,334
退職給付引当預金	7,800,000	7,800,000			15,600,000
特定資産合計	33,086,334	98,751,098	20,143,660	0	151,981,092
(3) その他固定資産					
保証金	2,508,780				2,508,780
その他固定資産合計	2,508,780	0	0	0	2,508,780
固定資産合計	65,595,114	98,751,098	20,143,660	0	184,489,872
資産合計	196,931,704	98,751,098	20,143,660	0	315,826,462
<b>II 負債の部</b>					
1. 流動負債					
未払金	9,512,538				9,512,538
前受金	3,206,000				3,206,000
預り金	4,455,987				4,455,987
流動負債合計	17,174,525	0	0	0	17,174,525
2. 固定負債					
退職給付引当金	7,800,000				7,800,000
固定負債合計	7,800,000	0	0	0	7,800,000
負債合計	24,974,525	0	0	0	24,974,525
<b>III 正味財産</b>					
1. 指定正味財産					
寄付金	5,286,334				5,286,334
指定正味財産合計	5,286,334	0	0	0	5,286,334
(うち特定資産への充当額)	(5,286,334)	(0)	(0)	(0)	(5,286,334)
2. 一般正味財産	166,670,845	98,751,098	20,143,660	285,565,603	460,510,606
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(0)	(0)	(0)	(30,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(20,000,000)	(98,751,098)	(20,143,660)	(0)	(138,894,758)
正味財産合計	171,957,179	98,751,098	20,143,660	0	290,851,937
負債及び正味財産合計	196,931,704	98,751,098	20,143,660	0	315,826,462

## 11) 正味財産増減計算書総括表

平成23年4月1日～平成24年3月31日

(単位 円)

科目	一般会計	病理学学術 医療振興基金 特別会計	病理学国際交流 基金特別会計	内部取引消去	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
<b>1. 経常増減の部</b>					
(1) 経常収益					
① 基本財産運用益	6,013	0	0	0	6,013
基本財産受取利息	6,013				6,013
② 特定資産運用益	5,128	15,922	4,016	0	25,066
特定資産受取利息	5,128	15,922	4,016	25,066	
③ 受取会費	66,804,000	2,500,000	0	0	69,304,000
学術評議員受取会費	25,152,000				25,152,000
一般会員受取会費	28,231,000				28,231,000
機関会員受取会費	355,000				355,000
賛助会員受取会費	50,000				50,000
終身受取会費	0	2,500,000			2,500,000
病理専門医部会受取会費	13,016,000				13,016,000
④ 事業収益	162,006,292	0	0	0	162,006,292
学術集会収益	115,443,186				115,443,186
論文掲載料収益	1,168,681				1,168,681
広告料収益	599,400				599,400
刊行物発行収益	10,816,500				10,816,500
専門医制度収益	18,449,000				18,449,000
病理専門医部会収益	2,302,910				2,302,910
講習会等収益	4,917,000				4,917,000
支部集会等収益	5,644,205				5,644,205
賠償保険事務費収益	2,665,410				2,665,410
⑤ 受取補助金等	5,100,000	0	0	0	5,100,000
受取補助金等	5,100,000				5,100,000
⑤ 受取寄付金	17,743,457	0	0	0	17,743,457
受取寄付金	17,743,457				17,743,457
⑥ 雑収益	8,825,764	0	0	0	8,825,764
受取利息	18,238				18,238
雑収益	8,807,526				8,807,526
⑦ 他会計からの繰入額	3,640,000	0	0	△ 3,640,000	0
病理学学術医療振興基金特別会計からの繰入額	3,640,000			△ 3,640,000	0
<b>経常収益計</b>	<b>264,130,654</b>	<b>2,515,922</b>	<b>4,016</b>	<b>△ 3,640,000</b>	<b>263,010,592</b>
(2) 経常費用					
① 事業費					
学術集会費	118,207,164				118,207,164
学会誌発行費	18,847,459				18,847,459
会報・お知らせ発行費	1,696,375				1,696,375
剖検報発行費	14,565,381				14,565,381
専門医制度運営費	12,651,885				12,651,885
病理専門医部会費	7,947,748				7,947,748
支部運営経費	0				0
学術奨励等費	3,519,561				3,519,561
講習会等経費	4,340,517				4,340,517
各種委員会費	3,319,681				3,319,681
事業人件費	5,008,624				5,008,624
委託費	1,734,330				1,734,330
病理情報ネットワークセンター設立費	1,312,500				1,312,500
100周年記念誌刊行経費	4,678,117				4,678,117
100周年記念事業経費	5,930,557				5,930,557
100周年記念プロジェクト経費	307,363				307,363
支部集会等経費	15,857,857				15,857,857
<b>事業費計</b>	<b>219,925,119</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>219,925,119</b>
② 管理費					
給料手当	12,816,397				12,816,397
退職給付費用	1,618,869				1,618,869
福利厚生費	2,871,378				2,871,378

会議費	5,138,152				5,138,152
旅費交通費	612,370				612,370
通信運搬費	2,088,796				2,088,796
消耗什器備品費	84,957				84,957
消耗品費	801,200				801,200
印刷製本費	1,715,528				1,715,528
光熱水料費	216,331				216,331
賃借料	4,080,358				4,080,358
保険料	17,990				17,990
諸謝金	3,128,500				3,128,500
租税公課	1,823,300				1,823,300
支払負担金	850,000				850,000
支払寄付金	10,000,000				10,000,000
雑費	743,794				743,794
管理費計	48,607,920	0	0	0	48,607,920
③ 他会計への繰出額	0	3,640,000	0	△ 3,640,000	0
他会計への繰出額		3,640,000		△ 3,640,000	0
経常費用計	268,533,039	3,640,000	0	△ 3,640,000	268,533,039
当期経常増減額	△ 4,402,385	△ 1,124,078	4,016	0	△ 5,522,447
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,402,385	△ 1,124,078	4,016	0	△ 5,522,447
一般正味財産期首残高	171,073,230	99,875,176	20,139,644	0	291,088,050
一般正味財産期末残高	166,670,845	98,751,098	20,143,660	0	285,565,603
II 指定正味財産増減の部					
① 受取寄付金	2,635,000	0	0	0	2,635,000
受取寄付金	2,635,000	0	2,635,000		
② 一般正味財産への振替額	△ 17,243,457	0	0	0	△ 17,243,457
一般正味財産への振替額	△ 17,243,457	0	△ 17,243,457		
当期指定正味財産増減額	△ 14,608,457	0	0	0	△ 14,608,457
指定正味財産期首残高	19,894,791	0	0	0	19,894,791
指定正味財産期末残高	5,286,334	0	0	0	5,286,334
III 正味財産期末残高	171,957,179	98,751,098	20,143,660	0	290,851,937

## 12) 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

- (1) 当期から、公益法人会計基準（平成16年10月14日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ）に基づいて作成している。なお、新会計基準適用初年度のため、前事業年度の貸借対照表及び正味財産増減計算書の記載は省略している。
- (2) 引当金の計上基準  
退職給付引当金・・・従業員の退職給付に備えるため、当期末における期末要支給額を計上している。
- (3) 消費税等の会計処理  
税込方式によっている。

## 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位 円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	30,000,000	0	0	30,000,000
小計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
学術医療振興基金引当預金	99,875,176	2,515,922	3,640,000	98,751,098
国際交流基金引当預金	20,139,644	4,016	20,143,660	

100周年記念事業引当資産	39,894,791	2,899,500	17,507,957	25,286,334
退職給付引当預金	19,100,000	1,600,000	12,900,000	7,800,000
小計	179,009,611	7,019,438	34,047,957	151,981,092
合計	209,009,611	7,019,438	34,047,957	181,981,092

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位 円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	30,000,000	—	(30,000,000)	—
小計	30,000,000	—	(30,000,000)	—
特定資産				
学術医療振興基金引当預金	98,751,098	—	(98,751,098)	—
国際交流基金引当預金	20,143,660	—	(20,143,660)	—
100周年記念事業引当資産	25,286,334	(5,286,334)	(20,000,000)	—
退職給付引当預金	7,800,000	—	—	(7,800,000)
小計	151,981,092	(5,286,334)	(138,894,758)	(7,800,000)
合計	181,981,092	(5,286,334)	(168,894,758)	(7,800,000)

### 4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位 円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金 科学研究費補助金	(独)日本学術振興会	0	5,100,000	5,100,000	0	—
合計		0	5,100,000	5,100,000	0	

### 5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位 円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	17,243,457
受取寄付金への振替額	
合 計	17,243,457

### 6. 退職給付関係

#### (1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

#### (2) 退職給付債務及びその内訳 (単位 円)

① 退職給付債務	7,800,000
② 退職給付引当金	7,800,000

## (3) 退職給付費用に関する事項 (単位 円)

① 勤務費用	1,618,869
② 退職給付費用	1,618,869

## (4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算している。

## 7. その他

当期より支部会計を合算しており、期首における支部会計の一般正味財産 27,537,222 円を一般会計の一般正味財産期首残高に含めて記載している。

## 13) 財産目録

平成 24 年 3 月 31 日 現在

(単位 円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	85,168	
普通預金 みずほ銀行本郷支店	7,087,924	
普通預金 みずほ銀行本郷支店	12,820,577	
普通預金 みずほ銀行本郷支店	40,564,419	
普通預金 みずほ銀行本郷支店	41,246,020	
普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	155,883	
普通預金 みずほ銀行本郷支店	929,459	
普通預金 みずほ銀行本郷支店	343,684	
普通預金 みずほ銀行本郷支店	2,878,651	
定期預金 みずほ銀行本郷支店	130,164	
郵便振替貯金	523,125	
支部現金預金	24,143,570	
未収金		
学会誌発行収入等	232,646	
前払金		
家賃	195,300	
<b>流動資産合計</b>		<b>131,336,590</b>
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
普通預金	30,000,000	
(普通 三菱東京UFJ銀行本郷支店)		
<b>基本財産合計</b>	<b>30,000,000</b>	
(2) 特定資産		
学術医療振興基金引当預金	98,751,098	
(普通 三菱東京UFJ銀行春日町支店)		
国際交流基金引当預金	20,143,660	
(普通・りそな銀行本郷支店)		
100周年記念事業引当資産		
(郵便振替貯金)	25,260,037	
(現金)	26,297	
退職給付引当預金	7,800,000	
<b>特定資産合計</b>	<b>151,981,092</b>	
(3) その他固定資産		
保証金	2,508,780	
<b>その他固定資産合計</b>	<b>2,508,780</b>	
<b>固定資産合計</b>		<b>184,489,872</b>
<b>資産合計</b>		<b>315,826,462</b>

科目	金額	
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
未払金		
英文誌印刷費等	2,035,000	
日病会誌印刷費等	6,415,638	
未払消費税等	368,900	
未払法人税等	693,000	
前受金		
平成 24 年度会費・部会費等	3,206,000	
預り金		
英文誌カラー印刷	3,766,000	
社会保険料	202,419	
源泉所得税	206,060	
市区民税	158,200	
雇用保険料	89,428	
保険料	33,880	
<b>流動負債合計</b>		<b>17,174,525</b>
2. 固定負債		
退職給付引当金	7,800,000	
<b>固定負債合計</b>		<b>7,800,000</b>
<b>負債合計</b>		<b>24,974,525</b>
<b>正味財産</b>		<b>290,851,937</b>

◇平成 24 年度修正予算について：第 101 回（平成 24 年度）総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成 24 年度修正予算は、以下のとおりである。

## 1) 平成 24 年度収支予算書（修正）

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
<b>I. 収入の部</b>			
1. 基本財産運用収入	10,000	15,000	△ 5,000
受取利息収入	10,000	15,000	△ 5,000
			0
2. 会費収入	55,990,000	57,630,000	△ 1,640,000
正会員・学術評議員会費収入	20,000,000	22,400,000	△ 2,400,000
同一般会員会費収入	23,500,000	22,740,000	760,000
学生会員会費収入	10,000	10,000	0
賛助会員会費収入	100,000	150,000	△ 50,000
機関会員会費収入	380,000	330,000	50,000

病理専門医部会会員会費収入	12,000,000	12,000,000	0
3. 事業収入	141,198,000	131,700,000	9,498,000
学術集会収入	90,000,000	90,000,000	0
論文掲載料収入	900,000	900,000	0
広告料収入	800,000	800,000	0
刊行物発行収入	12,000,000	13,000,000	△ 1,000,000
専門医制度収入	17,000,000	16,000,000	1,000,000
病理専門医部会収入	3,700,000	4,000,000	△ 300,000
講習会等収入	5,000,000	4,500,000	500,000
支部総会等収入	9,298,000	9,298,000	0
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,500,000	0
4. 特定資産取崩収入	4,400,000	25,000,000	△ 20,600,000
100周年記念事業引当預金取崩収入	1,000,000	25,000,000	△ 24,000,000
「100周年記念特別基金」準備預金取崩収入	3,400,000	0	3,400,000
5. 雑収入	2,050,000	2,100,000	△ 50,000
受取利息収入	50,000	100,000	△ 50,000
雑収入	2,000,000	2,000,000	0
6. 他会計からの繰入金収入	3,650,000	0	3,650,000
病理学学術医療振興基金特別会計からの繰入金収入	3,650,000	0	3,650,000
当期収入合計 (A)	207,298,000	216,445,000	△ 9,147,000
前期繰越収支差額	114,162,065	92,521,000	21,641,065
収入合計 (B)	321,460,065	308,966,000	12,494,065

印刷費	2,000,000	2,000,000	0
備品費	200,000	200,000	0
消耗品費	400,000	300,000	100,000
光熱費	250,000	250,000	0
賃借料	4,000,000	4,000,000	0
諸会費	900,000	900,000	0
修繕費	100,000	100,000	0
嘱託料	3,000,000	2,500,000	500,000
租税公課 (消費税等)	1,000,000	700,000	300,000
(法人税等)	3,000,000	3,000,000	0
雑費	500,000	500,000	0
3. 特定預金支出	1,600,000	13,600,000	△ 12,000,000
退職給与引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0
100周年記念事業引当預金取得支出	0	12,000,000	△ 12,000,000
4. 予備費	1,000,000	1,100,000	△ 100,000
当期支出合計 (C)	206,706,000	212,750,000	△ 23,650,000
当期収支差額 (A-C)	592,000	3,695,000	1,745,000
次期繰越収支差額 (B-C)	114,754,065	96,216,000	2,520,000

(注) 1 短期借入金 (収支予算書に計上されているものを含む)  
最高限度額 0円

2 債務負担額 0円

## ② 病理学学術医療振興基金特別会計

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I. 収入の部			
1. 会費収入	3,000,000	3,000,000	0
正会員・学術評議員終身会費収入	3,000,000	3,000,000	0
2. 特定資産取崩収入	3,650,000	0	△ 3,650,000
学術医療振興基金取崩収入	3,650,000	0	△ 3,650,000
3. 雑収入	15,000	0	△ 15,000
受取利息収入	15,000	0	△ 15,000
当期収入合計 (A)	6,665,000	3,000,000	△ 3,665,000
前期繰越収支差額	0	0	0
収入合計 (B)	6,665,000	3,000,000	△ 3,665,000

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
II. 支出の部			
1. 特定預金支出	3,015,000	3,000,000	△ 15,000
学術医療振興基金取得支出	3,015,000	3,000,000	△ 15,000
2. 他会計への繰出金支出	3,650,000	0	△ 3,650,000
一般会計への繰出金支出	3,650,000	0	△ 3,650,000
3. 予備費	0	0	0
当期支出合計 (C)	6,665,000	3,000,000	△ 3,665,000
当期収支差額 (A-C)	0	0	0
次期繰越収支差額 (B-C)	0	0	0

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
II. 支出の部			
1. 事業費	173,606,000	166,000,000	7,606,000
学術集会経費	90,000,000	89,000,000	1,000,000
学会誌発行費経費	16,000,000	15,000,000	1,000,000
会報・お知らせ発行経費	1,500,000	2,000,000	△ 500,000
剖検輯報刊行経費	10,000,000	11,000,000	△ 1,000,000
専門医制度運営経費	10,000,000	10,000,000	0
病理専門医部会経費	8,000,000	8,000,000	0
学術奨励等経費	3,500,000	3,000,000	500,000
講習会等経費	3,500,000	3,500,000	0
各種委員会経費	4,000,000	3,500,000	500,000
事業人件費	5,000,000	8,000,000	△ 3,000,000
100周年記念事業経費	0	13,000,000	△ 13,000,000
病理情報ネットワークセンター運営費	1,000,000	0	1,000,000
「100周年記念特別基金」プロジェクト経費	3,400,000	0	3,400,000
支部総会等経費	17,706,000	0	17,706,000
2. 管理費	30,500,000	32,050,000	△ 1,550,000
人件費	8,000,000	10,000,000	△ 2,000,000
福利厚生費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000
交通費	450,000	400,000	50,000
通信運搬費	2,500,000	2,700,000	△ 200,000
会議費	2,200,000	2,000,000	200,000

(注) 1 短期借入金 (収支予算書に計上されているものを含む)  
最高限度額 0円

2 債務負担額 0円

③ 病理学国際交流基金特別会計

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
<b>I. 収入の部</b>			
1. 雑収入	5,000	0	△ 5,000
受取利息収入	5,000	0	△ 5,000
当期収入合計 (A)	<b>5,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 5,000</b>
前期繰越収支差額	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
収入合計 (B)	<b>5,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 5,000</b>

(単位 円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
<b>II. 支出の部</b>			
1. 特定預金支出	5,000	0	△ 5,000
学術医療振興基金取得支出	5,000	0	△ 5,000
2. 予備費	0	0	0
当期支出合計 (C)	<b>5,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 5,000</b>
当期収支差額 (A-C)	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
次期繰越収支差額 (B-C)	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

(注) 1 短期借入金 (収支予算書に計上されているものを含む)  
最高限度額 0円

2 債務負担額 0円

2) 収支予算書総括表

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科目	合計	一般会計	病理学学術 医療振興基金 特別会計	病理学 国際交流基金 特別会計
<b>I 収入の部</b>				
1. 基本財産運用収入	10,000	10,000	0	0
2. 会費収入	58,990,000	55,990,000	3,000,000	0
3. 事業収入	141,198,000	141,198,000	0	0
4. 特定資産取崩収入	8,050,000	4,400,000	3,650,000	0
5. 雑収入	2,070,000	2,050,000	15,000	5,000
6. 繰入金収入	3,650,000	3,650,000	0	0
当期収入合計	<b>213,968,000</b>	<b>207,298,000</b>	<b>6,665,000</b>	<b>5,000</b>
前期繰越収支差額	<b>114,162,065</b>	<b>114,162,065</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
収入合計	<b>328,130,065</b>	<b>321,460,065</b>	<b>6,665,000</b>	<b>5,000</b>
<b>II 支出の部</b>				
1. 事業支出	173,606,000	173,606,000	0	0
2. 管理費	30,500,000	30,500,000	0	0
3. 特定預金支出	4,620,000	1,600,000	3,015,000	5,000
3. 繰入金支出	3,650,000	0	3,650,000	0

4. 予備費	1,000,000	1,000,000	0	0
当期支出合計	<b>213,376,000</b>	<b>206,706,000</b>	<b>6,665,000</b>	<b>5,000</b>
当期収支差額	<b>592,000</b>	<b>592,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
次期繰越収支差額	<b>114,754,065</b>	<b>114,754,065</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

3) 平成 24 年度 正味財産増減予算書

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科目	当年度
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
<b>1. 経常増減の部</b>	
(1) 経常収益	
① 基本財産運用益	10,000
基本財産受取利息	10,000
② 特定資産運用益	35,000
特定資産受取利息	35,000
③ 受取会費	58,990,000
学術評議員受取会費	20,000,000
終身会員受取会費	3,000,000
一般会員受取会費	23,500,000
学生会員受取会費	10,000
機関会員受取会費	380,000
賛助会員受取会費	100,000
病理専門医部会受取会費	12,000,000
④ 事業収益	141,198,000
学術集会収益	90,000,000
論文掲載料収益	900,000
広告料収益	800,000
刊行物発行収益	12,000,000
専門医制度収益	17,000,000
病理専門医部会収益	3,700,000
講習会等収益	5,000,000
支部総会等収益	9,298,000
賠償保険事務費収益	2,500,000
⑤ 受取寄付金	4,400,000
受取寄付金	4,400,000
⑥ 雑収益	2,035,000
受取利息	35,000
雑収益	2,000,000
<b>経常収益計</b>	<b>206,668,000</b>
(2) 経常費用	
① 事業費	173,606,000
② 管理費	32,100,000
<b>経常費用計</b>	<b>205,706,000</b>
当期経常増減額	962,000
<b>2. 経常外増減の部</b>	
(1) 経常外収益	
<b>経常外収益計</b>	<b>0</b>
(2) 経常外費用	
<b>経常外費用計</b>	<b>0</b>
当期経常外増減額	0

当期一般正味財産増減額	962,000
一般正味財産期首残高	285,565,603
一般正味財産期末残高	286,527,603
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
① 一般正味財産への振替額	△ 4,400,000
一般正味財産への振替額	△ 4,400,000
当期指定正味財産増減額	△ 4,400,000
指定正味財産期首残高	5,286,334
指定正味財産期末残高	886,334
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>287,413,937</b>

## ◆会員数（平成 24 年 7 月 31 日現在）：

正会員	3,879 名
（学術評議員	1,380 名）
（一般会員	2,499 名）
名誉会員	370 名
学生会員	5 名
賛助会員	1 名
機関会員	78 名
計	4,333 名

## ◆役員一覧（平成 24 年度）：

日本病理学会の役員は、以下のとおりである。

理事および監事（任期：平成 26 年 3 月 31 日まで）

○理事：19 名（ABC 順）

理事長	深山正久
副理事長	岡田保典
副理事長	黒田誠
常任理事	安井弥
常任理事	落合淳志

理事	伏木信次
理事	笠原正典
理事	加藤良平
理事	根本則道
理事	野島孝之
理事	小田義直
理事	笹野公伸
理事	白石泰三
理事	高橋雅英
理事	上田真喜子
理事	八木橋操六
理事	山口朗
理事	横山繁生
理事	吉野正
監事	井藤久雄
監事	中沼安二

◇ 社団法人日本病理学会事務局：菊川敦子、宮本いづみ、井口令子、大藪いづみ

・住所：〒113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5  
聖堂前ビル 7 階

・TEL：03-6206-9070

・FAX：03-6206-9077

・E-mail：jsp-admin@umin.ac.jp（事務局）

・E-mail：pin@wiley.com（Pathology Int. 編集室）

・ホームページ：http://pathology.or.jp/

・郵便振替口座：口座番号 00130-4-32817

加入者名 社団法人日本病理学会